

第8回 全国路地サミット2010 in NIIGATA

開催報告書

2011年3月

全国路地サミット2010 in NIIGATA 実行委員会

全国路地のまち連絡協議会

もくじ

全国路地サミット2010 in NIIGATA

I. サミット概要	1
II. シンポジウム記録	7
1. 挨拶	7
2. 基調講演「坂の下の路地～断片的まち歩きのおすすめ」	9
3. 事例報告	43
(1) 全国路地のまち連絡協議会	43
(2) 神戸市	61
(3) 墨田区向島	71
(4) 新潟県上越市	83
4. パネルディスカッション「まちの楽しみ方 その先に見えるもの」	95
第1部：楽しみながら 新潟島の路地再発見	95
第2部：ROJI のむこうに見えるもの	147
5. 閉会挨拶	159
III. その他記録	161
当日配布資料	163
まちあるき記録（10月23日）	199
シンポジウム写真	209
まちあるき記録（10月24日）	215

I. サミット概要

全国路地サミット2010 in NIIGATA ロジノリ！ 自分のまちの楽しみ方

開催日：2010年10月23日（土）・24日（日）

会場：三業会館（新潟市中央区西堀前通9番町）および周辺

主催：全国路地サミット2010 in NIIGATA 実行委員会

共催：全国路地のまち連絡協議会 協賛：株式会社日本建築住宅センター

協力：新潟市・新潟大学工学部都市計画研究室

後援：NPO 法人日本都市計画家協会

10月23日（土）

■ROJI-NORI まち歩き

時間：10:00～12:00

コース：白山神社～古町・本町界限～西堀寺院群～三業会館

参加者数：44名

路地サミット シンポジウム

時間：13:00～17:00

会場：三業会館

参加者：125名（出演者含む うち県外参加者50名）

■基調講演

「坂の下の路地～断面的まち歩きのすすめ～」皆川典久氏（東京スリバチ学会会長）

■事例報告

全国の路地のまちづくり報告

木村晃郁氏（全国路地のまち連絡協議会事務局）

神戸市（前年度サミット開催地）

松原永季氏（スタジオ・カタリスト代表）

墨田区向島

小林綾子氏（料亭きよし若女将）

上越市直江津

磯田一裕氏（地域住環境建築研究所）

■パネルディスカッション テーマ「まちの楽しみ方 その先に見えるもの」

【第1部】「楽しみながら 新潟島の路地再発見」

司会

野内隆裕氏

伊勢みずほ氏（フリーアナウンサー）

コメンテーター

皆川典久氏

パネラー

八木洋氏（新潟シティガイド 代表）

白倉敏幸氏（千灯まつり実行委員長）

池田博俊氏（新潟市政策監）

【第2部】「ROJIの向こうに見えるもの」

司会

山中知彦氏（新潟県立大学国際地域学部国際地域学科教授）

パネラー

篠田昭氏（新潟市長）

今井晴彦氏（全国路地のまち連絡協議会世話人）

伊勢みずほ氏

■交流会

次回開催地 向島の宣言

■夜学

夜学1：「新潟と向島の花街」

司会：岡崎篤行氏（新潟大学工学部都市計画研究室 准教授）

ゲスト：小林綾子氏（料亭向島きよし若女将）

篠田昭氏（新潟市長）

行形和滋氏（行形亭・三業協同組合理事長）

夜学2：「新潟花街 夜の街並探索」

案内人：上田浩子氏（Roji-ren Niigata）

ゲスト：稲葉裕氏（株式会社フォーライツ）

夜学3：「新潟のまちネタを肴に飲む」

10月24日（日）

■新潟市内まち歩きツアー

時間：10：00～12：00

コース：下記4コース

参加者：各コース10名・・・合計40名

「下町お店うんめいもん巡り」

「にいがた湊巡り」

「西大畑お屋敷巡り」

「本町・上古町巡り」

■関連イベント：鯛車のまち 巻あるき

時間：10：00～12：00

コース：巻郷土資料館～巻鯛車の館見学～巻のまちなか歩き～意見交換会

参加者：17名

10月23日(土)

午前9:45～午前12:00 ROJINORI まちあるき

参加者:44名 スタッフ:15名(シティガイド含む)



1. 集合場所の白山神社に続々と参加者の皆さんが集まってきます。



2. 野内実行委員長から挨拶です。



3. 路地をひたすら歩きます。



4. 路地には発見がいっぱいです。
(壁一面のキウイです。)



1. 野内実行委員長から開会の挨拶です。



2. 基調講演は東京スリパチ学会の会長、皆川典久さんです。



3. 各地の団体から活動報告がありました。



4. 会場は満員の大盛況です。新潟市民だけでなく、県外から多くの参加者が集まりました。



5. 会場には新潟の小路を紹介する巨大パネルと、小路のイラストのスタンプが設置されました。



6. パネルディスカッション第1部では、新潟の「ノリ」で楽しく活動の紹介をしました。



7. パネルディスカッション第2部では、路地を活かしたまちづくりの今後について、議論が行われました。



8. 立場の異なる3名のパネラーからご意見を頂きました。

午後5:00～午後9:00 交流会(夜学)



1. 交流会の冒頭、篠田市長から歓迎の挨拶がありました。



2. 夜学では、花街文化について、関係者のトークが行なわれました。

10月24日(日)

午前 10:00～午前 12:00

新潟シティガイドがお勧めするみなとまち新潟・まちあるき



1. 新潟カトリック教会
(西大畑お屋敷コース)



2. 榎谷小路の解説板
(本町・上古町コース)



3. みなとぴあ
(にいがた湊コース)



4. フクヤ菓子舗
(下町お店うんめいもんコース)

II. シンポジウム記録

1. 挨拶

(全国路地サミット 2010 in NIIGATA 実行委員長 野内 隆裕)

□ 実行委員長挨拶・・・全国路地サミット 2010 in NIIGATA 実行委員長 野内隆裕

皆さんこんにちは。ようこそ新潟に来て下さいました。ありがとうございます。

全国路地サミット 2010 in NIIGATA の実行委員長を務めております野内隆裕でございます。

今回、新潟路地サミットのお題を「ロジノリ～自分のまちの楽しみ方」と付けさせていただきました。新潟では何年か前から、小路をとおして自分のまちを見たり、楽しんだりする人たちの活動が、少しずつ生まれ、つながってきております。そして、そんな風を楽しんでいる様子を、今日全国から来ている皆さんに紹介し、体験し、楽しんでもらって、帰って行ってもらえたらありがたいと思っております。かなり悪のりの部分もありますが、その悪のりした部分は「ウラノリ」というお手元にある資料がございます。

挨拶としては簡単ですがよろしく申し上げます。

2. 基調講演「坂の上の路地～断面的まち歩きのおすすめ～」

(東京スリバチ学会 会長 皆川 典久 氏)

□ 講師プロフィール

1963年 群馬県前橋市出身

2003年 GPS アーチスト石川初氏と東京スリバチ学会を設立

2010年 TV番組「タモリ倶楽部」に出演（タモリさんらと地形マニアのバトルを繰り広げる。）

専門 建築設計，インテリア設計

弱点 味オンチ，猫背

□ 基調講演・・・東京スリバチ学会 会長 皆川典久 氏



坂の下の路地
～断面的まち歩きのおすすめ～

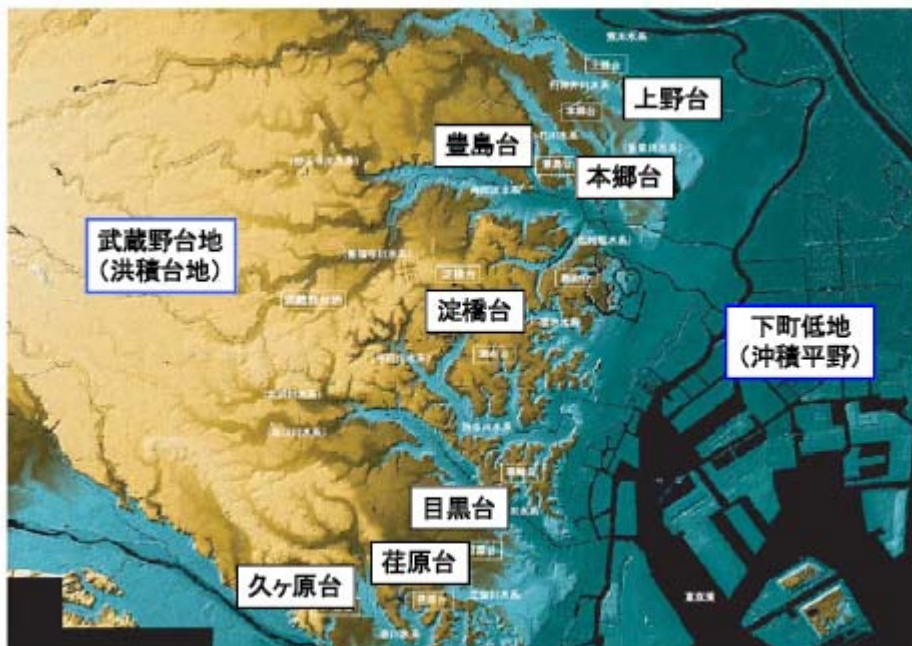
東京スリバチ学会編

東京スリバチ学会の皆川と申します。東京スリバチ学会から「断面的まち歩きのおすすめ」を始めさせていただきます。



ローマには七つの丘がある、と言われている。

これはローマの地形を非常に模式的に表したものだ。ローマには7つの丘があると言われている。テヴェレ河の支流が丘を刻み、特徴的に7つの丘が連なってできている。



東京にだって七つの丘がある。(標高10m以下を水色に着色)

これは5m単位の標高データを、カシミールというソフトを使って着色した東京の地図。右側のブルーの部分の下町、左側の茶色い部分が武蔵野台地。この絵で分かる通り、東京の地形は非常に大地に谷が切れ込んだ特徴的な地形をしている。武蔵野台地の東の端に東京の都心が位置している。西から東へ流れる神田川や渋谷川などの幾筋かの川が台地を刻んで、東京にも7つの丘がある。

台地の数だけ谷がある。
谷あつての台地。

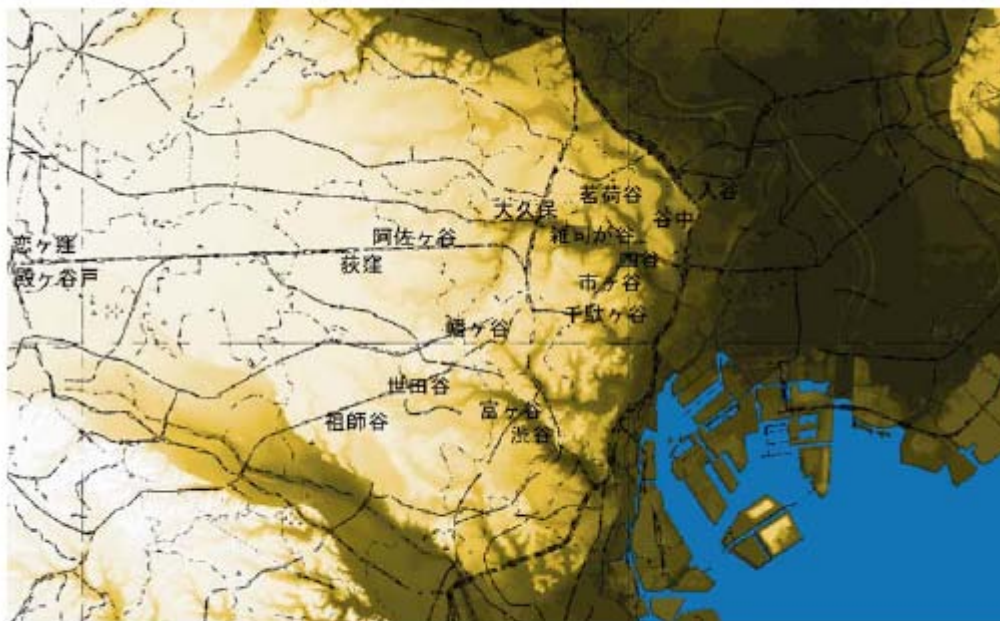
で、東京に谷なんて、あつたっけ??

坂が多いのは知っているけど..



地名の多くは地形をあらわす。(スリバチコード)

この地図は真中が山手線。山手線の中の地名だけでも渋谷，四谷，市ヶ谷，千駄ヶ谷，谷中など「谷」の付く地名が多い。



東京は谷(スリバチ)の都。

郊外でも幡ヶ谷，世田谷，祖師谷など，谷が付いている地名はだいたい地形的には谷になっている。谷以外では，窪（大久保，荻窪など），沢や池が付く地名も地形的には（スリバチ学会としては）スリバチコードと位置づけている。



表参道：東京で一番有名な対の坂⇒実は大きな谷

これは原宿の駅前の歩道橋から青山方面を見た写真。

人の目線で谷を眺めてみると，表参道から明治通りに向かって，ゆるやかな坂で下りて行く，そして今度は，青山方面に向かって登り坂になる。

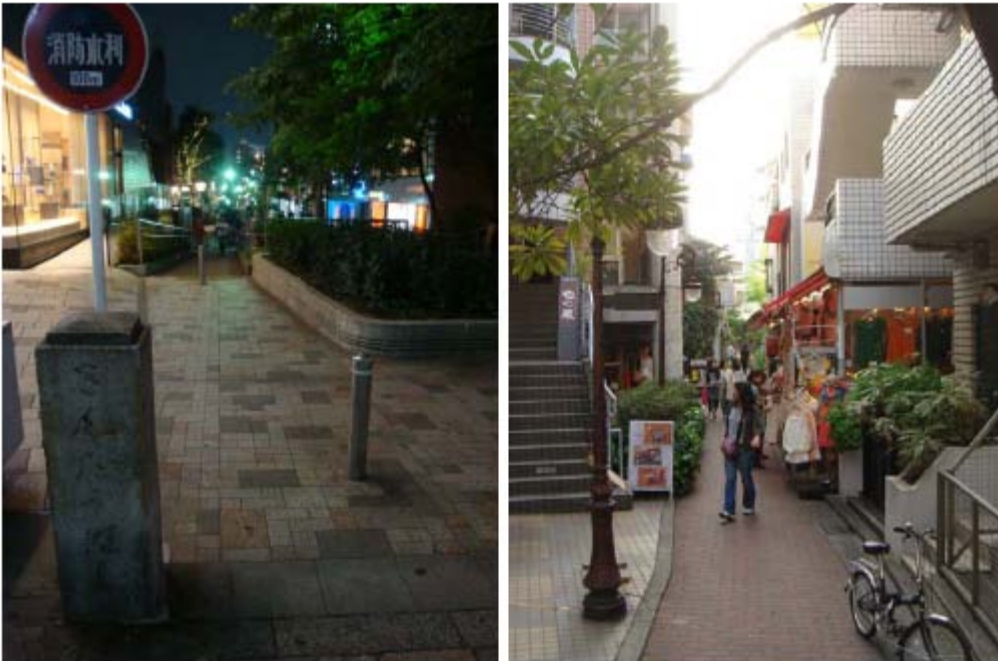
向かい合った坂があるところは谷が存在している。



谷の底、キャットストリートは渋谷川の川跡です。

坂の下は，今ではキャットストリートと呼ばれているが，若者達で賑わう路地になっている。

ここはもともと渋谷川の川跡だった。このキャットストリートの周辺は路地が多く、今でも賑わっているところ。



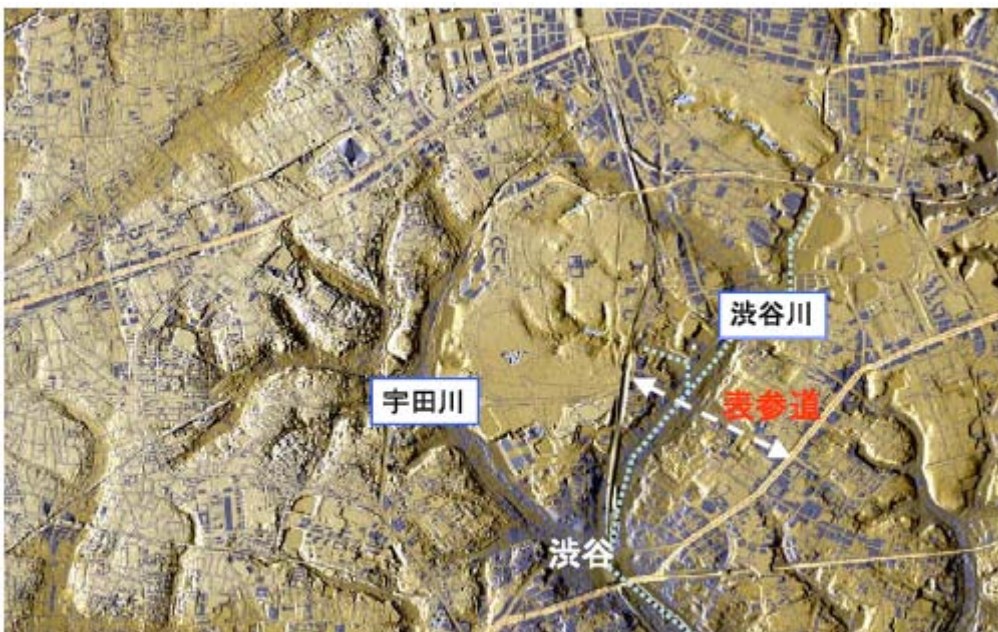
谷に下りればホッとできる路地がある！

坂を下りて行くと、いろいろなものに出会える。

まずは川跡。左の写真はキャットストリートの入口だが、今でも橋の親柱が見える。

右側の方は、今はブラウンの小道と呼ばれているが、渋谷川の支流の川跡が、若者に人気の路地になっている。

坂を下りて行くと、ホッとできる空間がある。



原宿キャットストリートは渋谷川が刻んだ長い谷です。

これも、同じ標高データをカシミールで表現した地図だが、地図好きの方だともうこれだけで、たまんないなあという感じ。

真中の盛り上がっている場所が明治神宮。

右側のブルーの点線のところに渋谷川が流れていて、先ほどの表参道の写真は、渋谷川をまたぐ表参道の写真。

渋谷川の源流は、明治神宮の中にある清正の井が一つで、新宿御苑の中にある水源が一つ。そして渋谷川はずっと渋谷の方へ流れ、もう一つの川である宇田川と合流する。

渋谷というのは、鉄道のターミナルだけでなく、川のターミナルでもある。

この地図を見ているだけでも東京には谷が数多くあるのが分かる。



元々私も路地や古い街が好きで歩いていたが、東京の場合はどこに行っても、だいたい坂を下りて行くとホッとできる空間がある。裏を返すと、地形をきっかけに歩くと素敵な町に出会えるのでは、と考えたのがきっかけで、スリバチ学会を始めた。

東京の場合は坂を下りて行くと、麻布十番や谷中、戸越銀座、本郷菊坂など、ホントに良い街に出会える。

東京の場合ですが、

「すべての坂はスリバチに通ず」

坂を下りて行くと（スリバチに行くと）路地がある。ということで、今日のテーマにいきなりつながりました。これで事務局の方も、一応ホッとしたかなということで、これからはちょっと東京のスリバチ自慢ということにお付き合い頂きたいと思います。

「全ての坂はスリバチに通ず」ということで、東京の坂は、一旦下りるとまた上る。いくつか写真をご紹介します。



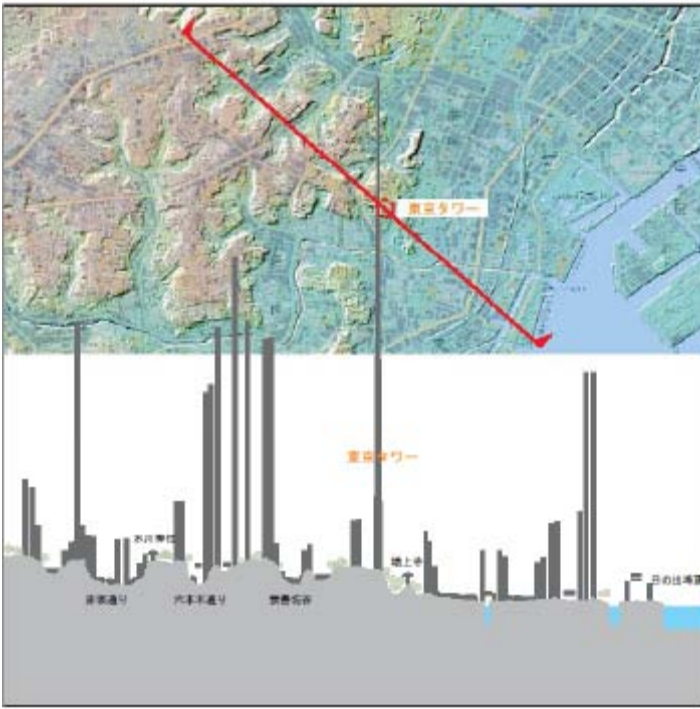
左側が薬研坂（港区赤坂），薬研というのは薬を磨り潰すスリバチのことであり，まさに対の坂になっている。

右側が我善坊谷（港区麻布台）という場所で，ここも反対側の丘が見えますが，下りてまた上る。



左側の写真が八雲（目黒区）。あのチンさむロード（TV番組のコーナー）にも出て来そうなもの凄い坂。右側が板橋の坂。

この4枚の写真を見て気が付くことがある。坂の下に行くと路地と小さな建物がたくさん集まっている。一方，丘の上はマンションなどの高層の建物がある。これが東京の非常に特徴的な景観を作っている。



分かりやすく説明すると，上の地図が港区の標高差を表した地図だが，赤い線で左上の六本木から，右下の浜松町辺りまで切り，断面図を下に示した。

下の断面図は実際の高低差より3倍くらい強調しているが，谷の底には今でも非常に小さな建物，住宅地が密集しており，丘の上は高い建物が多い。

ここから分かるように，東京はあたかも建物が地形を強調，増幅するように，街の景観が出来ている。真中に東京タワーがあるが，東京タワーも例外ではなく，台地の突端の岬状の場所に建っている。このように建物が地形を強調していることを，東京スリバチ学会では「スリバチの第1法則」と呼んでいる。



建物が地形を強調している。(スリバチの第1法則)

これは非常に分かりやすい写真だが，谷の底には写真のような一軒家や木造の住宅があり，丘の上に行

くに従って非常に高い建物が建っている。これが東京の特徴的な景観を作っているということ。



丘の上の集合住宅・丘の下の住宅集合(地形の強調)

この写真は「丘の上の集合住宅・丘の下の住宅集合」と言っているが、高台の方にやはり高い建物があり、足元に長屋などの小規模の建物がたくさんある。これも地形強調の一つの代表的な例。これは左が港区で右が板橋区という、東京では本当に別の場所なのだが、どこに行っても、こういう風景にデジャヴのように突然出会うと言うのが、非常に面白い。



現代(麻布十番付近)



江戸時代

ここで、なぜこのようなことが起こったのか、歴史を振り返ってみたい。
左側の地図が、現代の地図に、高台を緑色に着色をしたもので、右側の地図が江戸時代のもの。

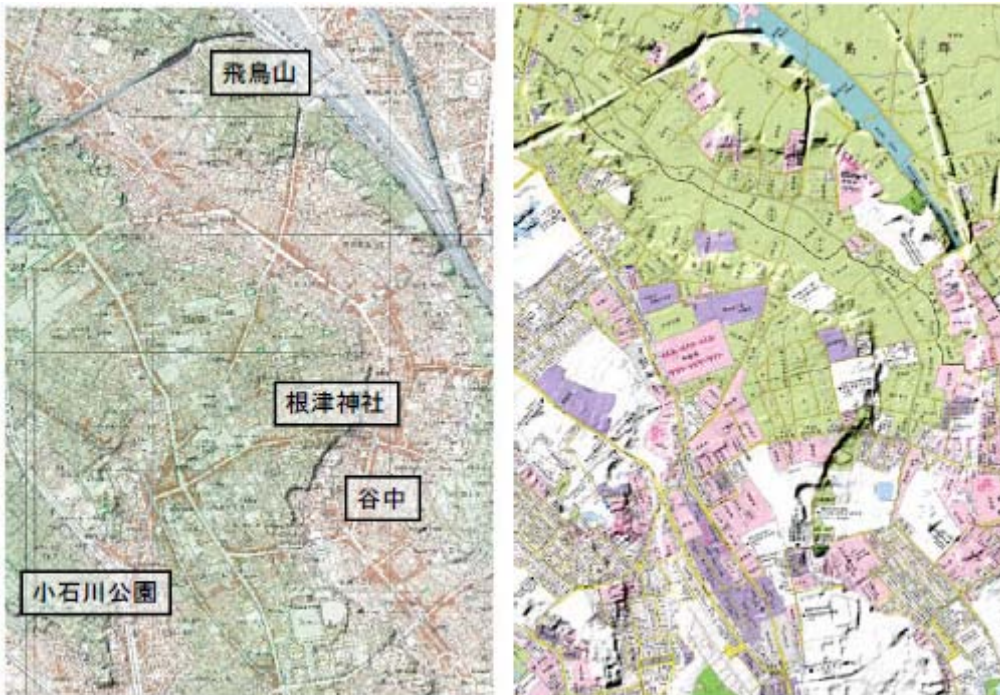
左側の地図で見ると、麻布十番は古川（渋谷川の下流の名称）が作った下町。そして、緑色の高台の方が、飯倉や麻布などの、いわゆる高級住宅地があるところ。

江戸時代、元々こういうところは主に大名屋敷だった。非常に広大な敷地を持つ大名屋敷が高台にあり、一方、渋谷川の下流の川沿いの方は、町人地と言われるような（庶民の）住宅地だった。

これが、江戸から明治に変わった時に、大名屋敷の方は政府系の建物や大使館、病院や学校等に払い下げになる。あるいは資本家の大邸宅になる。港区の場合は各国の大使館ができた。

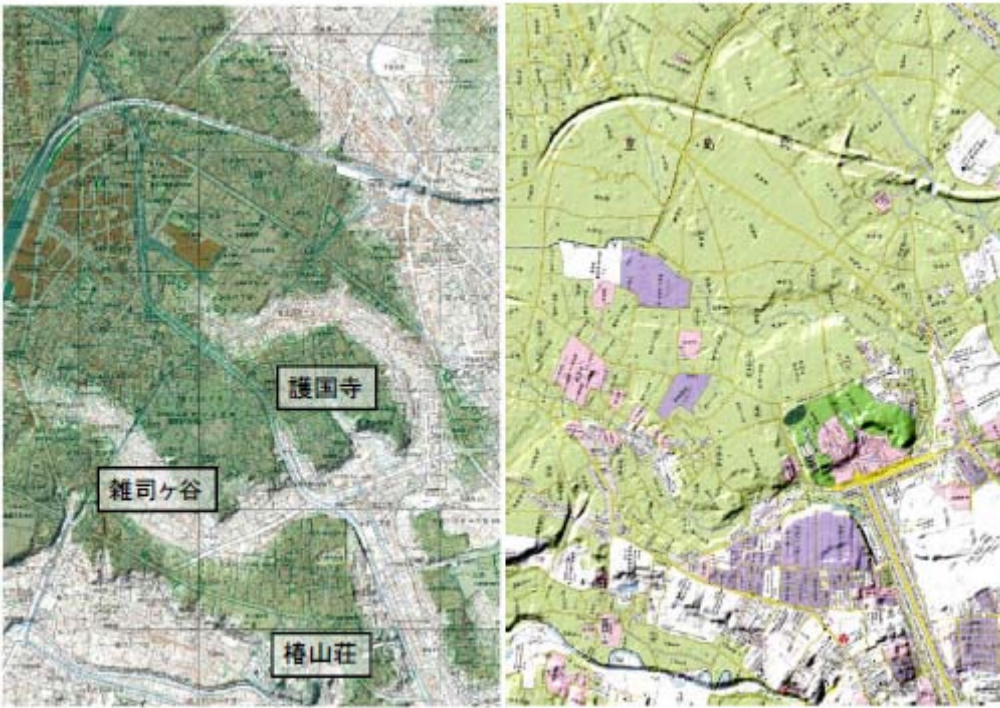
そういった形で、高台の方は大きな敷地を使いながら、建物が高層化していく。一方、下町の方は、元々の町人地の区割りや敷地の大きさを変えずに新陳代謝が進んでいく。

ということで、東京の景観は、時代を経て地形を強調するようなベクトルが働いてきた。



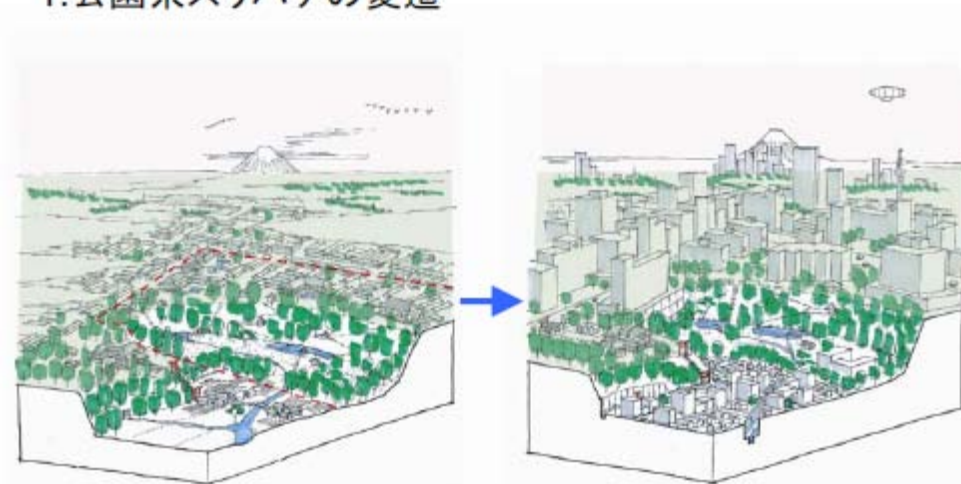
これは東京中どこ行っても同じようなことが起きており、谷中の地図で説明する。

谷中というのは藍染川が作った谷であり、その名の通り「谷」なのだが、江戸時代、右側の方、分かる通り、農村地や、町人地だった。そして高台の方はやはり大名屋敷だった。



これは護国寺周辺の地図。護国寺は丘を背に建っている。正面の谷が続いているが、これが門前町。この地図では下の方に神田川が流れている。神田川に向けた南斜面の高台が文京区目白台になるが、江戸時代はやはりここも住環境の良い高台ということで、本多家や細川家の大名屋敷があった。それが明治になり、資本家や、華族、皇族関係の土地になった。現在は椿山荘（結婚式場・ホテル）などに払い下げられて、活かされている。

1.公園系スリバチの変遷



江戸期のイメージ

現代のイメージ

江戸から明治、昭和にかけて、谷の変遷を辿ると、町人地だったところは今でも下町、それからもう一つは公園として活かされているところもある。

スリバチ学会では一つは「公園系スリバチ」と呼んでいるが、これを図で確認してみたい。

東京のスリバチは今でも水が湧いているが、もともと水の湧き出る池があり、図の赤で囲った部分のように、その池の周りに回遊式の庭園を持つような、大きな大名屋敷があった場合は、時代を経て、その谷の庭園を活かしたホテルや、公園として開放されているところがいくつか見られる。

2. 下町系スリバチの変遷



江戸期のイメージ

現代のイメージ

一方で「下町系スリバチ」と呼んでいるが、江戸時代、谷の下は農村地や下町であり、丘の上は比較的小さな旗本の屋敷や組屋敷があった。

そこが時代の変遷と共に、丘の上は比較的大きな敷地を活かしながら、建物が高層化し、谷の下では小さな区割りをそのまま変えずに町が新陳代謝し、非常に対比的な街が出来ている。これが東京の面白さ。



いくつか谷戸庭園を紹介する。

これは椿山荘。今でも古香井という水の湧く井戸があり、非常に緑と水の豊かな公園が楽しめる。



これは小石川公園。左側が崖，高台になっているが，今でもこの「はけ（崖面）」のところどころから，水が湧いている公園。



これは新宿御苑。ここに行けば信州清里高原に行かなくても良いくらい，すがすがしい感じがするが，東京には本当にこのような谷戸庭園が沢山あり，スリバチ学会的には世界遺産にしても良いのではと考えるくらい，非常に貴重な存在だと思う。

代表的スリバチの紹介 1 四谷荒木町(下町系一級スリバチ)



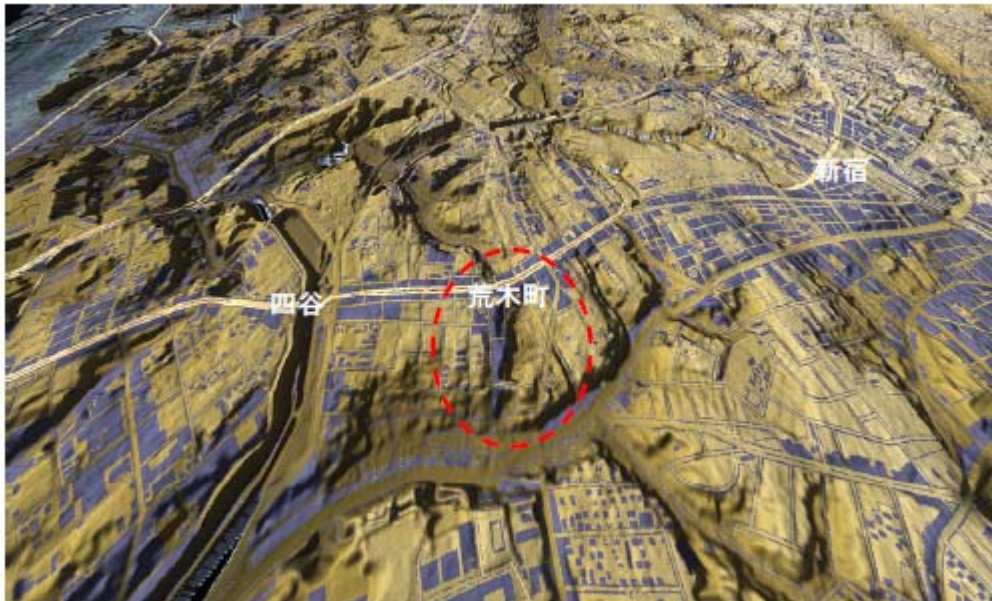
もう一つが「下町系スリバチ」ということで、こちらの方がスリバチ学会的には萌える世界。またカシミールで作成した地図で説明すると、このように東京には武蔵野台地に刻まれた谷が、無数にあり、これがフラクタルに入り組んでいる。地形学的には、鹿の角のように谷が発達していると言う。かれこれ8年ほど谷を歩いているが、まだまだネタが尽きない。東京は本当に谷の都だと思う。



紅葉川支流を堰き止めた4方向に囲まれた谷戸 (一級スリバチ)

「下町系スリバチ」の事例の最初として、東京の中心部、渋谷と四谷の間あたりに位置している四ツ谷荒木町を紹介する。上の地図の真ん中あたりに窪みがある。荒木町と書いてあるところで、駅で言うと東京メトロの四谷三丁目駅。下の図を見るとスリバチの第一法則がここでも起きているのが分かる。谷の下には小さな住宅、上の方

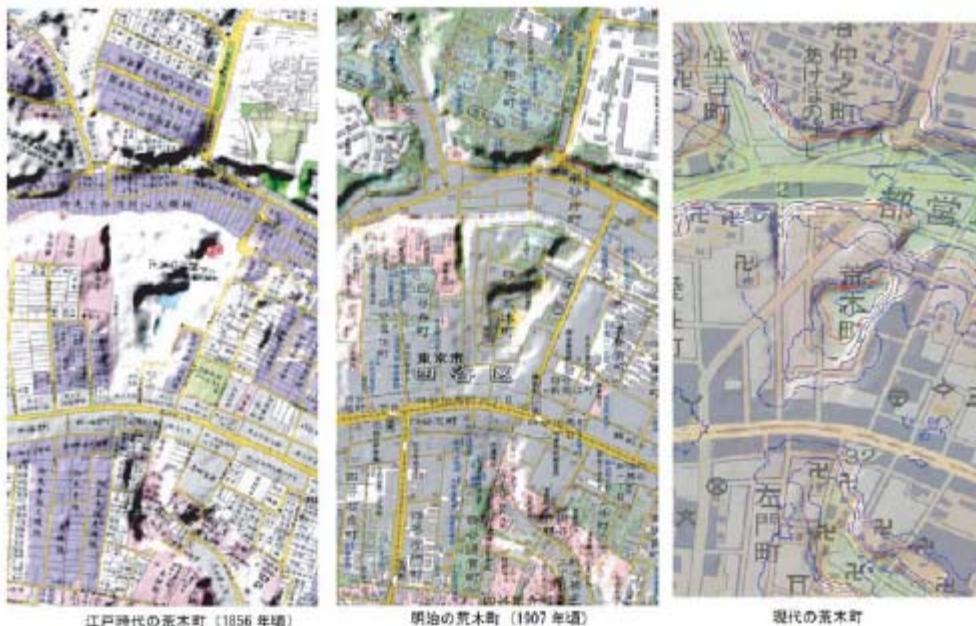
には高層住宅などの高い建物が並んでいる。



荒木町の標高データを鳥瞰で見てみたい。真中の赤い破線で囲ったところが荒木町のくぼみ。ここの特徴は、ただの川跡ではなく、赤丸の下あたりで、ダムで閉じられた窪みだということ。よって、ここは正真正銘4方向閉じられたスリバチということになる。スリバチ学会はこれを「一級スリバチ」と呼んでいる。

ではなぜこのような一級スリバチが生まれたか検証してみるが、スリバチは元々川が刻んだ谷なので、4方向閉じられることはあり得ない。

荒木町の変遷



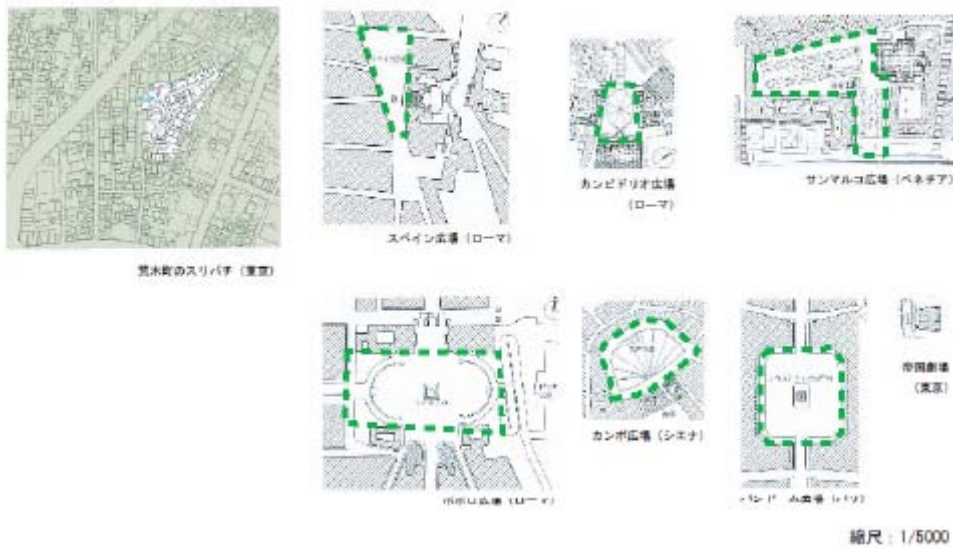
変遷を辿って見ると、一番左の地図が江戸時代、この頃、ここに松平摂津守の御屋敷があったのだが、このお殿様が庭園、池を作るためにダムを作った。一説ではダムマニアだったという噂もある。この時に回遊式庭園が作られたのだが、明治の初期になって、庭園の規模が小さかったことから、一時荒れ放題になった。

しかし、水場というのは何か怪しい雰囲気があって、その後、芝居小屋や花柳界が集まり、だんだん荒

木町は栄えていった。

現在はそういった雰囲気を残しつつ、多少料亭が残っているような街。

荒木町一級スリバチの大きさ比較

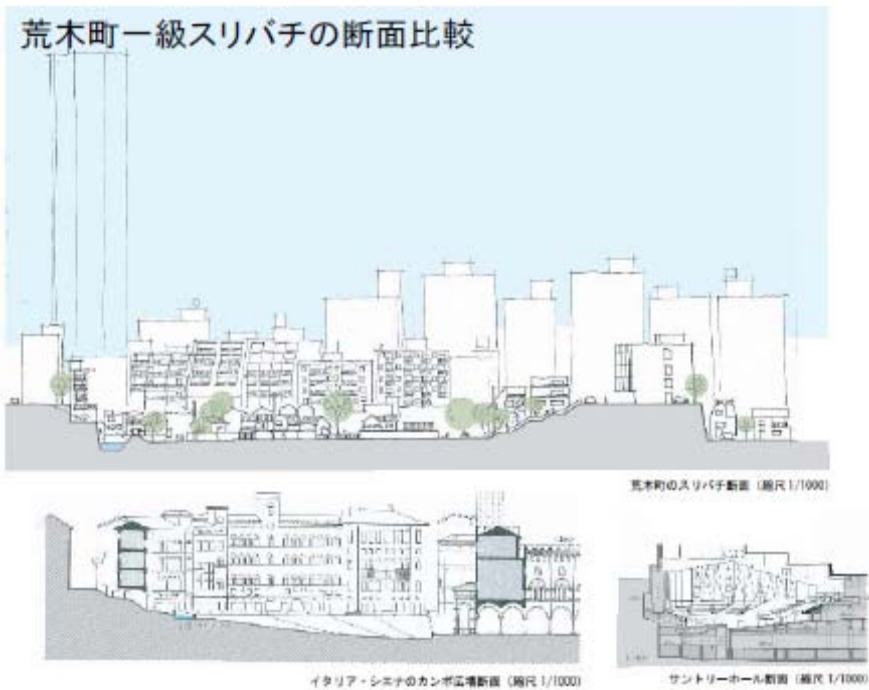


この荒木町の一級スリバチの大きさというのは、実際に行ってみると非常に良いスケール。

ヨーロッパの広場と比較すると、大きさ的にはローマのスペイン広場、ベネチアのサンマルコ広場、シエナのカンポ広場などと同じくらい。

これをタモリさんに自慢したところ、「行ったことねーよ」と軽くかわされました。

荒木町一級スリバチの断面比較



この荒木町のスリバチを断面図で見ると、上の絵にある通り、谷の底には住宅がびっしり詰まっていて、それを囲む丘の上には集合住宅が並んでいる。非常に特徴的な風景。

谷の左の方には今でも水の湧く無知の池というのがある。

先ほどのシエナのカンポ広場を下に載せたが、ほぼ同じスケールで、大きさも高さも似たような感じなので、スリバチ学会的には好印象。

荒木町の路地紹介



いよいよ路地好きの皆さん好きな写真です。荒木町の窪みはだいたい10m～15mくらいだが、今でも右の写真にある通り、石畳の路地が残っている。

(坂の町の風情では) 神楽坂が有名だが、荒木町もまたこのしっとり感が良い。



花街の面影を残す路地

左側の写真にも、まだ花街の雰囲気が残っている。右側の写真がダムの上から、荒木町の窪みを見降ろした写真。



スリバチには雨が似合う(江戸時代からある策の池にて)

窪みの中央にはまだこのような津の守の池が残っている。弁天様も祀られている。中島みゆきは海に行くなら九月と歌ったが、「スリバチ的に行くなら雨の日に」とスリバチ学会では言い、人も少なく、スリバチはなんとなく湿っぽいところが似合う。



江戸時代に描かれた錦絵
滝のある名所だった。

「東京名所三十六戯撰 津の守坂 恵ん滝」(昇奇一景)

この無知の池は、江戸時代は滝もある名所だったという錦絵も残っている。



荒木町のスリバチを高台に上って見降ろすと、こんなパノラマが広がる。谷の底にはぎっしり住宅があり、集合住宅が丘の上からぐるっと囲んでいる。何かヨーロッパの広場のよう。



イタリアのシエナのカンポ広場に行った時に、広場に面したオープンカフェでトスカーナのワインを飲みながら、（この風景は）荒木町のように思った写真。



東京のスリバチを歩いていると、いろんな世界中の街に出会える。
右側の写真がスペイン、コルドバのユダヤ人街の路地。ここ行った時も、東池袋のようだと思う、左側は東池袋の写真。



同じく左側がパリのパサージュの写真で、ここ行った時も、雑司ヶ谷のようだと思う、右側が雑司ヶ谷の路地の写真。

代表的スリバチの紹介 2 麻布ガマ池(下町系二級スリバチ)



もう一つ、代表的な(スリバチ系)路地が麻布。麻布は高級住宅地とされているが、谷あつての高台。この台地の周りには、いくつかの谷筋があり、今でも水の湧き出る池がある。



有栖川公園や衆楽園、ブラタモリでも紹介された蝦蟇池、このようなものが高台の周りの谷にある。



これは衆楽園。ここは今でもこのような池が残っており，その周りに住宅地や路地が残っている非常に貴重なエリア。



菜園坂(V字谷)



谷戸の釣堀池(衆楽園)

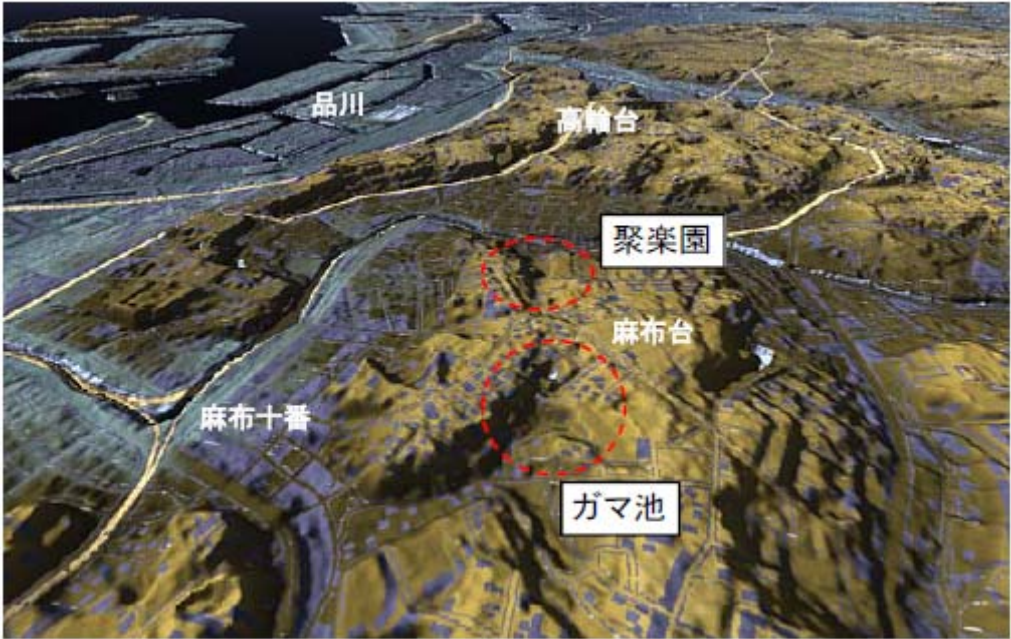
左側の写真が衆楽園近くのV字谷で，右側の写真が衆楽園のへらブナの釣り堀。
(昼間に仕事をさぼって釣りをしている人がいますが，猫背なんで誰か分かりますかね?)



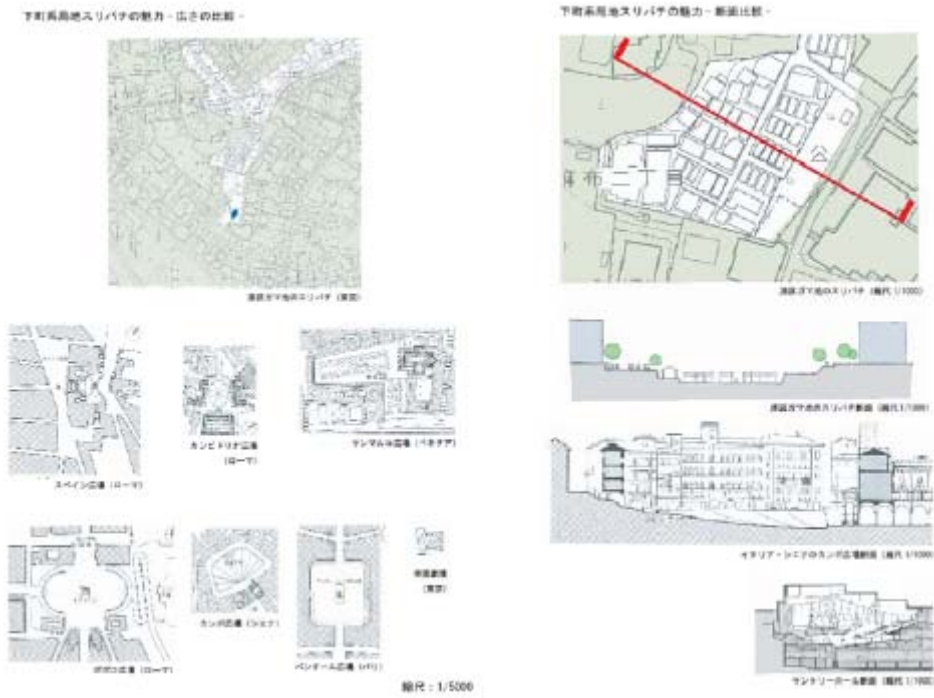
次は麻布のガマ池。ガマ池のスリバチを高台から見ると（写真では手前が窪んでいるのが分かる。）、遠くの丘に六本木ヒルズ、丘と名の付く再開発がある。
東京のスリバチを歩いていると、まさにこのような特徴的な風景に出合える。



先ほどの六本木ヒルズから麻布のガマ池を眺めてみると（赤で囲った部分）、地形的にはやはり窪んでいる。
高台から窪んでいる（スリバチ臭い）ことが分かったとスリバチ上級者。



もう一度カシミールで地形を見てみる。
 麻布台と言うが、赤で囲った部分が先ほどの聚楽園と麻布のガマ池。
 このように川が作った窪みがある。
 高級住宅地と言っているが、谷あつての高級住宅地ということが分かる。



(皆さん飽きていると思うが) 大きさの比較はこんな感じ。

ガマ池付近の路地紹介



ガマ池周辺の路地の写真だが、これもやはり良いスリバチ。雨の日に行くと特に良い。
手前に路地があり、奥に高台、そして高台の上にさらに高層の建築が建っている。まさに東京の風景。



スリバチの路地は台地と隔絶されていることが多い。スリバチの不連続性

このガマ池のスリバチは、本当に断崖で窪んでいるところなので、一度入るとなかなか出られない。
東京のスリバチを歩いていると結構こういうところがあり、これを「スリバチにはまる」と言う。
地形の断層が街の断層になっている事を学会ではスリバチの第二法則と言っている。



東京スリバチ学会のフィールドワークをご紹介します。合言葉は「下を向いて歩こう」です。みんなこれ何に反応しているかという、坂を下りて行くと川跡に出会えるが、丘の上は東京の場合は上水道が結構ある。これは三田上水の川跡を発見して喜んでいる写真。



路地好きだけでなく、階段マニア、暗渠マニアも多い。

スリバチ学会はスリバチ好きだけでなく、路地好き，階段マニア，暗渠マニアもいる。

左側の写真は水窪川の谷に下りて行く階段。

右の写真は蛇崩川（じゃくずれがわ）の川跡。名前を聞いただけでも歩きたくなる川跡。



水源を辿って行くと、このような水源に出会える。
これは東京大学駒場キャンパスの中で、川の上流部に水源がある。
都心を歩いてこんな風景に出会えると、何かすごく喜びを感じる。



スリバチを高台から見下ろすような場面がたまにある。
スリバチというのは、低い住宅が並んでいて、高い建物は無いので、一気に視界が開ける。
パーっと視界が抜けてパノラマ状に広がり、反対側の丘が見渡せる。
学会ではよく「スリバチの空は広い」と言う。
スリバチの上に空間的に開放感がある事を「スリバチ効果」と言っている。



建物のスカイラインで地形が想像できる(スリバチの法則より)

会員の方々が丘の上から谷を覗き込んでいるが、これも手前側がスリバチで、奥の丘に非常に大きな建物が並んでいる。

(スリバチの) 達人はスカイラインを見ただけで、東京の地形がだいたい推測できる。



何かに反応する、参加者。。

これなんかも、学会の人達が何かに反応している。行って見ると・・・



川跡発見だった。。

なんてことない、川跡がある。

川跡を見ている人もいるが、左側の住居表示が剥がれて、その糊の跡に住居が転写されている事に「萌え」なんて人もいたりする。スリバチ学会はそんな不思議な学会。



ところで東京には、この武蔵野台地だけではなく、下町低地もある訳で、東京スリバチ学会と名乗るからには下町のことも言ってほしい人というもいると思う。

この下町低地は沖積低地とも言われているが、沖積低地の底にはスリバチがたくさん眠っている。



下町低地沖積層下部には埋没谷(地下スリバチ)がある！

左側の地図は沖積低地の基礎部にある谷の等高線を表している。

なぜこんな谷が地底に眠っているかと言うと、縄文海進よりもさらに昔、2万年くらい前に、(急に学会っぽくなるが) ヴィルム氷河期、最終氷期とも言うが、この頃は東京の海の高さが今より100mくらい低かった。

この時に刻まれた谷が、その後の海進で砂が沖積地層に溜まって、谷が埋もれているというのが東京の下町の特徴。

右側の方が、標高データを使って、下町の高低差を感度を上げて表現した物。

ちょっと分かり難いが、江戸城の前に日比谷の入り江があり、その向かい側に江戸前島があった。

この江戸前島が、微妙な高低差で浮かび上がる。この江戸前島が今の銀座。

この銀座から日本橋の台地、それから本郷台へつながるところ、これは一筋の台地だった。

江戸の街の面白いところは、こういった地下の谷、それから、昔の微妙な窪みを活かして、水路や堀割を作っていること。



下町の微地形鑑賞で江戸にタイムスリップできることも・・

もう少し拡大してみると、左上の本郷台から日本橋の波浸台、これは元々の一つの丘だった。そこを横切るような川が二本流れていが、上が神田川で、下が日本橋川。こんな川が自然にある訳ないので、これは両方とも人口に掘られた川。お茶の水の神田川の話は良く聞くと思うが、日本橋川も人口の川。図の中心の赤い点線で囲ったところが、千葉道場があったお玉が池。ここも微妙に窪んでいるのが分かると思う。



縦横に走っていた水路の跡を辿るのも楽しみ。(スリバチコードは橋)

同じ場所の江戸時代の地図。新潟と同じように東京の下町も堀割や水路が発達しており、川跡を巡る楽しみがある。

川跡だけではなく、この川跡のそばに行くと非常に良い路地が下町低地にも残っている。



浜町川の川跡めぐり

浜町川，龍閑川のあたりを紹介したい。

浜町川の川跡めぐりという形だが，左側の路地の写真を見ると，東京の下町でもまだ古い町並みが残っている。



鳥越川跡



龍閑川跡

これは鳥越川，龍閑川の川跡。左側は鳥越神社のそばの川跡だが，このような建物があったりする。右側が龍閑川の川跡だが，路地を歩いていると，やはり何かぶらっと立ち寄りたくなるような，今でもほっとできるような路地がある。

これは下町でも同じ東京の特徴。



坂の上の雲



坂の下の猫

ということで、青い空に白く輝く雲に向かって一途に坂を上って行くということも大切ですが、我々、坂の下の路地、坂の下のスリバチに下りて行くと、そこにいる猫を愛でると言うのも非常に大切なんじゃないかなと思います。と言う事で東京スリバチ学会から坂の下の猫、終わらせていただきます。

(終)

3. 事例報告

(1) 全国路地のまち連絡協議会

(全国路地のまち連絡協議会 事務局長 木村 晃郁)

□ 活動報告

(1) 全国路地のまち連絡協議会 (木村晃郁氏)

こんにちは。全国路地のまち連絡協議会の事務局長と言う名の用務員をやっております木村と申します。よろしくお願ひします。今日お話しする内容ですが、実はですね、昨年2月にこのサミットをやるために作戦会議というのを新潟市にきてやりました。その時に使った内容の話が大変多くなっております。それから、昨年のサミット、神戸で行いましたが10月に、こちらでも同じタイトルで話をしろと言われております。ですので、昨年2月参加された方、それから昨年のサミットに参加された方は、ちょうどおなかもいっぱいでしょうから、お眠りになっても結構でございます。つまらないけど聞いてやろうと言う方はぜひ聞いて下さい。で、昨年報告したのはこれ30分で報告しております。先ほど15分と言うお達しがございます、どういうことになるかと言うと、説明もせずスライドがどんどん進んでいくということになります。路地を活かしたい、再生したいと言うことで、路地宣言というバカなことをやっておりますが、全国路地のまち連絡協議会ができたということでございます。全国の路地のまちの事例を探しております。また、ホームページで路地の情報を発信しております。メーリングリストで会員相互に情報を交換している団体でございます。全国路地サミットの開催、今年で8回目でございます。おかげさまで。その他色々やっております。サミットは東京十条で始まりまして、去年の神戸、今年の新潟、そして来年向島と言うふうに決まっております。あとは福岡、別府が手を上げていただいておりますが、やるかどうかは神のみぞ知るです。主な事業としては、さっきのサミットに加えて、路地スタと言うワークショップをやっております。それから路地園芸トライアルと言うこともやっております。それから、路地探検と言うのもやっておりますね。これは、その後飲むのが楽しみでやっております。こちらへんで話は本題に入ってくる訳ですが、全国の路地のまちづくり、ということで、2つあるんですが、今日は上の段の、市民の取り組みと言うところを重点的に話をさせていただきます。まず、先ほどもお話に出て来ましたが、東京神楽坂の「和」のまちづくりということでございます。神楽坂ではNPO法人粋なまちづくり倶楽部というのが出来ております。またこれに先立ちまして、神楽坂まちづくりの会というのがありまして、ものすごい活動をやっております。これ全部一々挙げて行くと大変なんですが、見て下さいと言うのも失礼なんで多少は言いますが、粋な建築と住まい支援委員会、勝手に建築コンテスト、アーカイブズチーム、連続路地シンポジウム、黒塀プロジェクト、とばしますよ、最近登録文化財まで始めました。さらに、浴衣でコンシェルジュ、着物でコンシェルジュ、タウンガイドチーム、これはコンシェルジュマップですね。神楽坂には人間国宝が確か50人いたかと思ひます。そういう文化的な取り組みをしております。で、ついに文化財だけでなく、未来遺産というユネスコの登録までしてしまいました。今、日本では全部で10個登録されてまして、その内の一つになっております。次がこれが向島でございます。今日、向島きて下さってますが、こちらは正に下町の低地の防災上、非常に危険な地域であると、関東大震災の時に燃え残った地域でございますが、防災まちづくりしなきゃいけ

ないということで、地元の人たちがすごい活動をしております。神楽坂にも負けない活動でございます。その活動の中で、2000年に向島博覧会と言うのを開催しました。その博覧会を開催したというのは、長屋にですね、アーティストたちがたくさん住み始めたということで、この資産を活用しようと言う事でございます。2000年と2001年に向島博覧会開催しております。アーティストが集まり始めまして、空き店舗を活用しております。中里さんと言う路地ばかり写真を取っている方がですね、町がスタジオで教室であると、左下は大学生が掃除を、空き店舗を掃除して歩いているという活動をしているようです。右上はこれ、尾道に向島（むかいしま）というところがあって、同じ向島つながりでということでアンテナショップを開いております。お食事プロジェクト、これはですね、おみくじと同じように割り箸を引いてですね、当たった店に行ってお食事をするというプロジェクトだそうです。京島は向島の隣町ですが、こちら側は長屋の風情あるまちです。こちらでも防災まちづくりをずっと続けて、最後にマップづくりをしています。次に第2回のサミット開催した空堀でございますが、こちらでもディープな路地があります。先ほど「萌える」と言う話がありましたが、かなり萌えるまちになっております。で、からほり倶楽部と言う、これは任意団体なんですけど、非常にここもまたすごい活動をしています。この活動の一番すごいところはですね、町屋を再生するという活動をしてしております。大家さんから町屋をそっくり借り受けまして、サブリースをかけているという左下が「練（れん）」上が「惣（そう）」ですね。それから、「燈（あかり）」と言うのも最近やりまして。次に第1回の路地サミットをやった（東京都）北区十条地区でございます。こちらでもまた路地のまちっていうのは防災が大きな課題になっております。右下に消防車が止まっている写真があるんですが、これは消防車がまちの中に実際に入ってくるかどうか実験しましょうよと言うことでやりました。この消防車の運転手さんが下手くそでですね、非常に助かりました。消防車がなかなか入れない町なんですよ、というアピールが出来ました。右上なんですけど、これはあの寒い三月にですね、実際に避難所体験しようと言うことで、実は大人たちが勝手に体育館で飲もうと思ったんですが、子供達も面白ってんで中学生まで一緒に寝泊まりしてしまったという、そういうまちづくりをまちにアピールしていこうと言うことで、お決まりのイベントを十條遊園市というのを開催しました。で、真中（の写真）でみんな飲んでますねこれ、ワンコインで飲み食いできるツアーを組もうと言うことで食い倒れキャラバンと言うのをやりました。それからこれ今年のサミット開催地の神戸の駒ヶ林地区。こちらは近隣住環境計画ということで、路地の中でも建て替えが出来るように、そして良好な環境が出来るような活動をしてしております。詳しくは後で、松原さんがいますので飛ばします。これが、路地協のもう一つの大きなイベントなんですけど、路地ST（ロジスタ）という、昨年からは始まっております。路地を舞台にしたイベントをやろうと言うことで、埼玉県の小鹿野町で昨年からはやられております。今年は2,000人来たとか言うておりましたが、良んですかね？出浦さんいます？

（出浦）

5,000人くらいにして頂けますか？

（木村）

分かりました。申し訳ございません。さて、路地のまち連絡協議会の一番北に八戸横丁連絡協議会と言う魅力的な団体がございます。こちらでは8つの横丁を連携したいと、これで中心市街地活性化したいということでございます。それで、みろく横丁・八戸昭和通りというのを、新たに横丁を作っちゃったということでございます。横丁を作っちゃったというのは昔からありまして、帯広の屋台とか、愛媛県の大洲でポコペン横丁、それと、富山に最近できたにぎわい横丁とかありますね。で、横丁好きなんです日本は。もう建物の中にも作っちゃう。大阪のスカイビルの地下に作っちゃったり、最近では羽田

空港国際線ターミナルに江戸小路があるんですけど、そんなものまで作っちゃっております。最もスゴイ横丁がこれです。作っちゃった横丁ですこれ。長野県松本市で女鳥羽川と言う川沿いに都市計画道路が計画されているんですが、その予定地に、どう見てもこれ建物ですよ。移設可能な建物・・・、毎年これ更新するらしいです。市役所と。これはすごいです。で、松本まで行きましたので、一昨年サミットやった長野まで行きたいと思うんですが、長野はやはり善光寺さんがあります。善光寺ばっかり目立つんですが、その周りに小路が沢山ありますよということで、サミットを呼んでいただきまして、小路めぐりをスタートさせていただいております。中心市街地の活性化でも有名でございます。その中のばていお大門、やはり蔵を集めて路地的な空間を作っております。長野市の松代地区、こちら素晴らしい街並みがございます。文化も素晴らしいということで、同じ石川さんと言う方がプロデュースを行っております。同じ長野つながりで、諏訪でございます。辻と小路の景観づくりと言う事業がやられております。左下はこれ、上諏訪街道 21 という飲み歩きで、秋と春に2回、大型トラックがバンバン走る国道20号線を2,000人くらいの人が飲み歩くと言うイベントでございます。先ほどの景観づくりの事業ですが、右のブロック塀の様な小路を板塀にするということをやっております。それから飯田です。こちら路地協の会員でございまして、中心市街地の活性化でも有名でございますが、過去に大火がありました。その時にできた背割線、「裏界線」というのですが、こういう路地をまち歩きで楽しむというものでございます。それから、同じく路地協の会員で、碧南市大浜地区、こちら良い路地があるんで、ということで、歩いて暮らせるまちづくり、そしてウォーキングをしているという事でございます。歩くと言うことでは、これは会員ではございませんが、長崎のさるく博がござます。これはパビリオンなし、芸能人なしというような、唯一のイベントではないかと思っておりますが、なんと1,023万人を呼び込んだと。ただ、歩くだけです。市民がガイドになって、やったイベントでございます。同じ長崎に平戸と言うまちがあります。路地協の支援団体で都市計画家協会というのがございまして、都市計画キャラバンと言う過去に良いイベントをやっておりました。手前味噌で申し訳ございませんが、その中でマップを作りました。小径マップと言うのを作ったのと、それともう一つはマイスターマップと言うのを作りました。あなたは偉いというのを勝手に言って、勝手に持って行って表彰したということをやっております。表彰された本人は何が起きているのかさっぱり分かってなかったようですが。それから、いよいよ来ましたね。小路めぐりマップ、roji-ren niigataさん。これ後ほど皆さん沢山話が出来て来るかと思っております。こういうまちの風景を切り取って案内板にしているという事でございます。それは実は東京の谷中でもやってみました。過去に街路灯の照明に使ってたんですけども、改修したらお金が無くなっちゃって、今度は壁に掛けただけになっちゃいましたけども。で、谷中と言えば谷中学校、あるいは谷根千でございます。右のは谷根千という地域誌ですが、惜しくもこの前、終刊を迎えてしまいました。谷中学校ですけども、ここもものすごい活動しております。公共施設やまちづくりの提案、まちと住まいの相談室、まちを舞台とした芸工展、これアートですね。それから、その他と言うことで、ジャングル体験などをやっております。そして、NPOひとまちCDC、それからNPOたいとう歴史都市研究会の設立に至っております。そしてなんと公共の事業を、継続のために使っていると言う事でございます。谷中学校の中で、やはり町屋の保存再生を行っております。大家さんとの交渉の時に、これ壊して駐車場作ると6台止まれるから月5万円で30万ですと、じゃあ30万で貸して下さい、というような交渉をしているようでございます。これはアートでまちづくり。谷中はやっぱり芸大がありますので、かなりアーティストが集まってきているというところが、こういうイベントの元になっているのではないかと思います。それからこれ、もうサミットを開催した新居町、静岡県でございます。歴史を活かしたまちづくりということで、ここは日本で唯一関所が残っております。東海道の。

関所の建物が残っております。それを活かしたまちづくりがしたいと。路地関係ないじゃないかと、我々言ったんですが、確かに小路（しょうな）という路地はたくさんありました。で、路地サミットをやったということで、その後、県が認めてくれてお金が出ると、じゃあお金が出たらまちづくりやらなきゃいけないということで、まちづくり協議会の立ち上げ、くらしのみちゾーンの構想というのが後から付いてきております。それで、歴史的資産の継承・活用ということで、同じボキャブラリーなのですが、備中高梁の小路名板（しょうじめいばん）で、真中が岡山県の新見というところで三味線横丁、そこで印刷屋さんの社長がお金持ちで、昔の料亭買い取って、一人で勝手に三味線横丁なんて名前をつけてやっております。それから島根県的美保関青畳通り、ここも良い路地が残っております。ここもやはり歴史を思い起こすような各家の由来板であるとか歌碑を掲示するとか活動しております。そういうことで、全国でいろいろな活動が行われています。まちづくりは皆さん頑張ってます。ばか者、よそ者、若者とよく言われます。神楽坂もほとんどよそ者だったりする人、あるいはあんな馬鹿なことやって、と地元の方に言われて、ずっと続けてきて今の賑わいになっております。それはやはり、言われても継続することが大切です。継続するためには楽しくやりましょうと。で、これは私が仕事でかかわってました十条と言うところでございますが、路地園芸をやった時でなんですが、右端に居る男性が町会長さんなんですが、実はお酒の飲めない酒屋さんやってまして、で、まちづくりばかりやってたら酒屋潰しちゃったという、そういう奇特な方でございます。最後にですね、当会のご紹介をさせていただきます。会費・入会費無料でございます。お金がありませんので是非ご協力ください。最後に、路地探検などやった後には必ず飲めます。そういう特典が付いてきます。で、もう一つコマーシャルなんですが、お金が無いので本を売っております。今なら、消費税抜きの3,000円でサービス。あと7冊しかそこに残ってませんので、稀少でございます。ぜひ買って頂きたいということで、報告を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

全国路地サミット2010 in NIIGTA / 2010.10.23

PRESENTATION

全国の路地のまちの活動事例

全国路地のまち連絡協議会 木村晃都



全国路地のまち連絡協議会とは

日本の個性的なまちには、すばらしい路地がある

神楽坂、向島・京島、佃島、月島、銀座、新橋、下北沢
 谷中、板津、千駄木
 川越、横浜野毛、鎌倉、長野、松本、静岡
 京都祇園、先斗町、西陣、錦小路
 大阪空堀、法善寺横丁、千日前、鶴橋、神戸
 金沢、新潟、尾道、長崎、有田、平戸、那覇、北谷・・・

路地は日本の一つの美しい都市景観である！

全国路地のまち連絡協議会とは

生活が息づく路地

新潟市本町通り

東京月島
 神戸塩屋
 東京向島
 大阪空堀



全国路地のまち連絡協議会とは

界索性や賑わいを高める路地

築地場外
 神楽坂
 法善寺横丁
 人形町
 新橋島森



全国路地のまち連絡協議会とは

歴史と文化が息づく路地

尾道
 有田トンバイ標の道
 京都
 金沢東茶屋街



全国路地のまち連絡協議会とは

路地のまちは、壊されつつある


- ◆建替が困難で、都市機能の更新ができない
- ◆建替によって、幅員が広げられて風情が消えてしまう
- ◆開発によって路地そのものが消えていく

↓

路地を活かしたい・再生したい

神楽坂の路地、正面には路地をなくして超高層住宅が

- ◆全国の「路地のまち」情報を収集して共有情報とします。
- ◆全国の「路地のまち」活動団体、研究者などの情報交換及び交流を行います。
- ◆全国の「路地のまち」調査研究、路地の活用・再生に向けた政策提言を行います。
- ◆全国の「路地のまち」活動を、会員相互の協力により支援します。



路地宣言

路地は都市の個性や魅力を語る上で、かけがえのない要素です。

美しい日本の都市。それは自然環境や大きな都市開発だけでは成立しません。全国各地に固有の、自然発生的な街なかや路地にこそ、地域の生活、歴史文化に根ざした美しさがあるのではないのでしょうか。

しかし、残念ながら路地は震災や震災などで多くが失われ、また、都市再開発、マンション開発などによっても消えてきましたが、このまま全国の路地のすべてが無くなってよいのでしょうか。

私たちは、すべての路地を保存しようという者ではありません。路地の良さ、美しさを次世代に引き継ぐために、安全・安心で美しい路地空間はいかにあるべきか。どうすれば再生できるのかを研究し、広く人々に普及し、市民が主体となって実践していくべきだと思者です。

ここに集まった有志が、各地で「路地のあるまちづくり活動」をしている人達や都市関連の学識者、専門家、都市再生に関わる企業、経済界、行政関係者など、様々な人々が美しい日本の豊かな生活空間である路地を保全し、再生し、創造していくために互いに連携し、協働していくことをここに誓いたい。



第2回全国路地サミット
路地宣言採択

以上
平成16年8月28日
於大阪市立住まい情報センター

全国路地のまち連絡協議会の主な事業

全国路地のまち連絡協議会の主な事業

- ◆ 全国の路地のあるまちづくりの事例収集
- ◆ ホームページによる路地情報の発信
- ◆ メーリングリストによる会員相互の情報の交換・発信
- ◆ 全国路地サミットの開催による路地に関する発表及び交流促進
- ◆ 路地園芸推進プロジェクト（2006）
- ◆ 路地探検
- ◆ 路地百選の収集
- ◆ 路地のまちのワークショップ
路地S.T.（ろじすた）



全国路地サミット2008in長野

全国路地のまち連絡協議会の主な事業

全国路地サミット

回数	年月	開催地
1	2003.11	東京十条
2	2004.08	大阪空堀・法善寺横丁
3	2005.10	東京神楽坂
4	2006.10	長野諏訪
5	2007.10	静岡浜名湖・新居
6	2008.10	長野善光寺表参道・松代
	2009.04	長野アフターサミット
7	2009.10	神戸(長田・駒ヶ林)
8	2010.10	新潟
9	2011	東京向島
10	2012	福岡
11	2013	大分別府



2008長野善光寺表参道・松代



2009神戸



2009長野アフターサミット

全国路地のまち連絡協議会の主な事業

全国路地のまち連絡協議会の主な事業

路地S.T. おがの

墨田区向島地区
「路地園芸調査」

北区十条地区
「路地園芸トライアル」

路地探検

路地協会のホームページ

谷中路地探検

全国の路地のまちづくり

- ▶ 路地を活かしたまちづくり(市民の取り組みから)
- ▶ 路地を残す取り組み(法的取り組みから)



路地を活かしたまちづくり

- 市民の取り組みから
- 全国路地のまち連絡協議会登録団体を中心に



路地のまちでの取り組み事例－東京神楽坂＝様々な取組みが重層化

東京都新宿区神楽坂発信の「和」のまちづくり
NPO法人粋なまちづくり倶楽部
神楽坂まちづくりの会




神楽坂路地(善国寺)
 神楽坂の路地(熱海湯附段)
 神楽坂の路地(兵庫横丁)
 神楽坂の路地(かくれんぼ横丁)

路地のまちでの取り組み事例－東京神楽坂＝アイデンティティの確認

NPO法人粋なまちづくり倶楽部

- ◆ 粋な建築と住まい支援委員会
- ◆ 勝手に建築コンテスト
- ◆ アーカイブズチーム
- ◆ 地区計画支援チーム
- ◆ 自主ゼミナール
- ◆ まちづくり住まいづくり塾 (よもやま話会)



「まちの思い出をたどって」
 アーカイブズチーム
 まちづくり塾
 まちづくり
 キーワード集

路地のまちでの取り組み事例－東京神楽坂＝素材をアップデート

NPO法人粋なまちづくり倶楽部

- ◆ 連続路地シンポジウム
- ◆ 和しごとや
- ◆ 黒幟プロジェクト
- ◆ まちづくりファンド 形成検討チーム

登録文化財への取組み



黒幟プロジェクト
 連続路地シンポジウムの開催

路地のまちでの取り組み事例－東京神楽坂＝観光まちづくり

NPO粋まち そして (株)粋まち 様々なプレイヤー

- ◆ 浴衣及び着物コンシェルジュチーム
- ◆ タウンガイドチーム
- ◆ 花柳界入門
- ◆ 毘沙門寄席
- ◆ 和しごとや
- ◆ 観光事業
- ◆ まちとびフェスタ



着物でコンシェルジュ
 ガイドツアー
 まちとびフェスタ (坂にお絵かき)
 花柳界入門

路地のまちでの取り組み事例－東京神楽坂＝観光まちづくり

着物（浴衣）コンシェルジュマップ



路地のまちでの取り組み事例－東京神楽坂＝文化を生かす

NPO法人粋なまちづくり倶楽部



神楽坂伝統芸能2009
 まちとびフェスタ
 まちとびフェスタ
 2009


路地のまちでの取り組み事例－東京神楽坂＝そして未来遺産へ

社団法人日本ユネスコ協会連盟
プロジェクト未来遺産2009
神楽坂をますます粹に
～「粋益(いきまし)」プロジェクト

第39回神楽坂まつり
～ゆかたでおいでよ神楽坂～
夕方より未来遺産運動連携事業である「(社)みらいみんようプロジェクト」が舞台出演し、お祭りを盛り上げます。
神楽坂ならではの街並みと、みんよとのコラボレーション。

『粋』の伝統を生かした神楽坂のよりよいまちづくりのために、路地空間の保全とまちで行われる様々な活動を一体的に進めています。

かつては料亭を中心に「花柳界」として栄えていた神楽坂には、路地からなる「粋な伝統的界隈」が残っています。しかし、相次ぐ料亭の廃業や防災上の制約、或いは強い開発圧力によって昔ながらの伝統的界隈は大きく変容しています。
こうしたまちの変化に向き合い、神楽坂への想いを集めて、益々粋なまちづくりを行うために、建物の高さ規制や一部用途の規制など地区計画のルールづくりにも取り組み、路地と伝統的界隈を未来へ向けに保全していきます。



路地のまちでの取り組み事例－東京神楽坂

未来遺産運動 未来に伝えるまちの文化・自然遺産へ


未来遺産運動とは

100年後の子どもたちに長い歴史と伝統のもとで豊かに培われてきた地域の文化・自然遺産を伝えるための運動です。

プロジェクト未来遺産
地域の文化・自然遺産を未来に伝える市民の活動を応援する

私のまちのたからものコンテスト
子ども達がふるさとの伝統と文化の素晴らしさ(私のまちの宝もの)を学び、紹介する

未来遺産募金
社会全体でこうした活動を支えていくための



(ユニセフ未来遺産HPより)

路地のまちでの取り組み事例－東京向島＝防災まちづくり

NPO法人向島学会

- ◆東京都墨田区向島 下町のまちづくり
 - ・防災・建築・文化・アート
 - ◆地域資源の情報収集及び提供事業
 - ◆地域活性化活動の支援事業
 - ◆住まい・まちづくりに関する調査研究事業
 - ◆アートとまちに関する講座及びイベント事業
 - ◆他の市民団体との交流事業
- ◆防災まちづくり一寺言問

元遊郭の風情残る東向島
「路地専」雨水を地下貯留して日頃の打ち水に、災害時の防火用水に




向島博覧会「建築デザインゲーム」


路地のまちでの取り組み事例－東京向島＝アーティストがまちを活性

NPO法人向島学会

- ◆向島博覧会 (2000年)
- ◆向島博覧会2001～アートロジ
- ◆向島Year2004 (都市計画キャラバン2004向島) ほか

「アーティスト イン レジデン (AIR)」
アーティストを一定期間住まわせて、作品制作・発表の場を与える活動。

「アーティスト イン 空き家」




向島博覧会2001 染物茶屋WABISUKE

向島博覧会「建築デザインゲーム」

路地のまちでの取り組み事例－東京向島

NPO法人向島学会

- ◆2000向島博覧会
空き地や空き家、路地等まち全体を会場とし、住民の手弁当で開催した同時多発型のイベント。10日間で50の企画が行われた。
- ◆向島博覧会2001
若いアーティストたちが、彼らの住まいやスタジオを会場にしたアート展、コレクティブ住宅づくりや建て替えデザインゲーム等のワークショップ



路地のまちでの取り組み事例－東京向島

向島アートの取り組み





路地写真家 中里和人氏

子ぐまカフェ (空き店舗を利用したアートギャラリー兼カフェ)
柳澤明子さんと山中正哉夫妻

路地の水琴窟「路地専」

路地のまちでの取り組み事例－東京向島

まちがスタジオ・教室・実験室



「空き店舗 そうじ し隊」グループが、空き店舗を掃除して使えるようにしては、また、次の店舗のシャッターをあける！！

期間限定の風通しのアンテナショップとして、「おのみち屋」

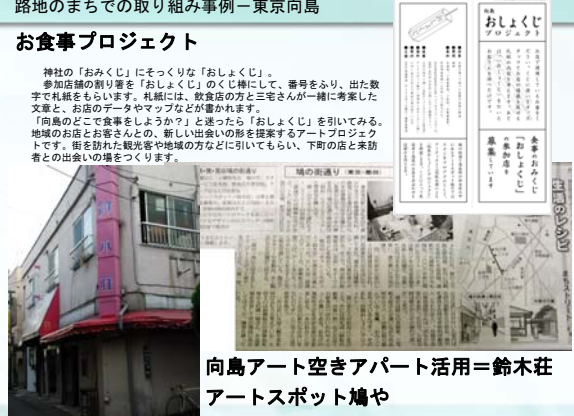
路地のまちでの取り組み事例－東京向島

お食事プロジェクト

神社の「おみくじ」にそっくりな「おしよくじ」。

参加店舗の割り書を「おしよくじ」のくじ棒にして、番号をふり、出た数字で札紙をもらいます。札紙には、飲食店の方と三宅さんが一緒に考案した文章と、お店のデータやマップなどが書かれます。

「向島のどこで食事をしようか？」と迷ったら「おしよくじ」を引いてみる。地域のお店とお客さんとの、新しい出会いの形を提案するアートプロジェクトです。街を訪れた観光客や地域の方などに引いてもらい、下町の店と来訪者との出会いの場をつくります。



向島アート空きアパート活用＝鈴木荘 アートスポット鳩や

路地のまちでの取り組み事例－東京京島＝続く防災まちづくり

京島＝密集市街地のまちづくり



主要生活道路とコミュニティ住宅

路地のまちでの取り組み事例－東京京島＝マップにまちの記憶を残す

まちの記憶をマップに



路地のまちでの取り組み事例－大阪空堀＝住環境を守る

◆ 空堀地区HOPEゾーン協議会 (空堀まちなみ井戸端会)

- ◆ 各種研究会の開催
- ◆ 「まちなみ」形成のための提言
- ◆ 「まちなみ」形成のための広報・啓発活動
- ◆ 講演会、シンポジウムの開催
- ◆ 他団体との交流
- ◆ 都市再生モデル調査



空堀地区の路地

空堀路地まちづくりワークショップ

空堀街並み

路地のまちでの取り組み事例－大阪空堀＝町屋の再生

◆ からほり倶楽部

空堀商店街界隈の良さを活かした、住みやすく魅力あるまちの創造

- ◆ 美しく歴史のあるまちの保存・再生
- ◆ イキイキした活力あるまちづくり
- ◆ 新旧世代・文化の共生



長屋改造ショップ「惣」

町家改造ショップ「綾」

- ◆ 長屋・町家再生プロジェクト
- ◆ 勝手に直木賞「長屋路地裏選考会」
- ◆ ロジモク減災勉強会
- ◆ 減災キャラバン on 上町台地
- ◆ 緑橋の「燈・あかり」で落語付き(?!)
- ◆ 『上町台地100人のチカラ!』
- ◆ 路地オープンスペース、植栽ワークショップ

路地のまちでの取り組み事例—大阪空堀＝アートのまちづくり

◆ **からほり倶楽部**
路地オープンスペース「ことはたのにわ」琴（水琴窟）の端（井戸端などの端）

(からほり倶楽部HPより)

からほり倶楽部だより 2010年10月号

1. 10/30(土)・31(日)は「第10回からほりまちアート」
2. 10/31(日)「劇場のからほりまちアート」まち歩き&フォーラム開催
3. 10/17(日)中央区民祭り「からほり倶楽部ブース」出店!
4. チャンス!あなたがWeb作成業界の新星になる!
5. 直木三十五記念館の展示物の目録づくりボランティア募集!
6. 長屋すとつくばんくねっとわくより複合文化施設「萌ほ」のテナント募集のお知らせ
7. 六波羅真建築研究室 所員募集!!!!
8. 町家再生複合施設「燈(あかり)」からのお知らせ
9. 地域交流スペース「結(ゆい)」からテナント募集のお知らせ
10. 毎月最終金曜日は「結(ゆい)」でせり大会!!
11. 10/16(土)「白鷲まちづくり共同セミナー」のご案内

路地のまちでの取り組み事例— 東京都北区十条地区

◆ **十條あすみの会**

- ◆ (防災・防犯ボランティア組織)
 - ◆ まちづくり研修会、消防車遠行実験
 - ◆ 防災訓練、避難所宿泊体験
 - ◆ 車いす体験・実地調査、花いっぱい運動
- ◆ まちワークin十条
 - ◆ 住民の主体的運営ワークショップ
 - ◆ H15都市再生モデル調査
- ◆ **十條遊緑市**
 - ◆ まちづくり・活性化イベント

消防車遠行実験
避難所宿泊体験
車いす体験

路地のまちでの取り組み事例—東京十条＝イベントで盛り上げる

十條遊緑市「こども達の路上ダンス」
路地園芸トライアル

十條遊緑市 楽しい街のキャラバン

十條遊緑市青空シンポジウム「街なかと路地」

路地のまちでの取り組み事例—神戸駒ヶ林＝近隣住環境制度

◆ **ワークショップを活用**
住民・行政・コンサル協同型

◆ **近隣住環境計画**
住民が計画をつくり市長が計画決定
43条但し書きなどの審査会同意を支援

東之町(ひがしよ) やすらぎ広場
(都市環境デザインセミナー「路地からのまちづくり」HPより) イカナゴ釘煮コンテスト

路地のまちでの取り組み事例—神戸駒ヶ林＝近隣住環境制度

兵庫県神戸市駒ヶ林地区

◆ **近隣住環境計画**

(2009関西路地サミット資料より)

3項規定 (2.7m)
2項道路 (4.0m)
基準上の道路ではない (3.0m)
43条但し書き適用 (2.7m) 壁面線指定

路地のまちでの取り組み事例—路地を舞台にイベント

埼玉県小鹿野町—路地S.T. (ロジスタ)

路地を舞台にしたイベント2009～

太鼓演奏
街並みツアー
BOXart
お寺イブ
行灯の路地

路地のまちでの取り組み事例—路地・横丁をつくる＝青森県八戸市

青森県八戸市一八戸横丁連絡協議会

- ◆8つの横丁の連携
中心市街地活性化へ
- ◆みろく横丁・八戸昭和通りの整備
新しい横丁の創出



新しい横丁「みろく横丁」：若い店主が多い
(路地百選より)



長横町れんさ街



ハーモニカ横丁

路地のまちでの取り組み事例—路地・横丁をつくる

帯広市=北の屋台



富山市=にぎわい横丁



(富山市HPより)

愛媛県大洲市=ポコベン横丁



(大洲市HPより)

週末のみに出現する懐かしい横丁
町のイベントに発起人の趣味を生かした

路地のまちでの取り組み事例—路地・横丁をつくる

建物の中に路地・横丁を作る



大阪スカイビル
滝見小路



うもん横丁 (中部国際空港)



江戸小路 (羽田空港国際線ターミナル)



滝見小路



黒磯横丁 (東京駅地下飲食街)

路地のまちでの取り組み事例—路地・横丁をつくる

長野県松本市一ナワテ通り商業協同組合

- ◆都市計画道路上に
常設屋台か？ 仮設建築か？
都市計画道路上にヒューマンスケールの街並みが





路地のまちでの取り組み事例—長野善光寺表参道＝まち歩き

長野県長野市善光寺表参道地区

- ◆歴史の町長野を紡ぐ会・長野郷土史研究会
 - ◆郷土史の視点に立つて町の活性化に寄与
 - ◆善光寺表参道 (長野駅～善光寺) の史跡案内
 - ◆善光寺と門前町に伝わる伝説の口演 (語り、紙芝居)






>善光寺表参道七福神めぐり
 >善光寺門前七福神めぐり
 >善光寺門前七福神めぐり
 >映画「転校生 さよならあなた」のロケ地めぐり

路地のまちでの取り組み事例—長野善光寺表参道 (中心市街地活性化)

長野県長野市善光寺表参道地区

門前都市「ながの」
へ心潤う 歴史と文化が賑わう まちへ

- ◆善光寺表参道文化村計画・花回廊事業
(座・アッシュ・アール)
 - ◆文化を中心にして発信
 - ◆昔の祭りを振り起こす＝神楽、屋台の復活
 - ◆中側の小路、水路の復活
- ◆中央通り活性化連絡協議会
- ◆T o i G O : 長野そごう跡地再開発



長野市 花舞台のJAZZコンサート



T o i G O



文化村事業(屋台) 花回廊事業

路地のまちでの取り組み事例ー長野善光寺表参道

長野県長野市善光寺表参道地区

- ◆(株)まちづくり長野
- ◆中心街地活性化TMO
- ◆ダイエー撤退建物
 - ◆もんぜんぶら産(交流施設)
 - ◆TOMATO食品館(直営食品スーパー)
 - 5年で1億の赤字覚悟
- ◆ばていお大門(商家と蔵旧家の再生)
- ◆薬茶れんが館
- ◆空き店舗活用と新規創業者支援



ばていお大門



もんぜんぶら産




TOMATO館(地産地消)




路地のまちでの取り組み事例ー長野松代=まちの文化を生かす

長野県長野市松代地区


- ◆エコール・ド・まつしる倶楽部
 - ◆一つの活動=専科は小さな活動
 - 一この街にあるものを活かす
 - 一文化財ガイド、まつしる・きもの縁遊会(着物を着て遊びに来てください)
 - ◆それぞれの趣味を通して交流、来てくださったお客様に何かサービスをする
 - ◆市民が動き出して、自分のまちにプライドを持って
 - ◆会員900人の内半分!しか!活動していない!
- ◆真田十万石の城下町
- ◆信州ブランド・デザイン賞2004
- ◆NPO夢空間



八田家の門にかかる暖簾



松代の街並み



路地のまちでの取り組み事例ー長野松代

長野県長野市松代地区

木造り



まつしる・きもの縁遊会





華演奏



路地のまちでの取り組み事例ー長野諏訪

辻と小径の景観づくりー諏訪市

上諏訪街道21「呑みあるき」




小和田地区の小路

路地のまちでの取り組み事例ー長野諏訪=景観まちづくり

辻と小径の景観づくりー諏訪市

- ◆辻と小径景観づくり支援事業(平成18年度～)
- ◆地区設定 3軒以上、 2/3以上の同意
- ◆一地区 1,000万円以内
- ◆修景を主体に費用の5/6を補助(国の事業補助を参考)



辻と小径の景観づくり事業
上諏訪商店街レトロ看板



辻と小径の景観づくり寺のまち
長野県「美しい信州の景観づくり功労賞」受賞



(諏訪市HPほかより)

路地のまちでの取り組み事例ー長野飯田=まち歩き

飯田市裏界線地区

- ◆飯田の大火(1947)による整備
- ◆シンボルロード「リンゴ並木」
- ◆界隈が生まれる「裏界線」
- ◆モーニングウォークによる街並み資産の発見とまちづくり意識の高揚
- ◆まちづくり会社による中心街地整備



モーニングウォーク



裏界線



シンボルロード「リンゴ並木」

(飯田市HPより)

路地のまちでの取り組み事例ー長野飯田（中心市街地活性化）

飯田市裏界線地区

◆まちづくり会社による中心市街地整備

デベロッパー事業	①橋南第一地区市街地再開発事業	○住宅販売	○テナント賃貸
	○駐車場賃貸	○ビル管理	
	②橋南第二地区市街地再開発事業	○住宅販売	○テナント賃貸
	○ビル管理		
プロシエント事業	③磁場地区優良建築物等整備事業	○住宅販売	○住宅・テナント賃貸
	○ビル管理		
	①高齢者住宅の供給		
	「アシストホームりんご」		
	②商業テナントビル「まちカン2002」		
③物販飲食事業			
「りんご並木三連蔵」管理運営受託			
④イベント文化事業			
市民団体「1DANAVE」支援			
⑤NPO飯田応援ネットアイデア支援			



トップヒルズ（第一地区）



三連蔵

（飯田市 HPより）

路地のまちでの取り組み事例ー愛知碧南大浜地区＝歩いて暮らせる

歩いて暮らせる街づくりー碧南市大浜地区

◆歩いて暮らせる街づくり

- ◆身近な水辺環境を再生するための堀川の整備（アクアトピア計画の進展）
- ◆文化のまちづくりとしての歴史的空間の保存、寺町整備
- ◆まちかどサロンの整備
- ◆漁港等における親水空間としてのフィッシャーマンズワーフの整備
- ◆人にやさしいまちづくりとしての敷設路等の整備



歩いて暮らせる街づくりの看板

◆大浜てらまちウォーキング

建築士会の活動で伊勢河崎のまちづくりを学ぶ

大浜小学校生徒が「大浜の寺や神社の不思議発見」と題して総合学習での成果を披露



（大浜地区 HPより）

路地のまちでの取り組み事例ー長崎さるく＝まち歩き博覧会

長崎さるく博ーまち歩きが観光を変えた

◆参加者が「さるく」、市民が案内する

- ◆「遊さるく」：さるくマップを片手に自由に歩く
- ◆「通さるく」：市民がとっておきの長崎をご案内
- ◆「学さるく」：専門家による講座や体験を通して長崎の深みにはまる

◆日本ではじめてのまち歩き博覧会長崎さるく博'06

- ◆2004年からプレイベントを実施
- ◆パビリオンも有名タレントもない博覧会
- ◆主役は参加者と市民ガイド
- ◆期間中参加者 1,029万人
- ◆博覧終了後も通年事業として継続



さるくマップ

（長崎市 HPより）

路地のまちでの取り組み事例ー平戸小径マップ（マップづくり）

平戸マップづくりー都市計画キャラバン

◆小径マップ



（平戸市 HPより）

路地のまちでの取り組み事例ー平戸マイスターマップ（マップづくり）

平戸マップづくりー都市計画キャラバン

◆マイスターマップ



勝手に表彰プロジェクト

（平戸市 HPより）

路地のまちでの取り組み事例ー新潟小路めぐり

小路めぐりマップーroji-ren niigata

◆まちの風景をマップに、道路名標識にスタンプラリーに、お宝巡りエコバッグでお得！




（新潟市／みなとまち新潟 HPより）

路地のまちでの取り組み事例－谷中銀座商店街（まちの景観を取り込む）

街並み切り絵図－谷中銀座商店街

◆まちの風景の切り絵を街路灯に



路地のまちでの取り組み事例－谷根千／谷中学校

谷中学校／谷根千



路地のまちでの取り組み事例－谷根千／谷中学校

谷中学校

- ◆公共施設やまちづくりへの提案
ポケットパークの整備住民意見を行政に提案
「台東区下町型住宅のあり方調査」に参画（1992～94）
- ◆まちと住まいの相談室（住まい班）
（1998）
谷中に合ったすまいづくり、建て替えや増改築のアドバイス、設計、地元の工務店の紹介
- ◆まちを舞台とした芸工展（1991年～）
まちじゅうを購買会場にみたくて、谷中に賑わり、豊満のある職人・作家や町の人の絵や音楽、暮らしの道具や手作りの食べ物を紹介
地図をガイドに町をめぐる企画。
江戸時代からの職人文化と芸術の森・上野、谷中の文化を再発見し、谷中を考える交流の場
- ◆その他
谷中ジャングル探検隊などの環境学習、リサイクルフリーマーケット、各種出版物等の制作・販売など

◆NPOひとまちCDC/NPOたいとう歴史都市研究会の設立

継続のため
密集事業を活用



旧谷中学校

路地のまちでの取り組み事例－谷中＝町屋の保存・再生

谷中学校～

- ◆町家の保存・再生、修理
町家の保存活用や鉄道のギャラリーリーへの改修



市田邸

(NPOたいとう歴史都市研究会HPより)

平橋田中部

間間間（さんけんま）

路地のまちでの取り組み事例－谷根千＝アートをまちのイベントに

ARTでまちづくり

- ◆藝工展
- ◆art-Link 上野-谷中 2010



時代空間ねこじゃらし

谷中放談

(藝工展2008HPより)

路地のまちでの取り組み事例－静岡県新居町（歴史資産を生かす）

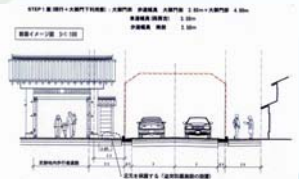
歴史を活かしたまちづくり－新居町所周辺まちづくりの会

- ◆笑顔でまちづくり
 - ◆まち歩き調査
 - ◆まちづくり先進地の視察
 - ◆まちづくりフォーラム
 - ◆広報誌「かわらばん」の発行
 - ◆13基の道案内看板の設置
 - ◆寺道5寺院の由来看板の設置
 - ◆寺道のルート表示矢印の整備
- ◆散策マップの作成
- ◆開所の復元（一部国道上に）

散策マップ



新居町所大木戸の復元



路地のまちでの取り組み事例—静岡県新居町（サミットをきっかけに）

サミットを契機として

第21回 まちづくりシンポジウム
全国路地サミット2007
 浜名湖・新居
 平成19年10月27日（土）・28日（日）

- ◆ 暮らしのみちゾーン構想
- ◆ 新居まちづくり協議会の立ち上げ

新居町の小路（しょうな）

高木の絵図

路地のまちでの取り組み事例— 歴史的資産の継承

歴史的資産の継承・活用

- ◆ 備中高梁：小路名板
- ◆ 岡山新見三味線横丁：伝統的建築物の保存活用
- ◆ 島根美保関青畳通り：沿道の各家の由来・歌碑掲示

備中高梁菊屋小路
左端に小路名由来板

岡山新見三味線横丁
旧料亭を保存活用

島根美保関青畳通り
家の由来板掲示

路地のまちのまちづくり

まちづくりは

- ◆ みんながんばっています
- ◆ ばか者、よそ者、若者（切れ者？）
- ◆ 継続することが大事
- ◆ 継続するためには楽しく

路地のまちのまちづくりは 楽しく！

北区十条地区「路地調査トライアル」

ご静聴ありがとうございました

ご入会お待ちしております「全国路地のまち連絡協議会」

ご入会お待ちしております。

全国路地のまち連絡協議会！

◆ 会費・入会金無料

- ◆ 全国の路地のまちづくり情報を発信中
- ◆ 全国の会員とまちづくり情報の交換ができる
- ◆ 全国への情報発信が可能
- ◆ 路地サミット・路地St.（ロジスタ）等まちづくり活動・イベントを支援
- ◆ 事務局から路地協ニュース（完全不定期）という迷惑メールが届く！
- ◆ 路地探検・世話人会などの後、必ず飲める！

路地のまちづくりのバイブル 西村幸夫編著「路地からのまちづくり」

◆ 序説 今なぜ路地なのか.....西村幸夫

◆ 第1部 路地の復権

- 1 つなぎとめる場としての路地.....橋爪紳也
- 2 つつらえの路地の魅力—空間にあふれるもてなし文化の工
- 3 コミュニティの原風景—大阪で発見した濃密な路地の近所
- 4 路地は、どうしてできたか.....伊藤裕久

◆ 第2部 路地のまちづくり

- ◆ 路地の面の進化論.....司波 寛
- 1 神楽坂—都心のどまん中の路地の文化と抱い手の復権.....山下 馨
- 2 谷中—路地と住いの文化を活かす.....榎原昌子
- 3 向島—路地集・会吉路地・アートロジ.....山本健哉
- 4 十条—人のネットワークがなくなると.....高尾利文／木村昇都
- 5 板橋南—法が認めたコミュニティの防災力.....上林研二
- 6 空堀—HOPE計画事業により再生を目指す.....吉野国夫
- 7 法善寺横丁—連担制度で路地空間の再建を果たす.....橋爪紳也
- 8 飯田—裏界線を活かすまちづくり.....牧野忠彦
- 9 諏訪—協働によると小径農産づくり支援事業.....川上秀樹
- 10 大浜—歩いて暮らせるまちづくり.....川端寛文／石田富男
- 11 尾道—地域コンテンツによる「場所の力」の展開.....真野洋介

◆ 第3部 路地を活かすために

- 1 路地を活かしたまちづくりに向けて—制度活用の最新動向.....小泉秀樹
- 2 路地の本質的防災論—路地を活かして防災を.....室崎益輝
- 3 路地からの防災まちづくり—現状を打破するための提案.....中林一樹
- 4 路地を歩行者の快適空間にするために.....司波 寛
- 5 路地まちづくりのネットワーク.....今井瑞彦

**消費税サービス
3,000円で販売中**

路地は可能性の宝庫

路地を残す取り組み

法的取り組みから



法的取り組みから

幅員 4 m以上道路への接道義務への対処方策

手法	内容
一団地 ＝建築基準法第96 条第1項	一団の建築物が一つの所有者によって所有され、または一体的に管理される複数の敷地を一つの敷地と想定して、斜線制限や容積率、建ぺい率といった各種形態制限、接道条件が適用されます。区域内の土地所有者、借地権者の同意が前提となり、道路・河川等を含んだ区域を想定することができます。
連担設計 ＝建築基準法第96 条第2項	一体的に計画された複数の敷地を一つの敷地と想定して、斜線制限や容積率、建ぺい率といった各種形態制限、接道条件が適用されます。区域内の土地所有者、借地権者の同意が前提となり、前項と異なり道路・河川等を越えて一つの敷地と見なすことはできません。
3項道路 ＝建築基準法第42 条第3項	地形など土地の状況によりやむを得ない場合に、特定行政庁の判断で、道路中心線から2m未満1.35m以上の範囲で道路境界を指定することができ、道路幅員を4m未満(2.7m以上)とすることができます。 2003年の建築基準法改正を受けて、国は「3項道路の指定に関する運用通知」により歴史的路地の保全や活用に際しては、より積極的に活用することを認めました。
43条但し書き道路 ＝建築基準法第43 条における但し書き	その敷地の周囲に広い空地を有する建築物その他の国土交通省令で定める基準に適合する建築物で、特定行政庁が交通上、安全上、防火上及び衛生上支障がないと認めて建築審査会の同意を得て許可した道路。

法的取り組みから

狭隘道路地区における建物更新方策

手法	内容
街並み誘導型地区計画	道路または通路を地区施設として指定し、地区施設に沿って壁面の位置を制限し、併せて、敷地面積の最低限度、建物の高さの最高限度、壁面の位置の制限された部分への工作物の制限により、道路斜線等が緩和される地区計画です。

法的取り組みから

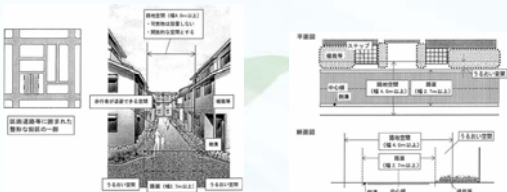
法的取り組みの事例

地区	建築基準法の適用	地区まちづくりの取り組み	緩和/緩和の条件	緩和/緩和の条件
旧市街地	建築基準法第43条但し書き 建築基準法第96条第1項	地区計画 43条但し書きと壁面制限	地区計画の適用 43条但し書きと壁面制限	幅員より指定 ②地区に指定 ③幅員:2.7m以上1.35m
旧市街地	建築基準法第96条第2項	地区計画 斜線制限緩和 1.1-2階部分、3階部分 4.1-2階部分、3階部分 4.1-2階部分、3階部分	斜線制限緩和 1.1-2階部分、3階部分 4.1-2階部分、3階部分 4.1-2階部分、3階部分	幅員より指定 ②地区に指定 ③幅員:2.7m ④容積率:2.7m(1-2階) / 壁面制限(3-4階)
旧市街地	建築基準法第43条但し書き	建築基準法 ①容積率 ②容積率4m未満 ③容積率40%	容積率緩和 ①容積率 ②容積率4m未満 ③容積率40%	容積率緩和 ①容積率 ②容積率4m未満 ③容積率40%
旧市街地	建築基準法第96条第2項	建築基準法 ①容積率 ②容積率4m未満 ③容積率40%	容積率緩和 ①容積率 ②容積率4m未満 ③容積率40%	容積率緩和 ①容積率 ②容積率4m未満 ③容積率40%
旧市街地	建築基準法第96条第2項	建築基準法 ①容積率 ②容積率4m未満 ③容積率40%	容積率緩和 ①容積率 ②容積率4m未満 ③容積率40%	容積率緩和 ①容積率 ②容積率4m未満 ③容積率40%
旧市街地	建築基準法第96条第2項	建築基準法 ①容積率 ②容積率4m未満 ③容積率40%	容積率緩和 ①容積率 ②容積率4m未満 ③容積率40%	容積率緩和 ①容積率 ②容積率4m未満 ③容積率40%
旧市街地	建築基準法第96条第2項	建築基準法 ①容積率 ②容積率4m未満 ③容積率40%	容積率緩和 ①容積率 ②容積率4m未満 ③容積率40%	容積率緩和 ①容積率 ②容積率4m未満 ③容積率40%
旧市街地	建築基準法第96条第2項	建築基準法 ①容積率 ②容積率4m未満 ③容積率40%	容積率緩和 ①容積率 ②容積率4m未満 ③容積率40%	容積率緩和 ①容積率 ②容積率4m未満 ③容積率40%
旧市街地	建築基準法第96条第2項	建築基準法 ①容積率 ②容積率4m未満 ③容積率40%	容積率緩和 ①容積率 ②容積率4m未満 ③容積率40%	容積率緩和 ①容積率 ②容積率4m未満 ③容積率40%
旧市街地	建築基準法第96条第2項	建築基準法 ①容積率 ②容積率4m未満 ③容積率40%	容積率緩和 ①容積率 ②容積率4m未満 ③容積率40%	容積率緩和 ①容積率 ②容積率4m未満 ③容積率40%

出典：「路地からのまちづくり」西村幸夫編著、関西路地サミット配付資料ほか

法的取り組みから

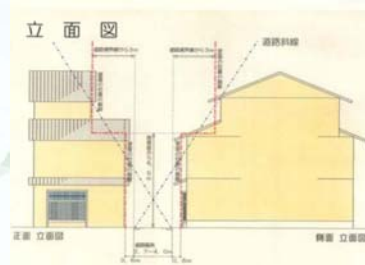
神戸近隣住環境計画制度



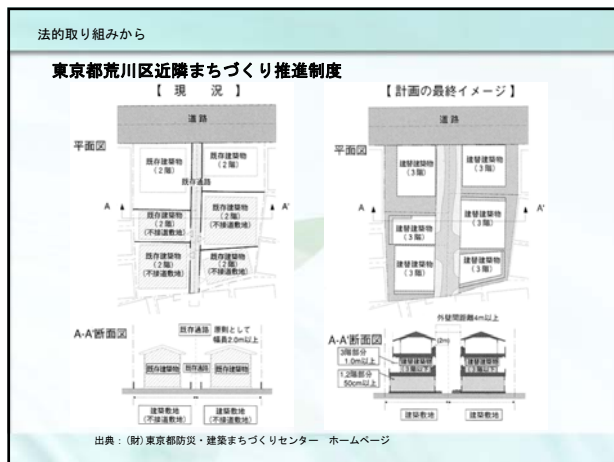
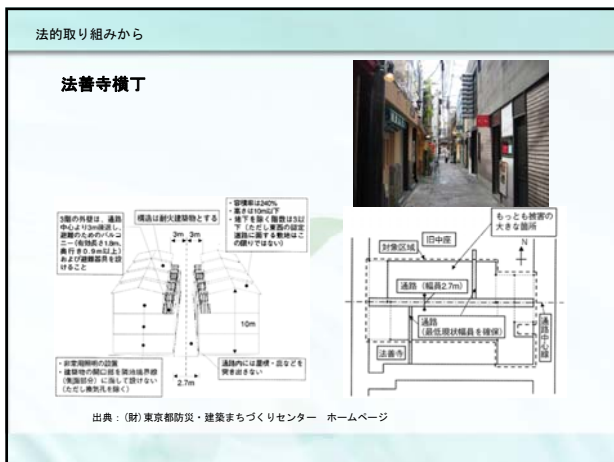
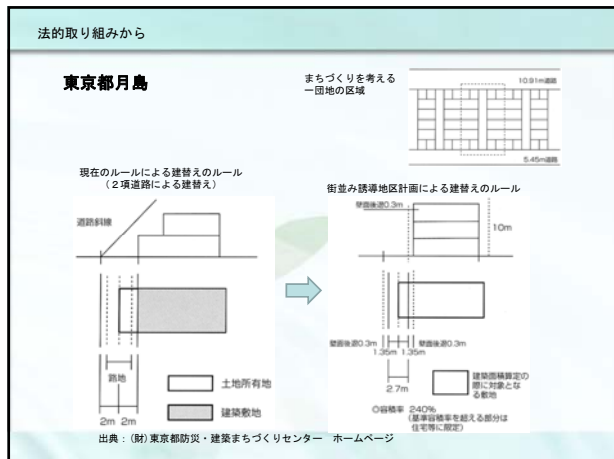
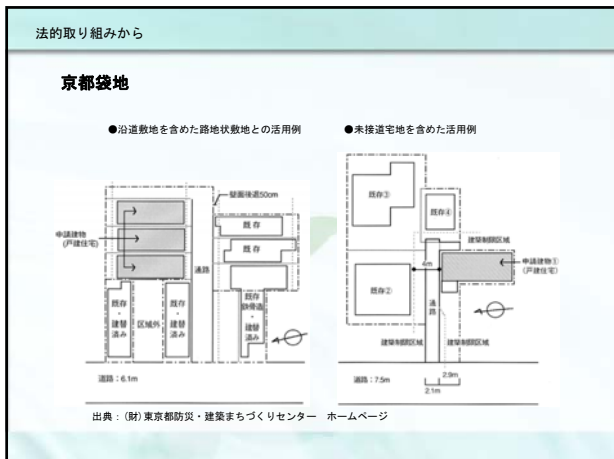
出典：国土技術政策総合研究所 研究報告

法的取り組みから

京都祇園南



出典：国土技術政策総合研究所 研究報告



3. 事例報告

(2) 兵庫県神戸市

(スタヂオ・カタリスト 代表 松原 永季 氏)

□ 活動報告

(2) 神戸市 (スタヂオ・カタリスト 松原永季氏)

みなさんこんにちは。神戸から参りましたスタヂオ・カタリストの松原と申します。どうぞよろしくお願ひします。ただいまご紹介いただいたとおり、昨年度神戸で路地サミットを開催させていただきました。その節に来ていただきました皆様方、本当にありがとうございます。また、今回開催されています新潟の世話人の皆様、ご苦勞さまでございます。私も昨年事務局の役を身をもって体験いたしましたので、皆様のご苦勞を大変だと思っています。よろしくお願ひいたします。

さて、私の方からは昨年度の路地サミットどうなったか報告させていただきます。先ほど皆川さんの話を伺ってしまして、去年の路地サミットのテーマをもう少しやわらかくすればよかったと思うのですが、路地を守っていくためにはややこしいことをやらなければならないなと思い、これは勝手に神戸の責任と思ひまして、路地に関わる法制度について、今回もはじめにややこしい話をさせていただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

それではこれまで路地サミットで何度か報告させていただいております。私に関わらせていただいております駒ヶ林町1丁目南部地区の例でございます。近隣住環境計画の変更と書かさせていただいております。「近隣住環境計画」漢字ばかりで、何だろうとお思ひでしょうが、これは向こう三軒両隣のまちづくりということで向こう三軒両隣くらいの方がこのまちは将来こうなればいいというのをみんなで決めて、市長に認めてもらえれば、緩和できるところは地域の状況に合わせて緩和してあげましょうというような制度です。それをすることによって、放っておいたら広がって無くなってしまうような路地を守っていきこうというやり方でございます。3年ほど前から私はこれを誇らしげに説明してまして、近隣住環境計画、神戸市内でこう決まりました。ここの緑色の線だけは4m、普通の建築基準法に則った道の広さにして、それ以外の道は狭くてもいいよ、2.7mでもいいよというような計画を作っていたのですが、実際に話を進めていくと進まないところがありまして、最近になって変更の計画案を出しまして、一部変えまして現在進行させています。3、4年かかりましたがこれでほぼ進められるという状況でございます。これから地域のみなさんの合意を取っているところでございます。これが、私に関わったところの経過報告でございます。

その後神戸市さんのほうでは路地を守る仕組みに取り組もうという地域もありまして、私に関わっているところではありませんが、別の優秀なコンサルタントさんが関わられ、他のところでも同じようなやり方でやっていきこうという例がありまして、その例を報告させていただきます。

これはまず須磨北町というところですが。須磨とは、神戸の西側、風光明媚な保養地・別荘地であったのですが、次第に山のほうが開発されていった。そういう下町っぽいところの例でございます。近隣住環境計画による建替困難解消ということでございます。路地に面している建物はなかなか建て替えることが難しいということがございます。その中で建て替えがしやすい計画を作っていこうというのが

この例でございます。これが路地のある周辺のところなのでございますが、古い集落的な要素を残しているところでございます。これが路地の入り口部分です。こうやって奥の方に入っていきますと、どんどん狭くなっていく。これが見帰しです。なぜこの路地が問題かと言いますと、ここの道が道ではないのです。道であるじゃないかと思われそうですが、これは法律上で言いますと、道路としては認められていなくて、人の敷地の中に道としての空間が残っているよという状態のものです。つまりここは道っぽいけど他の人の敷地を勝手に使っている状態で残っているものでございます。このまま放っておいたら場合によっては、こっち側の家の人とこっち側の家の人がここまで家を持ってきたら、道自体がなくなってしまうということも考えられるわけです。それをどうしたらよいかということで、この地区のみなさんは考えられた。こういう道路網がこの地域の中では必要だ、この必要な道を守るためのルールを考えようということで、今ここの部分、先ほどの写真をお見せしたところを、近隣住環境計画の対象とされたわけでございます。先ほども言いましたとおり、手前のところは道だから建て替えてしたら広がる、こっち側は道じゃない。道じゃないところは将来なくなるかもしれない。この道路に面している人は建て替えてすごく難しくなるかもしれないということがございます。これは平面図で上から見たところですが、ここは道でいいけれども、ここは道ではない。日常勝手に通っているところ。そこの部分に関しては壁面線の指定という方法で、建物を建てる時は壁の面をここまでにしてくださいねというルールをこちらの土地をお持ちの方みんなで決めまして、道としての空間を確保しようというものでございます。こういうルールをみんな決められて、これはいいのではないかとということでいろいろと緩和されたというのが須磨北町3丁目の事例です。昨年度から半歩進んだ事例としてご紹介いたします。そして次、これは計画の内容で、皆様のお手元の資料に書いてありますのでご関心ある方はご確認いただければと思います。

そして次、新開地地区というところでございます。近隣住環境計画による住み続けられる細街路づくりと書いてありますが、私が間違えておりまして、潤いのある路地づくりということでもあります。どういうことかと言うと、新開地地区がどういうところかと言いますと、古くは賑わった神戸の繁華街のひとつでして、東京で言うと浅草の裏に近いイメージでして、今はこのような姿になっていまして、パチンコ屋やちょっと近くには風俗店があったり、あるいは演芸場があったりというような下町のちょっと衰退したようなところでございます。その中にこういう路地があります。ちょっといかがわしい感じがありますけれども、そこを進みますとこういう路地になっています。これを見返すとこんな感じですね。ここでどういうことが考えられているか。これも普通に放っておけば単に道が拡幅するだけですが、そうするともう少し昔持っていたしっとりした感じがいいのではないかと地域のみなさんが考えられたようでございます。このまちづくり全体の中で路地の路地横丁・一般街路の環境向上、路地を魅力化していこうと考えまして路地を計画の対象としました。どういうことをされたかと言いますと、潤いのある路地づくりのタイプと言いまして、最終的には4m、法律で決められた幅になるのですが、その中の2.7mについてはちゃんと道として確保していきましょう。ただそれより外側に部分に関しては花壇、植栽は作ってはよいのではないかと。大体10cmくらいまでの高さであれば花壇を作っても良いのではないかと。普通はこのようには出来ないのですが、みんなで近隣住環境計画というルールを定めたので、道の中にも花壇を作っても良い、何かあったときには消防車が乗り越えられるくらいのものであれば作っても良いということで、法律に則ってこの計画が定められました。これが平面図です。グレーのところは道として舗装するところに、緑のところは4mの範囲内ではありますが花壇にしてもいいところになります。これも昨年度から半歩進んだ事例でございます。この内容も資料のほうをご覧くださいと思います。

こういうことを事例として進めてきましたが、神戸市では来年度都市計画マスタープランが改定されることになっています。その中でも重点的な施策として、密集市街地、すなわち路地や小さい建物がいっぱいあるところ、ここを再生していこうということを重点的に定めておられます。この中の方針を最後にお伝えしたいと思います。これは神戸の模式図ですけれども、海があつて、六甲山があつて、その間に市街地が広がっている。不幸なことだけれども戦災があつたところ震災があつた所は、ある程度都市が整備されている。ところが、それから逃れたところはなかなかまだ古く焼け残ったようなところが残っていて、ここには路地がいっぱいある、古い建物もいっぱいある、それをどうしていこうかということで、いろいろ調査をされて、街区ごとに燃え広がりやすいところ、あるいは避難しにくいところ、それぞれ評価を設けられて、こういう大変なところは重点的にやっっていこうことで決めていかれました。これは市街地ですけれども、赤く塗ってあるところでは特に重点的にやっっていこうことで、これまであまりやってこなかった路地の整備とかあるいは3項指定というのを重点的にやっっていこうというのを考えています。神戸では制度に則った路地の整備がだんだん進んでいくのではないかというところでした、これからもややこしいことをややこしくやっっていくのが神戸市のスタイルであります。これで報告を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

全国路地サミット 2010 in NIIGATA

事例報告

神戸

松原 永季
(スタジオ・カタリスト)

平成22年10月23日

駒ヶ林町1丁目南部地区

～近隣住環境計画の変更～

路地を活かしたまちづくりタイプの
駒ヶ林町1丁目南部地区近隣住環境計画(神戸市案)
が決まりました!

【路地C】
建築基準法上の道路ではありませんが、避難等の安全性のため現状の幅員の確保に努める路地です。建築時には路地中心から1.35mの空間確保に努めて下さい。別途建築物に対する規制はありません。

【路地A】
この路地は、建築基準法上の道路で幅員が7mとして指定されます。(法42条3項道路)
この路地にのみ面している敷地で建築物を建てる場合は内縁制限の規制がかかります。

【主要道路】
この路地は、建築基準法上の道路で街区内の緊急車両の進入などのため幅員4mとします。(法42条2項道路) 建築物に対する制限は建築基準法上にはありません。

【路地B】
建築基準法上の道路ではなく、建築物の建築時の建築敷地は、前面空地として路地の中心から1.35mの確保が必要です。また**容積率固定**を行い路地全体にわたって7mの空間を確保します。この路地におも面している敷地では建築物に次の制限がかかります。
●建築物の用途：準居住又は現在の長屋・アパートの用途に限定。
●高さ：地上階数2以下、主要構造部の制限あり。
●指定された壁面線に準じ、かつ建築基準法上の道路(路地A)を越えて面した敷地は新たに ≤ 1 が70%に緩和されます。(箇中色塗り敷地)
●容積率固定：壁面線の内側の道路幅員を確保するに必要となる敷地面積を確保する必要があります。箇中色塗り敷地は、7mの幅で指定されます。建築基準法上の道路に面している敷地は、箇中の建築物の建築が制限されますが、敷地面積がその用途に適合するものではありません。

駒ヶ林町1丁目南部地区
近隣住環境計画(変更計画案)

【路地C】
建築基準法上の道路ではありませんが、避難等の安全性のため現状の幅員の確保に努める路地です。建築時には路地中心から1.35mの空間確保に努めて下さい。別途建築物に対する規制はありません。

【路地A】
この路地は、建築基準法上の道路で幅員が7mとして指定されます。(法42条3項道路)
この路地にのみ面している敷地で建築物を建てる場合は内縁制限の規制がかかります。

【主要道路】
この路地は、建築基準法上の道路で街区内の緊急車両の進入などのため幅員4mとします。(法42条2項道路) 建築物に対する制限は建築基準法上にはありません。

【路地B】
建築基準法上の道路ではなく、建築物の建築時の建築敷地は、前面空地として路地の中心から1.35mの確保が必要です。また**容積率固定**を行い路地全体にわたって7mの空間を確保します。この路地におも面している敷地では建築物に次の制限がかかります。
●建築物の用途：準居住又は現在の長屋・アパートの用途に限定。
●高さ：地上階数2以下、主要構造部の制限あり。
●指定された壁面線に準じ、かつ建築基準法上の道路(路地A)を越えて面した敷地は新たに ≤ 1 が70%に緩和されます。(箇中色塗り敷地)
●容積率固定：壁面線の内側の道路幅員を確保するに必要となる敷地面積を確保する必要があります。箇中色塗り敷地は、7mの幅で指定されます。建築基準法上の道路に面している敷地は、箇中の建築物の建築が制限されますが、敷地面積がその用途に適合するものではありません。

須磨北町地区

～近隣住環境計画による建替困難解消～





事例②須磨北町3丁目地区(概要)

「住み続けられる細街路のまちタイプ」
(須磨区北町3:平成21年8月14日告示)

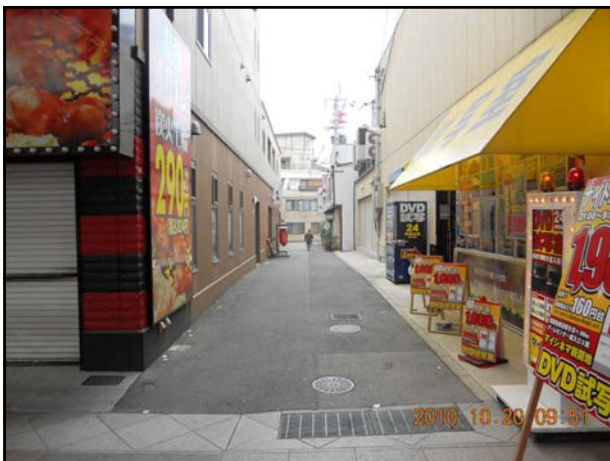
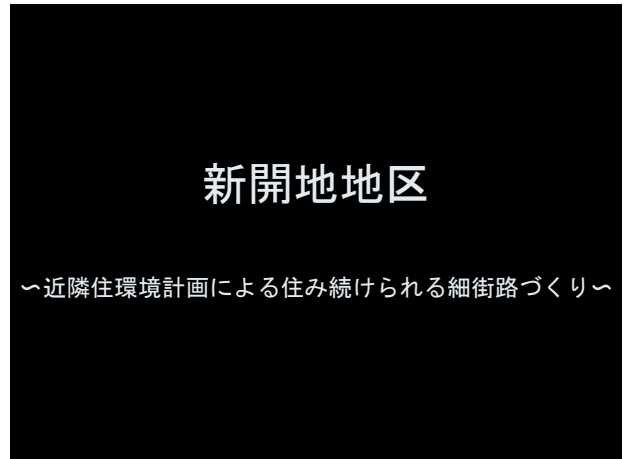
当区域は戦前からの不整形な細街路が残る密集住宅市街地内の区域にある。主要生活道路の整備やその道路沿い敷地における建築物の整備に関する制限等を設け、法令の適用(壁面線指定による角敷地の建ぺい率緩和や、43条(但し書き)の包括同意基準適用等)を行うことにより、生活道路空間の確保、建替え困難地の解消をはかり、当該地区のまちづくり構想の目標である将来とも穏やかに安心して住み続けられる住環境を実現する。

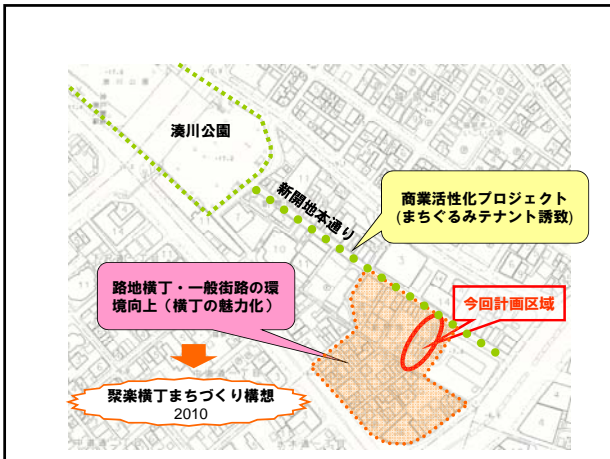
壁面線指定
42-2
中央付近から西側の路地を見る

壁面線指定
西側から計画路地を見る



須磨北町3丁目地区近隣住環境計画	
整備の方針	道路については建築基準法上の道路に該当しない部分も含め、地区の主要な生活道路としてふさわしい4m幅員の道路空間を確保する。 また、建築基準法上の接道条件を満たさない敷地での建築計画については、建築物の構造、階数、高さ等に関する制限をすることにより交通上、安全上、防火上及び衛生上支障がないものとする。
整備の計画	道路 1. 道路A及び道路Bの整備の計画は下記のとおりとする。 (1) 道路の範囲、形態が明確に確認できる状況に整備する。 (2) 道路には、緊急時車両通行や歩行者避難、日常生活の障害となるものは配置せず、道路面としてオープンスペースを確保する。 (3) 道路の中心から2m後退した部分を道路状に整備する。 2. 道路Bの整備の計画は、1.に加えて下記のとおりとする。 (1) 道路面に於いて、建築基準法第46条で規定する壁面線（道路の中心から2m後退した位置）を指定する。
建築物	1. 道路Bに接する敷地における建築物の整備の計画は下記のとおりとする。 (1) 建築物の壁若しくはこれに代る柱又は門若しくはへいは、壁面線を越えて建築しない。 2. 道路Bに接し、かつ建築基準法第42条に規定する道路に接しない敷地における建築物の整備の計画は下記のとおりとする。 (※別途、建築基準法第41条第1項の規定により建築審査会の同意及び特定行政庁の許可を必要とする。) (1) 道路の中心から2m後退した位置を敷地境界線とする。 (2) 用途は専用住宅とする。 (3) 階数は地上階数2以下とする。 (4) 構造は耐火性の高いものとする。 (5) 高さは道路の反対側の壁面線の位置からの距離を水平距離として、道路斜線に準じた高さの制限を適用する。 3. 道路Bと建築基準法第42条に規定する道路によってできた角敷地で、神戸市建築基準法施行細則第11条に規定する敷地に準じた敷地における建築物の整備の計画は下記のとおりとする。 (1) 建ぺい率は、法定建ぺい率に、1/10を加えたものをその限度とする。 (※別途、建築基準法第53条第4項及び第74条の規定により建築審査会の同意及び特定行政庁の許可を必要とする。)





検討事例①新開地2丁目地区(概要)

「うらおいのある路地づくりタイプ」

(兵庫区新開地2:計画概算中)

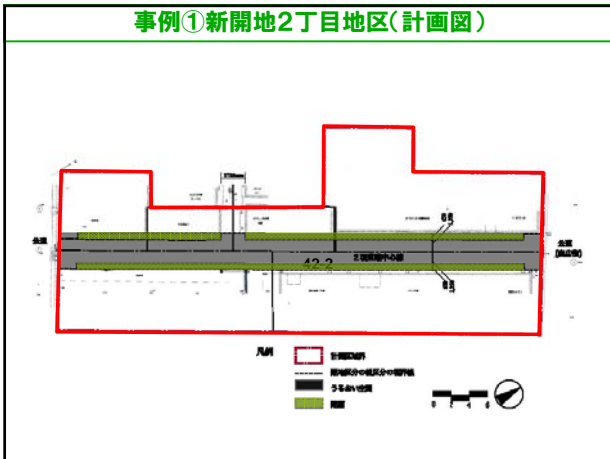
劇場街として繁栄した新開地本通りの後背地に形成された、看板や提灯、植栽といった景観があまり独特の風情が残る区域である。路地の美装化にあわせて、2項道路内に於いて、中央部2.7mの範囲は路面として美装化し、道路境界までの0.65m部分に花壇等の設置を認めることで、横丁の個性を活かした環境の向上し、商いや事業の場、暮らしの場として魅力と安心ある快適なまちを目指し、まちづくり構想の目標である路地づくりの実現を図る。

美化後のイメージ

現況写真

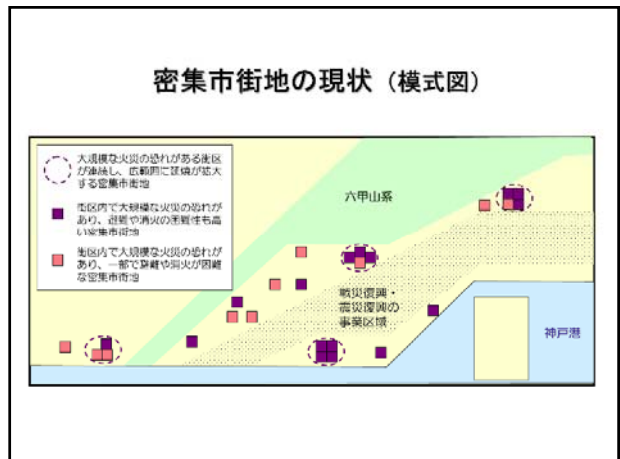
植栽部分の高さは概ね10cm程度まで

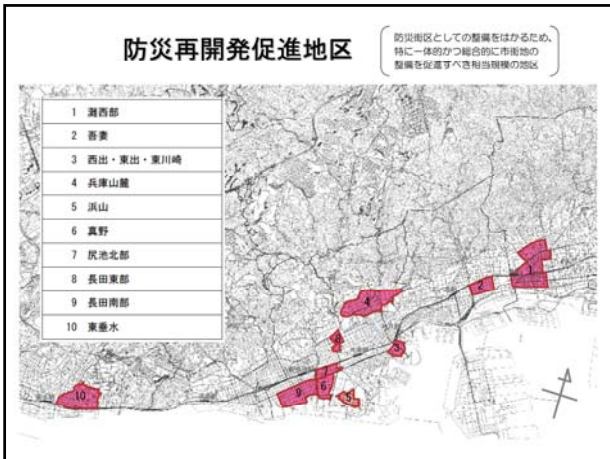
2.7m



新開地2丁目地区近隣住環境計画	
道路の整備の方針及び計画	<p>(道路の整備方針)</p> <p>建築基準法第42条第2項の道路として、道路の中心から2mの範囲には建築物ならびにこれに附属する門、塀、擁壁等は築造せず、路地空間としての4mの幅員を確保する。また、交通、安全、防火、衛生上の機能を確保するとともに、路面の美装化や植栽等により、風情とうらおいのある路地づくりを推進する。</p> <p>(道路の整備計画)</p> <ol style="list-style-type: none"> 路地空間には可燃物を設置しない。 道路の中央部分の幅員2.7mの範囲は路面として整備する。 道路の中央部分の幅員2.7mを超える範囲は風情とうらおいある横丁空間として次の整備を行う。但し、交差点との境界から2mまでの範囲は見通しを確保する為、路面として一体に整備を行う。 <ul style="list-style-type: none"> 住環境形成や利便性確保のためのオープンスペースを確保する。 緊急時の車両通行や歩行者避難等の障害となるものは設けない。 (設置できる花壇の高さは概ね10cm程度までとする。) <p>・風情とうらおいある横丁空間づくりや美化に努める。</p>

神戸市の 密集市街地再生方針





3. 事例報告

(3) 東京都墨田区向島

(料亭きよし 女将 小林 綾子 氏)

□ 活動報告

(3) 東京都墨田区向島 (小林綾子氏)

ただ今ご紹介いただきました小林綾子です。今日は新潟まで呼んでいただきまして大変ありがとうございます。今、司会の方もご紹介していただきましたが、今、東京スカイツリーというのが建っております。墨田区の向島と言うところ、路地の好きな人には向島と言うのはこんなに有名なところだったんだと言う事を今日知ったんですけれども、向島の事例の報告をさせていただきます。墨田区向島、向島って言うのは墨田区にあるんだってことを知らない方も良くいらっしゃるんですけれども、墨田区にありまして、墨田川を挟んで台東区浅草の対面にあります。向島って言うのはどこにあるかちょっと分かりにくい場所なんです。なぜかと言うと駅が無い、向島と言う駅が無いので、どこにあるかちょっと分かりにくいんですけれども、皆様のイメージですと、やっぱり浅草の反対側、浅草の墨田川を隔てた反対側にあります。で、浅草側から見た時に向かい側の島みたいに見えたところから向島という名前がなったのではないかとされておりまして。その昔は柳橋ですとか、今先ほどお話にありました日本橋川とか、そういうところから舟で芸者衆を伴って遊びに来たような場所だったらしいです。今話題の東京スカイツリーはここにあります。本当にお膝元と言って良いところにあります。向島と言うのは有名なところなんです。向島百花園ですとか、墨堤のさくらまつり、あとは(隅田川)花火大会、また、これは「めうがや」(みょうがや)さんと言う足袋屋さんなんですけれども、めうがやさんっていう足袋屋さんがあったり、鴻月(こうげつ)さんという羽子板を作っているところがあったり、べっ甲屋さんがあったり、そういうような店が残っている街です。花街としての向島、「はなまち」、「かがい」と読むのが正しいそうなんですけれども花街としての向島は先ほどお話ししましたように、一番最初は料理屋が川沿いに並んでいて、川から上がってお食事をするようなところがありまして、それが明治時代になって芸者を置くようになった。その後、一番盛んだったのは昭和の初期なんですけれども、昭和の初期は200軒を超える料亭がありまして、1,300人の芸者衆がいたというふうにされておりまして。で、現在なんですけれども、現在も東京には6つの花街があります。その6花街の中で最大の規模を誇っておりまして、料亭は17軒、芸者衆も120人おります。下に、良く言われる向島のキャッチフレーズなんですけれども、向島では「宮さまから畳屋さままで」お客様で上がって頂けると、そういう下町の気の置けない花柳界がございます。向島の5丁目と2丁目、3丁目・4丁目っていうのも国道挟んで反対側にあるんですけれども、2丁目と5丁目のこのエリア内に17軒の料亭が営業しております。これが私の店なんですけれども、「きよし」です。ここは後でもうちょっと出て来ますけれども、大正時代の建物がまだ残っております。こんな感じに、路地の所に料亭が何軒かある。これが向島墨堤組合、この三業会館と同じなんですけれども、通常、見番と呼ばれているところです。向島の花街の特徴はですね、料亭組合と芸妓組合が一緒になって向島墨堤組合という組合を作りました。他の花街に聞きますと、どうしても料亭の方が力が強いというか、雇い側なのでどうしても力が強いので、なかなかその二つの組合、芸妓組合と料亭組合が二つあるとなか

なか難しい。それを一つにいたしまして、平成元年にこの建物を建てまして、2階には緞帳付きの広間も作りまして、色々を使って、普段は芸者衆がお稽古をしているところです。ここに今、写真にあった墨堤組合がここなんですけれども、この前の通りを、見番があるので、通称「見番通り」というふうに呼んでおります。これは三囲（みめぐり）神社という神社なんですけれども、向島には向島七福神巡りというのがございます。七福神巡りというのは江戸時代に粹人墨客と言われた方々が、まちを歩くのに、何かポイントを作らないと歩きにくい、その時に、神社とか仏閣、公園とか、そういうものに七つの神様をしたてて、置いて、そこをみんなで巡ろうじゃないか、そういうふうにしたのが、七福神の始まりで、全国に今ものすごい七福神いっぱいありますけれども、その発祥の地は向島でございます。これが新しくなった三囲神社の玉垣で、江戸消防記念会というのはですね、いわゆる鳶の記念会でございまして、鳶の会の寄付である程度いって、ここでは鳶の頭が100人くらい集まりまして、木遣の奉納なんかも行われるところです。町内鳶というのですけれども、町内に決まった鳶の頭がまだ向島に居ます。「路地 向島」これを見て頂いて特徴的なのが、この桜橋通りを隔てて、こっち側（南側）は道がきちんとなっている。ま、路地好きな方は萌えないと。こっち側（北側）の地域は、赤で示したところは私道なんですけれども、ものすごく私道が多くって、うちの店はこの辺にあるんですけれども、私道の中にあるんですね。これが特徴的なんです。それはなぜかと言いますと、桜橋通りから南側、向島2丁目のところは、震災で焼けなかったにもかかわらず、区画整理を実施した場所だそうです。とてもたぶん、みんなの街に対する、住む所に対する気持ちが強かった場所なのかな、というふうに思っております。それなので、こっち側（南側）はこうしてみると不思議なくらいキレイ、で、こっち側（北側）はこういうふうに昔からの状態というふうになって、言問橋から、スカイツリーから歩いてくると、この辺（桜橋通り）までは、四角い、いわゆる切っただけのような街で、ここから急に世界が変わるような感じですよ。これはちょっと楽しいかもしれないです。これが路地の五叉路です。これはうちのすぐ近くなんですけれども、路地の五叉路というのはものすごい珍しいんだというふうに言われまして、小さい頃から通っているところがそんなところだったなんていうふうに思ったんですけれども、路地の五叉路があります。このすぐ近くの言問小学校というところの校長先生がお話していたことで、とても印象的なのが、「路地が子供達の優しさを育てているのじゃないか」ということがあります。この辺は自転車が非常に多い所、自転車でみんな移動する、歩いたり自転車だったりするところなんですけれども、自転車が来た時にぶつからないように必ず止まる、必ず知ってる人にあつたら、すれ違う時に挨拶せざるを得ないのが路地なんです。なので、みんな優しさを育てる路地なんじゃないか、とおっしゃっていたのがとても印象的です。大通りにすれ違っていた時に分からなかったことも、おばあちゃんでもみんな挨拶が出来るのが向島の子供達の良さじゃないかと思っています。マニア受けするらしいんですが、偶然ながら五叉路のマンホールのデザインも五弁の花となっています。こんなような建物もまだ残っております、ここは鳩の街の商店街という、いわゆる向島学会さんがよくワークショップやってる所で、元赤線だったところですね。昭和の初期は赤線だったので、今でも歩きますと上の方がちょっとタイル張りになってたりして、2階家からお姉さんがちょっと覗いているような風情がまだ残っているようなところがあります。このように路地園芸というのもものすごく盛んでして、こういうのみんな私道なんです。さっきの神戸の話じゃないですけれども、みんな誰かの土地で、私道につきお断りっていう標識も昔よく書いてあったことなんですけれども、最近はそのような事を言わなくなりました。この路地尊という、さきほど、一番最初の話に出て来ましたが、防災のまちづくりのシンボルで、雨水を利用して、バケツリレーが出来る、こんな細い道はどうやって消防車が入りませんので、みんなホースを通してバケツリレーをやるというところで、消防団の活動もものすごく盛んなところです。この路地尊というのは世界

中から、この雨水利用という事で見学者が来る場所です。

粋な黒塀、見越しのタワーとかきましたけども、赤く囲いましたところが向島と呼ばれる場所で、何と500mほどしか離れてないんですね。ということは、このスカイツリーは634m（ムサシ）が倒れると、ちょうど向島のところに頭が突っ込んでしまう、ま、縁起でもない事ですので、地元でいうと怒られるんですが、新潟なので言わせていただきます。これがとって頂いた写真で、ここがうちの店「きよし」なんですけども、「きよし」の上にちょうど、アンテナのように立っています。これがだんだん見えてきた時から感動的でしたね。そしてここがスキマツリー。これは私が勝手にスキマツリーと呼んでいるんですけども、みんな私のツリー見て！って言ってるんですけども、マンションとアパートの間から、スカイツリーが奇跡的に見えている。ここの電信柱をですね、取ってしまえという方と、言うは何メートルかずらしてくれるらしいんですけども、取ってしまえという方と、あった方がいいという方と、両方どっちにしようかな、というところがございます。で、そこのところから点灯した時には皆で見ようかな、というふうに思っております。で、これは何で路地と関係あるかと言いますと、ここの下の所は路地なんですね。ここのところが路地なので、スカイツリーが見えるということなんですね。スカイツリーの楽しみ方、向島的な楽しみ方は、さっきのように道がくねくねしてますので、こっちに見えた方と思うと、こっちに見えたり、こっち側から、三角が丸になっている形なので、見え方によってちょっと形が変わって見えるんですね。それが、向島を歩いているだけで、いろんなところから見えるというのが、今隠れてたと思ったのが出てきたみたいな、面白いところです。東京スカイツリーは24年に開業されて、年間2000万人集客されるというふうに言われています。で、向島地区では開業と同時に観光振興もありますし、地域振興もありまして、色々な活動を始めてます。で、これが向島まちおこしの会と言う事なんですけれども、さっきの話に出ました見番通りというのをどういう通りにしていったら良いか、今行くところとちょっとがっくりするくらい何もない通りになってしまっているんで、これは何かもうちょっと考えたい。イベントをやるとかそういう事を考えて、地元の飲食、商店主を交えて住んでるお勤めの方とか、若女将、若旦那、鳶の頭ですとか、そういう方が集まってやってる会です。こんなように、目指したいイメージですねこれは。で、見番通りってというのはさっき言った七福神にある神社とお寺が3つありまして、しかも小学校もあります。なので、昼と夜が違うまちにならないとちょっと難しいのかな、というところで次が夜のイメージです。夜はこういう感じで、昼がこういう感じって言うふうに、照明とかを利用してやれたら良いな、というふうに思っています。これが花のお座敷と言う芸者衆の歌と踊り、お座敷遊びなんかを2000円で見て頂いたという、若い芸者衆が多いというのが向島の特徴なんですけれども、若い芸者衆が勉強にもなるし、皆さんに披露もできるという場を作りたいということをやって、今年で4回やりました。粋だね得ダネ向島というまちおこし新聞も配布しております。次が国交省の助成金がでまして、それで、今、景観に関する地元の意向調査、向島の見番通りをどういう通りにしたいのか、また、どういうふうにしたくないのか、今まで通りが良いのか、変わって行って方が良いのか、そういう事をアンケート調査したり、木造の古い料亭の耐震補強をしたりですとか、あと、修景に関する整備、観光に関する整備をするという事で国土交通省からお金が出ました。それで今ですね、またうちが出て来ましたが、うちは昭和24年の建物で、築60年くらい経っている建物で、東京では60年経っていると結構古い方なんですね。この事業をやる時に初めて図面を作った。その前までは図面もなかったようなところで、この隣の、こっちは花の里さんと言うところなんですけれども、これは関東大震災後に作った建物で、大正時代の建物そのまま使って営業しております。こういう古い建物を、耐震補強をすることで、新しく建て替えるのではなく、今の木造のまま残して、路地の奥に料亭があるよというふうにしていきたいな、という事で今、なんと今日、うちは

工事をしております。あともう一つ、先ほど見て頂きました三囲神社の玉垣がございましたけども、新しくなった玉垣の横が、三囲さんの自宅なんですけれども、ここがずっとブロック塀になってしまっているの、さっきもどこかの事例で出ましたが、板塀にしていこうじゃないかと言う事でございます。で、来年の路地サミットは向島でやらせて頂くことになっております。来年の秋ぐらいだと思いますけれども、皆様ぜひぜひいらっしゃいませ、という事でよろしく願いいたします。これで報告を終わらせていただきます。ありがとうございました。

下町・花街・向島の紹介

向島 料亭「きよし」 若女将
小林 綾子

墨田区 向島の概要

- 墨田区の北西部
- 隅田川を挟んで台東区・浅草の対面に位置
- 向島1丁目～5丁目で人口約14,000人
- 東向島1丁目～6丁目で人口約23,000人

【主な観光資源】

- 隅田川花火大会、墨堤さくらまつり、隅田川七福神などの行事や、百花園などの伝統ある観光名所、都内最大規模を誇る花街がある



【地名の由来】

諸説あるが、江戸庶民が遊んだ吉原や浅草寺の向かい側という意味で「向島」...と言われている



向島百花園



隅田川花火大会



墨堤さくらまつり



伝統工芸 足袋の「めうがや」

花街 向島

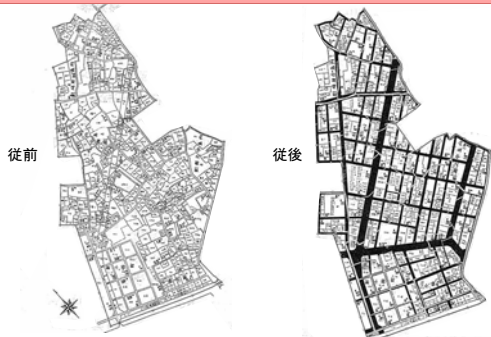
- 都内最大の花街「向島」
⇒ 江戸後期頃から隅田川沿いに生まれた料理屋が花街の原型
⇒ 昭和初期には200件を越える料亭と1,300人にのぼる芸妓が江戸の粋を体現
⇒ 現在も東京の花街(日本橋芳町、柳橋、新橋、赤坂、神楽坂、浅草、向島)の中で最大規模を誇り、料亭は17件、芸妓衆も120人在籍
- 宮さまから畳屋まで
⇒ 下町・向島の花街の敷居は高くないという意味で「宮さまから畳屋まで」楽しませるとい言葉と心意気が息づいている





桜橋通りから南側(向島2丁目)に路地(私道)が少ない理由

帝都復興事業の区画整理施行地区は主に震災焼失区を対象とした65地区だが、向島2丁目(桜橋通り以南)は非焼失区ながら地元の要望を国が受け入れて区画整理を実施したため





路地蔵は雨水を利用した防災まちづくりのシンボル



♪ 粋な黒塚 見越しのタワー ♪

- 向島・花街と東京スカイツリーとは約500mの距離

料亭「きよし」の背後に「東京スカイツリー」...

お座敷の窓を開ければそこにタワーが...これを称して「東京スキマツリー」

東京スカイツリーの効果を見据えて

- 平成24年春に開業が予定されている「東京スカイツリー」
- タワー単独の集客が年間540万人、周辺施設も含めると年間2,000万人の集客が予想されています。

⇒ 向島地域では、タワーの開業効果を観光振興や地域活性化を目指して、様々な活動を始めています。

向島町おこしの会の活動

- 地元の飲食・商店主、料亭の若女将・若旦那、鳶頭、地域住民などが平成19年から活動
- 平成20年には墨田区のまちづくり活動団体の認定を受ける

<主な活動内容>

- ◆ 見番通り周辺のまちづくり活動
- ◆ 地域活性化に資するイベント開催
- ◆ 地域を知ってもらうための情報発信

見番通り周辺のまちづくりの検討

- 向嶋墨堤組合(通称:見番)がある「見番通り」を花街・向島のシンボル道路として位置づけ、名称にふさわしい景観整備を推進しています。



目指したいイメージ



目指したいイメージ

「向島 華のお座敷」の開催

- 芸妓の唄と踊り、お座敷での遊びなどをリーズナブルな料金で楽しんでもらい、花街文化を知ってもらうイベントの開催(今年で4回開催)



町おこし新聞「粋だね得ダネ向島」の発行

- まちづくり活動や地域のお店や季節の催事を紹介する新聞を発行「向島2丁目と5丁目の各戸に配布しています。」



「建設業の元気回復事業(国交省)」によるまちづくり

- 新タワー開業を見据えた観光まちづくりを契機に地域建設業界に求められる新たな展開として向島地域では下記の事業を展開している

<主な事業内容>

- ◆ 景観に関する地元意向調査(アンケート調査)
- ◆ 古い料亭の現状維持に資する耐震補強
- ◆ 修景に資する整備、観光振興に資する整備

料亭の耐震補強 ※外観を現状にとどめつつ耐震補強を実施



見番通りの三囲神社ブロック塀の修景(黒塀) ※検討中



全国路地サミット
2011年(第9回)は向島で開催



ござれやござれ 向島
お待ちしております

3. 事例報告

(4) 新潟県上越市

(地域住環境建築研究所 代表 磯田 一裕 氏)

□ 活動報告

(4) 新潟県上越市 (磯田一裕氏)

皆さんこんにちわ。殿を務めさせていただきます直江津からやってきました磯田と申します。実は今日、午前中まち歩きをしまして、第6班という殿の班でございました。一番最後の班で、ちょっと急いで戻ってきたんですけれども、我々の街のご報告をさせて頂きたいと思っております。今日は全国の皆さんにまず直江津ってどんなまち？どこにあるの？と言う方が沢山いらっしゃると思うんですけれども、まず直江津って言うまちを知って頂こうと、それから2番目として、我々の活動を少しご理解頂ければなあ、というふうに思っております。それから3番目、我々の今取り組んでおります、直江津・三八まち物語というまちづくりは、路地だけの取り組みではないんですけれども、これから積極的に路地をどうして行ったらいいかということを考えて行きたいと、そういう意味でぜひ全国の皆さんに、直江津の路地をちょっと見て頂いて、こうしたら良いと、或いはこういうふうが良いよね、というようなご意見、ご感想を、夜学でぜひお聞きしたいなということで、今日やって参りました。どうぞよろしくお願いいたします。直江津って言うのは新潟県の下の方、上越地方、京都から近い方から上越後というふうに呼んでおりますが、ちょうど真ん中に直江津というのがあります。北陸線と信越線の交わる、ちょうど日本のど真ん中に位置しております直江津です。西の文化と東の文化が丁度交わるような位置で、様々な、1300年の昔から、奈良時代から湊町として栄えてきた街でございます。上位計画とまちづくりの市民団体と言う事で、5年ほど前から直江津のまちづくりが非常に積極的に進められてきて、今までも随分やれてきたんですけれども、5年ほど前から市民が積極的に参加し始めたということがございます。そういう中では、市民参加のまちづくりとしては後発、まだまだ熟度が足りないという事なんですけれども、今みんな頑張ってるやっていますところでございます。三八朝市エリアと言うのは実はこのエリアになりまして、これは直江津地区のまちづくり戦略プランというものなんですけれども、都市観光ゾーンと言う位置付けになっております。その後、中心市街地活性化基本計画の策定が進められておまして、上越市は中心市街地が二つあります。直江津地区と高田地区と言うことで二つ出しておるんですが、高田地区はもう認定されておりますが、直江津はいまだ認定ならず、というところがございます。事業化に向けての計画がなかなか進んでいかないというような状況でございます。直江津の中心市街地の中では4つのエリアが示されておまして、それぞれのエリアでもう少し活力あることをしていこうよということで、ここも三八朝市周辺エリアと言う位置付けにされております。こういう上位計画の中での検討委員会を経て、市民活動、市民が立ち上がってまちづくりの活動をそれぞれ進めてきているということで、我々三八朝市周辺を考える市民の会としては三八朝市周辺まちづくり協議会というもの、それから、私が関わっているライオン像の建物をまちづくりに活かす市民の会、それから直江津にコミュニティバスを走らせる会、というような市民団体が立ち上がってきております。先ほど言った直江津の中心市街地というのは、赤い丸のエリアが中心市街地と言う事になるんですが、まちの骨格

としては非常に新潟に近いものがございます。ただ、規模的には全然違うんですけども、北は日本海、東は関川という大きな川、新潟で言えば信濃川なんでしょう、南の方は、今は新興住宅エリアになっておりますが、かつては湿地帯がこの辺にありまして、田んぼだったところです。それと、西側は山の方は、歴史的観光ゾーンと言うふうな位置付けになっておりまして、中心市街地って言うのはこのほんのわずかな砂丘の上に来たまちなんです。これは新潟も同じことが言えるかと思えます。その中で、三八朝市周辺って言うのは、さらに昔の古い直江津のまちなエリアでございます。ここの部分をまちづくりしていこうということです。三八朝市エリアにおける地域ブランドコンセプトというものを考えて、それに沿ってまちな在り方を考えて行こうよと言う活動をしております。送り手としては、我々、ライオン像の建物をまちづくりに活かす会、我々の夢としては、生き生きとした“直江津まち暮らし”の実現、というような、ちょっと大仰なタイトルを付けておりますけども、小さなまちには小さな町なりの、豊かな暮らしみたいなものを、どういう風の実現して行ったら良いかというようなことを目標としております。まちな領域としては先ほどお示した三八朝市周辺エリア、そこからもう少し広めた直江津中心市街地と言う位置関係で範囲を考えておりまして、地域の強み、魅力って言うのは、3つここにまとめております。直江津に100年続きます三八朝市、これは観光の朝市ではなくて生活の朝市なんですけれども、三の付く日と八の付く日に開催されている朝市です。それから②番、旅情あふれる不思議な街並みと路地（小路）空間、直江津では「しょうじ」（小路）と言う風に読みます。砂丘の上に来たまちなので非常に坂が多いと、それからアップダウンがあって、隙間の様な空間から覗くと海が見えたり、丘の上から下の方が見えたりと言うような大変面白い空間がございます。それから③番、歴史に残る様々な物語や史跡ということで、奈良時代の昔から、直江津は先ほどの西と東の文化の交流点というふうなお話をしましたけれども、安寿姫と厨子王丸の話であるとか義経記に出てくる安宅の関であったりとかのお話が実は直江津にもあったりとかいうことで、実は物語、歴史がございます。そういうのをまちな強みとして認識しながら、まちづくりをしていこうと、いうことでやっております。で、シンボルとして上越市最古の近代建築遺産であるライオン像の建物を活かしていくことがまずは重要かなと言う形で考えております。まちづくりは送り手が一生懸命やってもしょうがないんで、受け手の方に対してどういうメッセージを発信できるか、それから受け手の方が、そのまちに対して、どういうイメージを持って頂けるかということを考えてやっていこうかな、と思っております。そういう受け手の方への約束として、大量消費型ではない、思いがけないまちな魅力と、人情味豊かな人と人との触れ合いの提供、こういうスローガンを掲げてまちづくりをしていこうよと考えております。共同の送り手としては、先ほど言った三八朝市周辺のまちづくりの皆さんとか、今日、直江津から一緒に来て頂いております中央商店街の方等と一緒にまちづくりを進めているという段階でございます。先ほど言ったまちな魅力と言う事で、100年続く三八朝市の風景です。この市の特徴は、海産物が非常に多いという事ですね。それから、直江津は鉄道の町なんですけども、鉄道を拠点として、中山間部などから野菜とかを持って来られて、市で販売されてる方が非常に多いということがございます。小学校の社会科の学習にも良く行きます。それから、行列のできる大判焼き（今川焼）のお店もございます。それから、魅力発見の2として旅情あふれる不思議な街並みと小路空間ということで、2段になった街並み、道があったり、それから雁木を持っている町屋、雁木は皆さんご存知の通り、上越市で16. 数キロ繋がっております。日本で一番雁木の長い町なんですけれども、直江津でも少し残っております。雁木の下は私有地、個人の持ち物なんですけれども、皆様方へ提供して、お互いさまという気持ちで、自分の私有地を通行のために使っている。非常に雪が多いので、降雪時の通路として非常に有効でございます。雁木下でよく語らいがあります。直江津は坂の町、丘の上の町ということですけども、路地の空間の先

には海が見えてですね、時折ここに船が通ったりする風景がよく見られます。小路の中で階段があったり、それから人が動いたりとか、そういうような風景がございます。それから、直江津がまだ板塀と言いますかね、木の外壁の建物がまだまだ残っております。海岸線沿いで風雪に耐える、潮風に耐えるような、木の下見板、それから黒い釉薬の瓦の街並、これがまだ残っているところがございます。こうやって写真を見せて行っても、人が全然写っていないと、これが一番の困りごとと言いますかね、悩みでもあるんですけども。これはもう廃業してしまった銭湯なんですけれども、こういう風に丸太で頬杖をして、西風と言いますか、北西の風に耐えていると、直江津の町そのものを象徴しているように、じつと耐えて生きていますと、こんな町なんです。それから直江津は非常に大火が多かった、風が強いのと、それから火事が多かったという事で、煉瓦塀の建物が非常に多くございました。これも随分壊されてしまっていて、まちなかに残っている煉瓦塀の一つでございます。先ほど言った、海沿いのお宅ではこういう下見板のお宅がまだまだ沢山ございます。これも丸太で支えているというようなお宅です。これも金属製の風除けでございます。これは魅力の3番、歴史に残るさまざまな物語ということで、安寿姫と逗子王丸の供養塔、それから謡曲の竹野駅という宝生流の謡曲の舞台となったところに建っているお寺、直江津は先ほど火事が多いと言いましたけれども、土蔵造りの建物が非常に多くございます。これは義経記に出てくる観音寺さんというお寺なんですけど、これも土蔵造りのお寺でございます。ちょっとここで、ちらっと覗いている人がいるんですが、これは先日まち歩きをした時の写真でして、一緒に行った方です。まちづくりのシンボルとして我々が取り組んでいるライオン像の家っているのは、旧直江津銀行と言いまして、明治の後半に、銀行として出来た建物です。それが経営破たんして高橋達太さんと言う方が、大正9年に引き取って移築して現在の所にあると、これが、大正9年に建てた、移築した時の建物の写真です。こちら側が旧直江津銀行で、こっち側が移築した時に建てた建物です。これが現在の、現在と言っても2001年の写真なんですけど、こちら側が煉瓦塀で、これも火事をここで食い止めるって言う事で作られたものなんですけれども、中越沖地震の時に煉瓦塀が倒れまして西側が完全に塀が無くなってしまったという状態です。これがその通称「ライオン像の家」と言っている、ライオン像なんですけど、実はこの持ち主の高橋達太さんって言う方は、直江津の石炭王という風に言われておりまして、石炭で非常に財を成した方なんですけど、三井との取引があったりして、三越のライオンをまねたんじゃなかったかというような話も出ております。作られたのは柏崎の石工さんで、柏崎には何頭かこれの兄弟がおりますので、見て頂ければと思います。ここの建物を使ってまち歩きの時の様子、これ内部の様子なんですけれども、非常に中の調度品がアールデコのものも多くございまして、非常に良い雰囲気、中がホールのような価値になっておりますので、ここの活用の方向についてどうしてやって行ったら良いかという事を我々の会で検討しているということで、建物の魅力とまちづくりの必要性についてはこのようになっております。それから、会の活動として、どんな風に使って行ったら良いかという事を、ワールドカフェと言う手法のワークショップで検討会をしておるところでございます。それから見学会等をさせて頂いております。最後になりますが、協働送り手としての三八朝市周辺まちづくり協議会の皆さんとの連携ということで、今、この地域に句碑・文学碑を建立しながら、文学碑めぐり、或いは拓本の取れるまちづくりというような形で今取り組んでおります。山椒大夫の、森鷗外の字を使った歌碑を建てたり、これは与謝野晶子の碑を建てたりと言う風な形でしてしております。これらの碑を今ソフト事業として、今度はどういう風に使って行ったら良いかということで、俳句講座を開催してたり、それから拓本の取り方の勉強会だとか、実際に俳句を作るようなことしてたりして、それから歴史文学講座と言うようなものを開催してしております。それから協働送り手のもう一つ中央商店街の方々が今取り組んでおります、空き店舗対策事業の「おかず屋 良い案配」というのをやっておりますけれども、ラ

イオン像の建物とのコラボと言う事で、限定でライオンカレーと言うのを出して、その時の企画の打ち合わせの様子、それからライオンカレーのデッサンですね。それから実際に出来たライオンカレーということで、これはもう大変好評を頂きまして、第2弾、第3弾ということでバージョンアップしてやっております。最後、直江津の路地で、今後どうして行ったら良いかという、先ほど申しましたように、そんなに沢山人が訪れる場所ではないんです。けどすごく旅情豊かな、少し寂しげな日本海の風情、そういうのを楽しんで歩いてくれる方がいらっしゃるのかどうか、また、そういう方が、こういう路地を歩きながら、地元の人達とお話をしながら、地元の人達も豊かな気持ちになれるような、そんなまちづくりを目指して今検討しているところでございます。そんな趣旨に合うような、なにか良いアイデアがございましたら、是非またお教え頂ければありがたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

直江津・三八まち物語

～三八朝市周辺エリアにおける地域ブランドの確立をめざして～



平成22年10月23日

ライオン像の建物をまちづくりに活かす会
発起人代表 横田 一裕

■わがまち「直江津」



■直江津まちづくりの上位計画・1

なおえつ地区まちづくり戦略プラン (H18,3)

ひと ◆交流人口を増やす(市内と市外) ◆定住人口を増やす(戸建て、集合住宅)	潤い ◆小売業を中心に商店街を活性化 (交流人口、定住人口を惹きつける魅力)	暮らし ◆市民生活を活性化 (市民生活を活性化)	まちづくり ◆住民のまちづくり意識を高め、協働のまちづくりを進める。
--	---	---------------------------------------	--

■直江津まちづくりの上位計画・2

上越市新・中心市街地活性化基本計画～直江津地区～(素案) (H20)

1) 直江津地区中心市街地活性化基本方針

<将来像>
人ひととを、人とまちをつなぎ、住み働く人が輝き、訪れる人を魅了するまち「なおえつ」

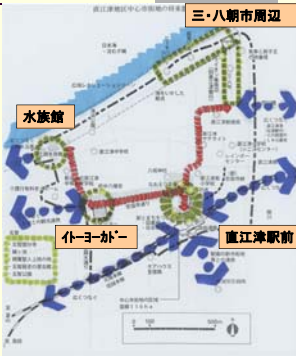
<基本方針>

- (ア) 駅を中心としたまちづくり(駅とまちをつなぐ)
- (イ) 拠点性の向上と連携によるまちづくり(資産をつなぐ)
- (ウ) 「海陸交通のまち」の特性を活かしたまちづくり

2) 直江津地区事業検討会の動き

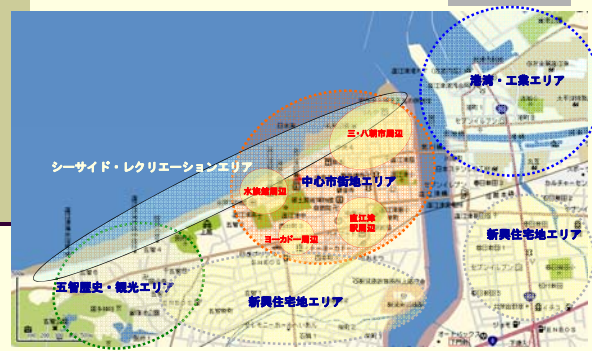
H20年から基本計画の策定に向けた活性化事業が検討され、具体的なまちづくり活動として、三八朝市周辺活性化協議会やライオン像の建物をまちづくりに活かす会、直江津にコミュニティバスを定着させる会など、市民レベルでのまちづくり活動が本格的に動き出した。

直江津のまちづくりでは、拠点4県のうち三八朝市周辺が先導的に活動している状況です。



■三八朝市周辺エリアとは？

何をもちて地域ブランドとするかにより、まちづくりの範囲は決まる！



■三八朝市エリアにおける地域ブランド・コンセプトモデル

■送り手	ライオン像の建物をまちづくりに活かす会
■送り手の夢	生き生きとした「直江津まち暮らし」の実現
■まちの領域	三八朝市周辺6町内のエリアを中心に、もう少し広げた北部直江津中心市街地
■まちの強み	①直江津市民の台所100年続く「三八朝市」 ②旅情あふれる不思議な街並みと路地(小路)空間 ③歴史に残るさまざまな物語や史跡
■シンボル	上越市最古の近代建築遺産であるライオン像の建物
■受け手	①朝市に来る人たち ②五智や石橋など北部中心市街地以外の直江津区の人々 ③直江津を訪れる来街者(ビジネス客や旅情を求める個人観光客など)
■受け手への約束	大量消費型ではない、思いがけない「まちの魅力」と人情味豊かな「人と人とのふれあい」の提供
■協働送り手	三八朝市周辺まちづくり協議会、中央商店街、各町内会、このまちに住む住民(利害関係者)
	このまちに魅力を感じていただいた来街者の方々

■このまちの強み（魅力）の再発見・1

直江津市民の台所100年続く「三八朝市」



■このまちの強み（魅力）の再発見・1

直江津市民の台所100年続く「三八朝市」



■このまちの強み（魅力）の再発見・1

直江津市民の台所100年続く「三八朝市」



■このまちの強み（魅力）の再発見・1

直江津市民の台所100年続く「三八朝市」



■このまちの強み（魅力）の再発見・2

旅情あふれる不思議な街並みと路地（小路）空間



■このまちの強み（魅力）の再発見・2

旅情あふれる不思議な街並みと路地（小路）空間



■このまちの強み（魅力）の再発見・2

旅情あふれる不思議な街並みと路地（小路）空間



■このまちの強み（魅力）の再発見・2

旅情あふれる不思議な街並みと路地（小路）空間



■このまちの強み（魅力）の再発見・2

旅情あふれる不思議な街並みと路地（小路）空間



■このまちの強み（魅力）の再発見・2

旅情あふれる不思議な街並みと路地（小路）空間



■このまちの強み（魅力）の再発見・2

旅情あふれる不思議な街並みと路地（小路）空間



■このまちの強み（魅力）の再発見・2

旅情あふれる不思議な街並みと路地（小路）空間



■このまちの強み（魅力）の再発見・2
旅情あふれる不思議な街並みと路地（小路）空間



19

5) このまちの強み（魅力）の再発見・2
旅情あふれる不思議な街並みと路地（小路）空間



■このまちの強み（魅力）の再発見・2
旅情あふれる不思議な街並みと路地（小路）空間



■このまちの強み（魅力）の再発見・3
歴史に残るさまざまな物語や史跡



■このまちの強み（魅力）の再発見・3
歴史に残るさまざまな物語や史跡



23

■このまちの強み（魅力）の再発見・3
歴史に残るさまざまな物語や史跡



■まちのシンボル、ライオン像の家
旧直江津銀行～高橋回漕店



行銀津江直社會式株

25

■まちのシンボル、ライオン像の家
旧直江津銀行～高橋回漕店



26

■まちのシンボル、ライオン像の家
旧直江津銀行～高橋回漕店



2001/ 9/ 2 3:10pm

27

■まちのシンボル、ライオン像の家
旧直江津銀行～高橋回漕店



■まちのシンボル、ライオン像の家
旧直江津銀行～高橋回漕店



2001/ 9/ 2 3:11pm

29

■まちのシンボル、ライオン像の家
旧直江津銀行～高橋回漕店



■ライオン像の建物の魅力とまちづくりでの必要性

◆「建築的」視点から

- ① 直江津に唯一残る近代建築の歴史的建造物であり、上越市に現存する近代洋風建築として最古のもの
- ② 明治期の西洋風建築で、有形文化財としての登録も十分可能な歴史的遺産
- ③ 明治の建築としての西様、大正期の建築としての東様、そしてレンガの防火壁や漆ったディテール、更には家具調度品などにいたるまで建築的魅力がたいへん豊富な建物

◆「まちの記憶・象徴」としての視点から

- ① 明治期以降の近代における港町・直江津のまちの記憶を伝えられる「生き証人」のような建物
 ・海運業に従事した会社の持ち物であり「港と鉄道のまち・直江津」を、今に伝えることのできる唯一の遺産
 ・土蔵造りの建物やレンガ造りの防火壁は、火事と闘ってきた直江津の人々の歴史の象徴
- ② 現代に住む若い人々や、次世代の子供たちへの「歴史の伝承」と直江津に生きた人々の、そしてこれから生きていく人々の「まちの誇り・象徴」として、たいへん重要

◆「まちづくり」の視点から

- ① 直江津中心市街地活性化のための「重要拠点」であり、周辺エリアの核施設となりうる建物
- ② 「保存・再生・活用」の公民連携のモデルとなりうる建物

31

■活かす会の活動実績 (これまでの取り組み)



■活かす会の活動実績 (これまでの取り組み)



■日本海・直江津旅情ブランドに おける協働送り手との連携



■日本海・直江津旅情ブランドに おける協働送り手との連携



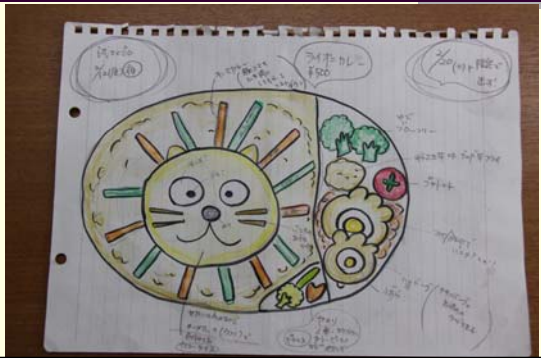
■日本海・直江津旅情ブランドに おける協働送り手との連携



■日本海・直江津旅情ブランドに
おける協働送り手との連携



■日本海・直江津旅情ブランドに
おける協働送り手との連携



■日本海・直江津旅情ブランドに
おける協働送り手との連携



■今後の活動（路地園芸のススメ）



4. パネルディスカッション「まちの楽しみ方 その先に見えるもの」

第1部 「楽しみながら 新潟島の路地再発見」

□ パネルディスカッション

○第1部「楽しみながら新潟島の路地再発見」

(司 会)

これより、「まちの楽しみ方 その先に見えるもの」というテーマでパネルディスカッションを始めさせていただきます。

パネルディスカッションは2部構成になっていまして、まず1部は「楽しみながら新潟島の路地再発見」を開始させていただきます。

それでは、出演者の皆様をお一人ずつご紹介していきます。

新潟シティガイド代表の八木洋さん。

千灯まつり実行委員長の白倉敏幸さん。

新潟市政策監の池田博俊さん。

コメンテーターとして、東京スリバチ学会の皆川典久様。

よろしく願いいたします。

この会の司会進行は路地サミット実行委員会の野内隆裕実行委員長と、私、伊勢みずほでお送りします。どうぞよろしく願いいたします。

はじめに、野内さんから、よろしく願いします。

(野 内)

皆さん、よろしく願いします。

新潟市の私たちが楽しんでいる現場ということで、私たちが皆様に知ってもらいたい、楽しんでもらいたい、伝えたい新潟のまちの現場の簡単な歴史を10分ほど説明させていただきたいと思います。

今回は、新潟町、もう一つは新潟の、下町（しもまち）と新潟では言うのですけれども、この二つのエリアを中心にお話をさせていただきたいと思います。

伝えたい新潟のまち、その1の新潟町なのですけれども、今日、皆様にお集まりいただいている三業会館は、新潟島のランドマークタワーであるNEXT21の展望室から見たわけですが、左側には西堀の寺町ということで、お寺が一直線に並んでいるのです。今日の資料の中に「にいがた寺町から」という『寺』まちあるき地図に全部のお寺が載っているのですけれども、このような形になっております。今回集まっていたいた三業会館は地図で見ると大体この辺りです。この場所が大体江戸時代の最初ころにできたであろう新潟のまちのおおよそのエリアです。

もともと、古新潟町というものがあつたらしく、これが、この場所から日本海に向かって行きますと砂丘になっており高くなっているのです。今の新潟大学医歯学総合病院があるあたりに古新潟町があつたらしいのです。これが当時を語る絵図です。下にある島、これは信濃川にできている島ですが、白山島という名がありまして、ここにお社があるのですが、白山神社です。今日、まち歩きに参加された方はお分かりですが、スタートした場所が白山神社だったわけですが、その島ができていたわけです。

その古新潟町で商売や生活をしていただけですけども、信濃川の砂が運ばれてきて、だんだん浅くなったり、港から遠くなったということで、もう少し港寄りの場所にまちを移していいでしょうか、いいですよということになりまして、大体この辺の位置に移ってきたわけです。古新潟町からこのような形でまちが移ってきたと。明暦元年（1655年）に移転が完了したと言われていました。

これは新潟大神宮にある、明治14年の「新潟港実測図」です。これは皆川さんがよろこんでくれるのではないかと思いますけれども、高低差が非常に鮮明に書かれています。この辺に古新潟町があったのだなど。ここから今のまちに移ってきた。まさに今我々がいる新潟町は坂の下の新潟町ということです。

我々が住んでいる新潟のまちの中はけっこう案内板ができております。この案内板から見てみましょう。どうも信濃川の流れに沿ってまちがつくられたらしいのです。信濃川があり、これが現在の場所です。

そこから今度は堀が掘られました。堀は前回の国体のときにすべて埋められたということなのですが、戦前の新潟の名所絵はがきを見ると、芸妓さんと堀が必ず絵になっているわけです。現在は西堀通りといいます。多分、今日歩かれたと思いますが、堀は通りの名前で残っており、こういうところでのびれます。堀ができたのとほぼ同時に、堀と堀の間に通りがつくられたわけです。信濃川に並行に沿って通りがつくられました。これが現在の本町通、古町通となっているわけです。これが現在に続いているということです。

このように信濃川に向かって真っ直ぐに小路がたくさんつくられたわけです。この形が現在に続いているわけです。その小路も真ん中にあるのが新潟の目抜き通りである柁谷小路ですけども、何車線もあるところもあれば、車が通れない小路もあるわけです。「すべての小路は信濃川へ通ず」と、スリパチ学会へのライバル心もありますけれども、これはだれが言ったかということ、私が勝手に言っただけでですけども、この辺はちょっとあやしいですね。

そんな新潟町ですけども、町ごとにエリアがきちんと決められてつくられたようです。今日皆さんにスタートしていただいた白山神社、先ほどの西堀の寺町、ここから向こうは砂丘だったわけですから、まち外れにお寺が集められたということです。古町5番町、6番町、歩かれたときに「古町演芸場」や「ドカベン」の銅像がある場所ですが、あそこは昔、旅籠町だったわけです。これは、江戸名所図絵などの挿絵を描かれている長谷川雪丹さんが新潟にやって来たときに描き残した絵でして、新潟の旅籠に泊まっている絵で、この場所をはっきり分かっておりまして、古町5番町の「會津屋」さんの向かいの「海老屋」で飲み食いしたらしいのです。芸妓さんの絵をまめに描き残して下さっているわけです。

そして、今日、皆さんに集まっていたら、古町通7番町、8番町のこの辺は料亭エリアです。昔は古五之町、六之町というのがありまして、先ほどの旅籠町は二之町、三之町です。ですから、「二・三は小粋で五・六全盛」という言葉もあるようだったのです。ほかにも、新津屋小路という、堀の脇に川船で荷物が運ばれてくるわけですから、市（いち）が立ち、それが現在の本町市場です。今、イトーヨーカドーがある場所です。その川下の御祭堀というのがありますが、堀の脇には野菜などが集まって、本町の下（しも）市場、現在のフレッシュ本町ができています。

これは後の世なのですが、この辺が1655年にできたあたりのころは、この辺が町外れで、ここから向こうが港だったということで、港の船の出入りを見る場所として日和山というものが設けられたようです。やはりここにも長谷川雪丹さんが訪れていまして、このような絵を残して下さっております。この手前の部分が今日スタートした白山神社ですけども、午前中にまち歩きをしてくださった人は、こんなふう歩いて、こんなふう歩いて、こんなふう歩いてきたのです。このようなまちで

ありました。これがまず最初に知ってもらいたい新潟のまちです。そのことについて詳しく書いてあるのが、小路めぐり地図の本町編と古町編です。

もう一つ伝えたい新潟のまち。それは新潟の下町（しもまち）なのですけれども、このまちはどういう場所かといいますと、先ほど新潟町がございました。それが、信濃川によって運ばれてくる砂によって河口に土地が伸び島ができて合体するわけです。そして、砂がどんどん運び出され、河口に流されて海に行くのですけれども、波に押し戻されどんどんたまっていつて砂丘を形成するというプロセスで土地ができ、そこに人が住むようになり、そこが現在の下町といわれているエリアでございます。先ほどの新潟町と違って、新潟島というのは整然としているのですけれども、下町のほうは段階を経て少しずつ広がってきているので、明日、まち歩きで歩かれる方もいらっしゃるのですけれども、方向が分からなくなってしまうのです。迷路のように、あっちへ行ったり、こっちへ行ったりと。こういう歴史で出来上がっているまちがございます。このまちについて知ってもらいたい、歩いてもらいたいということのでつったのが新潟下町あるき地図ということです。

先ほどの日和山は、新潟のまちというのは港である信濃川のほうが低くなっているまちで、海に行くに従って山になっているわけです。ですので、あの辺を勝手に「日和山登山のしおり」と命名してしまっただと。そんな形で、伝えたい新潟のまちの歴史は終わります。10分の約束でしたが、ぴったり10分ですね。

ここからなのです。新潟のロジノリ。ロジノリというのは一体何か。楽しんでいるノリを、まず、4名ほどが登場します。その4名がどのようにして結びついていつて、関係を広げていったかということをご紹介させていただきたいと思います。

最初の登場者、伊勢さん、お願いします。

(伊 勢)

この方です。

(野 内)

私です。というわけで、私が取り組んだ話をちょっと紹介させていただきたいと思います。

「ロジノリ！自分のまちの楽しみ方」ということで、楽しんでいる人々その1と。これはただの飲み会の写真のように見えますけれども、コアな、roji-ren と言われている、勝手に読んでいるところもあるのですけれども、路地好き、もしくは巻き込まれてしまった人たちが無理やり集められてご飯を食べている図なのですけれども、本当に楽しそうにやっている中の一人が私でございます。

先ほどの歴史に戻りますけれども、こういうふうに見ると、なかなか興味を持つのです。おもしろいなど。私の行動原理を文にするとこうなのです。「まちは、興味を持って歩いてみると発見があって楽しい」と。楽しいものはだれかに伝えたくてしまうのです。どうして伝えたいのか、自分でもよく分からないのですけれども、多分、人間の本能なのではないかと思っています。そして、楽しさをだれかと共有したいという行動原理で動いているのだらうと。最近いろいろと聞かれて、しょうがないのでこういうふう書いてみたのですけれども、実はあまり考えていないのです。

ということで、1998年に、当時、インターネットが始まったころ、「にいがたなじらねっと」というホームページを始めまして、ここで、今あるようなお寺や神社や自分の好きな風景を、観光案内の目線ではなくて、こういう風景、こういう場所、こういう歴史が好きで自分があるという自己表現のような感じで作ったのがこのホームページだったのです。出してみると、「それ、俺も好きだよ」という人たちが集まってきて、2001年、ネットで知りあった人たちというのも何かあやしい感じがしますけれども、俺もそういうのがけっこう好きだよという人たちが集まって、そういう仲間と下町めぐ

りということで、せっかくだからそのスキルを活かそうということで、私が案内をするようになってきました。これなどはスケールは小さいですけども、スリバチ学会の集まりの形に似ているような感じがするのです。

そうこうしているうちに、下も本町市場で、下町にいがたウォークという、これもやはりまちを歩いて、自分のまちに興味を持とうというイベントがあった中で、あいつはインターネットとかいろいろなことをしていて詳しそうだから、あいつもガイドの一人に入れようということでお声がかかりまして、実際にガイドをするようになったのです。ガイドをするとダイレクトに反応がくるものですからノってしまふわけですけども、その中で、もう少し分かりやすく伝えられるような、せっかくだから、聞いてくれた方がよろこんでくださるようなツールをつくろうということになりました。

痛いですね、こういう地図を勝手に作って、勝手に配っていたと。これも痛いですね。西堀の寺まちあるき地図。今回はバージョン4というのが縁起の悪い黒い表紙になってしまったのですけれども、これも第4版です。最初に作ったのが2002年ですから、大分進化してきたわけですが、こんなものを作ったり、日和山共同墓地地図ということで、でも、ここは素晴らしいんですよ。オギノ式の荻野久作さんは実は新潟名誉市民なんですけども、そのお墓があつたりします。伝えたくなくなってしまうんですね。このようなものを作ったりしておりました。

先ほども登場しました日和山なのですけれども、これは10年前の日和山なのですけれども、実は新潟市民から忘れ去られている場所です。これは先ほどの雪丹さんの絵です。これは大正期で、やぐらがあつたりして、名所絵はがきに載るくらいですからけっこうな名所だったので、いつしか忘れ去られて、非常に荒れていたのです。これをどうしてもだれかに伝えたいということで、なつかしいですね、このときに日和山登山のしおりを作っていたんですね。自分で作って勝手に配っていたと。そろそろ面倒くさくなつてきて、手ぶらで案内ができたらいいなということで、許可を得て、現地のお社に先ほどの歴史案内板を貼って、実際に案内をしたときに、これだよということでやっていたということです。

同じような歴史でスタートしていた小路にも非常に興味を持っていたのですけれども、これを何らかの形で紹介できたらいいなと思っていたところ、2002年に新潟市が旧新潟町の主な小路という地図を発行してくださったのです。もともとあつた郷土史の本からこれを抽出して、このような地図として発行してくれたわけですけども、これは非常にうれしかったですね。これはいいぞと。これはぜひ活用したいと思いました。ただ、現地に、今のように、ここは何々小路という案内板がなかったのです。年配の方に聞けば、ここは何か小路だという話は出てくるのですけれども、その話になるきっかけがなかなか生まれてこなかったわけです。

です。現地に案内板があればいいなと。しょうがない、自分で作るだけだということで、これは自分でパソコンで作ってパウチをして、何々小路の下に歴史を書いて、こっそり夜中に貼ったり、最近、それがクローズアップされすぎなののですけれども、ちがうんですよ。お友達とかきちんと許可を得て、いいよといって貼ってくださったところもあるのですけれども、勝手に貼ったのは二、三か所しかないわけですね。

それはいいのですけれども、こういうものを貼りましたら、けっこう評判がよかつたようなのですけれども、実際に小路めぐりの案内をするときに、小学生に、ここは何々小路で、こういう歴史があると言っても全然聞いてくれないのです。これは歴史だけじゃだめだぞと思ひまして、何かいい方法はないかと。そうすると、歴史だけではなくて、小路というのは歩いてみると、現在の風景も宝ではないかということで、2年後にバージョン2を作りました。これはかなりスムーズに貼れました。いいですよと

いう感じで貼ってくれたわけですが、小路名と歴史、下にイラストを加えてみたわけです。

例えばこのように、斎川小路、日和山のすぐ下の小路ですので、「日和山を越え海の風」と自分ではすばらしいコピーだと思いながら一人で楽しんでいたわけです。例えば熊谷小路の銭湯の絵がいいぞと。私は実は消しゴム版画家のナンシー関さんが大好きでして、ナンシーさんのような、これを版画か消しゴムの絵か勘違いしてくれる人がいないかと思ってこういうふうには作っていて、将来、ハンコを作ろうということを入りつつイラストを描いていたわけです。茂作小路はこんな感じで、「むさむさ食った」と、歌に出てくる場所なのですけれども、こういうふうにして入れました。痛いですね、下町小路めぐりとい地図を 2004 年にまた発行してしまったわけなのです。

でも、ふるさと地図で、お宝再発見ということで新潟日報さんに紹介していただいたわけですが、歩いて地図を紹介と。2004 年にこんなふうで紹介していただいたのですけれども、注目ポイントはここです。町屋めぐり、これは村上の吉川さんという、新潟の観光カリスマの方と同じように出ていたわけですが、あちらはすっかり観光カリスマで、この差は何なのだろうと思いつつ、しみじみとチラシを見て感慨にふけっている私でございます。

ということで、このように、自分がやったことを伝えたいと。まず自分からやってみよう。見本を示してやってみようといういたずらな感じで作ったのが、こちらの小路めぐりの案内板でございました。というわけで、自分のまちの楽しみ方、楽しんでいる人々その 2 を紹介したいと思います。よろしくをお願いします。

(伊 勢)

今のお話を聞いて、皆川さんはどのように感じられましたでしょうか。私は最初、野内さんと会ったときに、この人は一体何者なんだろうと思ったのですけれども、ここまで一人でやってしまうというのは。

(皆 川)

過去を調べてみるとおもしろいですよね。今のまちというのは江戸とかそのころからずっと地続きで、まちの骨格というのは変わっていないのです。そういうところにスリバチ学会というのは動いているわけで、何かすごく通じるものがあります。うちは下向きですが。

(野 内)

初めて会ったときにビビっときましたけどね。この人はきているなど。

(伊 勢)

運命の出会いがあつて今日があるわけですが、それでは、続いて発表していただくのはこの方です。池田さんです。池田さん、よろしくお願ひいたします。

(池 田)

この絵は去年の全国路地サミット神戸大会のときの交流パーティーです。ぜひ今年は新潟へということで、新潟の 96 の蔵元の名前入りの T シャツを着て宣伝してまいりました。今日も着ております。ようこそおいでいただきました。今年 6 月に小鹿野におじゃましたときにこの T シャツで、10 月には絶対新潟に来てねとお願ひしたら、見目うるわしいキョウコシスターズのお着物のお二人も来ていただいて、本当にうれしく思います。

神戸の長田区という、横山光輝という鉄人 28 号の作家さんゆかりの地に、鉄人 28 号の大きなモニュメントがあるのですけれども、そのポーズで撮ったわけですが、「ないものねだりではなく、あるもの探し」というコピーですけれども、鉄人かつこいいな、新潟にもほしいね。これではだめなわけです。新潟には何の縁もゆかりもない、歴史も文化もない、そんなものをだけほしがっていてもしょうがない。

東京スカイツリーが新潟にもほしいなと言ってもあり得ないわけです。それであるもの探し。新潟のお酒、例えば一つがこれだったわけです。

平成 17 年くらいに、新潟市の大合併が終わりまして、これからいよいよ政令市に向けて、まちなかに力を入れていかなければいけないと。新潟のまちなかのあるもの探しをして、どんどん磨いていかなければいけないと日々悩んでいたときに、これを見つけたわけです。一体だれがやっているの？これ。そうだよ、小路は宝だよ。見つけちゃったよ。こういうことをやろうよと。いろいろとつてをたどって、電信柱にこんな違法なことをやっている奴ってだれだと探したら、どうやら野内という人らしい。「にいがたなじらねっと」というものをやっている、下町のオタクらしいということ突きとめ、いろいろなアプローチを試みます。

まちなかをどんどん元気にしようということで、古町周辺地区まちづくり基本計画というものを平成 18 年くらいに作るのですが、市民円卓会議という形をとって、各地区の代表、いろいろな活動をしている人たちでまちなかがわくわくするような計画を作ろうという取り組みをしました。その委員に野内さんに入ってもらったのです。そしてストーカーのように寄り添って、「野内さん、あの札さ、作らん？金ならあるよ」と。

(野 内)

これが行政の畏かと思いましたね。

(池 田)

「もっといいもの作らん？」と言って、夜討ち朝駆けのようにすり寄っていきました。最初、何だこのおっさんみたいな感じで、大変嫌がられて、あやしまれていたようなのですが、誠心誠意愛を伝えて、告白して、成就したわけです。そしてこういった計画を立てることができました。まちなかをめぐって楽しいまちにしようということをやったわけです。その第 1 号が小路案内板です。これは本当はもっと下町のほうから先に始めたのですが、看板設置をどんどんやっていきました。併せてマップ作りです。

ちょっと自慢させてもらいますけれども、私と今日名刺交換させていただいた方は、名刺を改めてご覧いただくと、新堀通を私が歩いています。

(野 内)

池田じゃないって。あくまでも池田さんに似ている人ってだけなんですよ。

(池 田)

一度会わせてもらえませんかね。

それをさらに本町通から古町界限にも広げて、今度は古町通のマップを作ります。その延長線上に、先ほどもありました日和山、これは新潟港まちの原点、へそとも言える部分です。これはいろいろな通りや小路などからつながる場所ですので、ここが忘れ去られた場所でありました。まちづくりの原点、港まちの原点は忘れてはいけないということで、今度は逆に野内さんからおねだりされるわけです。「池ちゃん、ここ何とかならないかな？」、「分かった、分かった」と。

(野 内)

言ってないじゃないですか。勝手なこと言うな。

(池 田)

「おぬしも悪よのう」という感じで、悪代官と越後屋の関係が始まるわけです。明日のまち歩きのコースもありますが、港まち風情、まち歩き拠点というものを作り出していきました。そこにはアーカイブもあります。先ほどの野内さんの看板は安っぽい看板もありましたけれども、それをこのように整えさせていただきました。これはお宝看板です。それから、下町のまち歩きの地図、完成した日和山登山

のマップ、お寺の案内板も去年、今年と整備し、今日できたてほやほやのマップを皆さんにお配りしたところですよ。

市民参加のまちづくりということをよく言われるのですけれども、これはおこがましい。市民参加ということは、だれかがやっていることに交ざる。それではやはりうまくいかないというのは私も常々思っていて、これからは実践として行政参加のまちづくり。好きで勝手にやっていたことを見つけて自分の手柄にするという行政参加のまちづくりが、これからは成功するのではないかということで、私のパートを終わらせていただきます。

(伊 勢)

どうもありがとうございました。

(野 内)

池田さん、ありがとうございました。随分、すごいことをしたい人っぽいですけれども、ここからはウラノリということで、「ウラノリ！」という冊子がございます、詳しくはこれを見ていただければいいと思うのですけれども、池田さんなんかひどいですよ。決断をしてくれたのはいいのですけれども、全部現場任せですから、その辺の口説きをちょっとだけ紹介させていただきたいと思います。

これが池田さんの犠牲者と言われる人たちで、デザイナーの上田さん、イラスト野内、担当者の加藤絵美さん、この人は一番かわいそうで、池田さんの被害者の会を立ち上げたいくらいなのですけれども、そういうふうに任せていただいたのですけれども、どの部分でそういうふうに通ってくださったの？と聞いたら、ノリというか、宝のとらえ方だということだったので、そうであれば、好きにさせてもらってもいいの？と言った、いいよと言うので、好きにさせてもらおうよ、責任は全部とってねということで作らせていただきました。この冊子を見ていただければ分かると思います。

ただ、その中で、上田さんや加藤さんときちんと作らせていただいた基本は、新潟のまちの歴史を小路の風景、今までは市にあるマップなどを見ていると、歴史はきちんと書いてあるのですけれども、細かい字を全部読んでいく気にならなくて、もっと違う見方があるのではないかということで、そこで、小路の風景というノリを通して紹介したのがこの本町編です。古町通の花柳界では花街文化がたくさん残っていますから、もてなしの文化と小路の風景というノリを通して紹介したのが古町通編です。これは痛いですよ。下町の地形の高低差というノリですね。日和山は標高 27 メートルしかないのですけれども、これを登山と言い切ってしまうと。いいよねという感じでやってしまったのです。日和山は 10 年前は本当に登る人がいなかったのですけれども、今は週末となるとものすごい人が日和山に登っているのです。ということで、このようなメンバーが遊ばないで真面目に作っていたということです。

上田さんと二人で話して中で、まちの歴史など難しい話を難しく伝えるのは多分簡単なことで、それを分かりやすく、興味を持ってもらえるように、そしてここを一番お願いして上田さんに作っていただいたわけですが、読むだけで実際に歩いているような気持ちにさせて、この風景はどこにあるのかなと、歩いてみたくなるような地図を作ろうということで、この地図が完成したというわけでございます。この辺の裏の話はどうでもいいことです。

次の楽しんでる人その3ということで、こちらです。

(伊 勢)

今日は新潟シティガイドの代表で来ていただきました八木洋さんです。八木さん、よろしくお願いたします。

(八 木)

新潟シティガイドの八木といいます。今、お話がありましたように、野内さんの酔狂から始まった何

か分からないことが、そのうちに行政が乗かって、またその上に乗かったのが私たちなのです。やらせてやっているような感じもしないでもないですけども、私たちが活動している団体は「新潟シティガイド」という名前です。これは横浜シティガイドの真似なのです。

私たちは、3年前に新潟市の観光政策課というところが実施した、みなとまち新潟観光ボランティアガイド養成講座というものがあつたのですけれども、その講座を修了した者たちで立ち上げた市民の団体です。主に、新潟の旧市街、新潟島といわれるまちを歩いて、まちの中を紹介しようという活動をしています。講座では、大体、野内さんが先生だったのですけれども、そのほかにも、新潟市歴史博物館の学芸員の方や建築の専門家などからいろいろな知識を学びました。そして実際にまちに出て実習もしました。

まち歩きのコースを検討したり、内部でいろいろと勉強もしたのですけれども、立ち上げる前には、最終的にマナーの研修なども受けまして、ガイドとしてふさわしい行動ができるかどうかも確認させてもらいました。どうも発足当時から注目されていたようで、これは総会の様子ですけれども、新聞にも取り上げられました。タイトルが気に入らないのです。

(野 内)

ほめているのか、けなしているのかという感じですよ。

(八 木)

それでも注目されているなということで、半分下向きながら納得しました。そのようなことで活動するようになりました。

今年で3年目になるのですけれども、現在、会員は47名です。そのうち女性が11名で、平均年齢は65歳くらいだと思います。計算したわけではないので分かりませんが、そんなものだと思います。みんな元気で歩いて活動しています。私たちは一人500円で、一人のお客様でも一人のガイドがご案内します。年中無休です。正月と大晦日くらいは休ませていただきたいけれども、あとは台風でもこないかぎり、四日前までに申し込んでいただきますと出動いたします。そういう活動をしているわけですけれども、3年目ということで、これは2年目の新聞で少し納得したのですけれども、滑り出し好調と。

(野 内)

滑り出し好調ですね。1年前の新聞の写真が全く一緒なのですけれども、この持ち上げ方は何なのかというくらいの盛況ぶりです。もう少しちゃんと取材しろという感じですけども。

(八 木)

えらく手抜きの記事で、どうしたらいいか分からないのですけれども。この、500円をもらってやるガイドというのは、当初は150人か250人くらいお客さんが来るかなと。会員の中には、絶対にそんなに来るはずがないので、営業活動をしましょうとか、いろいろとあつたのですけれども、初年度が489人、去年が709人、今年はずでに869人ということで、大体4割増くらいで増えているのです。ですので、私たちもけっこう忙しくなっています。今日も明日もとか、あるいは午前やって、午後やるといふときもあつて、少しくたびれたりするのですけれども。

(野 内)

ジャーニーズみたいですよ。

(八 木)

それでも年々お客さんも増えてきて、活発に活動させていただいています。

そういう中で、先ほどからお話がありますけれども、野内さんのイラストの小路案内板なども含めて、すでにまち歩きのガイドをするために必要なツールみたいなものは、行政も含めて準備をしてくれてい

ましたので、非常にやりやすかったと言えます。

私たちの活動としては、私たちは、いわゆる新潟島の中で基本的に九つのコースを決めて、申し込みを受けて歩くのですけれども、それ以外にも、ここからここまで行ってほしいとか、違うコースはないかと言われれば、その段階でお客様とお話をしながら決めたりします。行政から、今年は特に中央区からまち歩き企画をいただきまして、「えんでこ」、歩いていこうというタイトルだったのですけれども、それを担当させてもらったり、あるいはJRの「旅市(たびいち)」という企画があるのですけれども、それにまち歩きを組み込んでいただいたり、そのほかにも、小中学校の総合的な学習の中の地域を知るところで、まち歩きのお手伝いをさせてもらったりしました。活動の機会は着実に増えてきていると思います。私たちはまち歩きを通して、市民や観光客の方に新潟のよさを知ってもらうことを活動の目的ととらえています。

昨年の秋から、新潟市からまち歩きのコースを紹介する「みなとまち新潟まち歩きマップ」を発行してもらいましたし、この春からは新潟シティガイドのホームページも開設いたしました。野内さんや池田さんたちによって整備されたマップです。新潟の町小路めぐり地図や、小路案内板、新潟お宝案内などの看板等を活用させていただいて、新潟市やあるいはほかの団体と協力をしたり、あるいは交流をしながら、より多くの人たちに新潟を知っていただくということを目指して頑張っていこうということで活動させていただいております。よろしく申し上げます。

(野内)

八木さん、ありがとうございます。今日は午前中のまち歩きの案内をしてくださったガイドさんで、本当に楽しそうに、自分の言葉で自分のまちを紹介しているという素晴らしい人たちだと思います。小路めぐりの案内板などをこれだけ活用してくださるといのはすごくありがたいことだと思います。その小路がある場所に住んでいる方が次に登場します。伊勢さん、よろしく申し上げます。楽しんでいる人々その4は。

(伊勢)

この方です。白倉さんです。白倉さんは本町の商店街でダンスモードシラクラという社交ダンスのドレスなどを販売していらっしゃるお店のご主人でいらっしゃいます。それでは、よろしく願いいたします。

(白倉)

こんにちは。千灯まつり実行委員長の白倉と申します。

千灯まつりは今年10回目をやったのですが、10年前からやっているローカルなお祭りで、知らない人が聞くと、お風呂屋さんのお祭りと勘違いするのですが、実はこういった灯籠を道に並べてスローな夜を楽しむお祭りです。発足のきっかけは、10年間からまちに元気がないねとか、人通りが少ないね、何とか昔のような活気のあるまちにしたいねということで、みんなで飲みながら話して、そういった思いの同志たちが考えて、年に一度、夏に灯籠を並べる祭りにしたいのではないかと、最初、千個の灯籠を並べようということで「千灯まつり」と名づけました。

最初の年は町内の人たちだけで、新潟市中央区の本町5番町というところなのですが、そこで大体1,500くらいの灯籠を作れたのですが、そこから発足しました。2年目になると、隣の、今、ぶらっと本町と言っていますけれども、6番町も参加するようになって、近隣の小学校とか中学校にもお願いして、灯籠を作ってもらえるようになりました。そういうふうになると、子どもたちの親御といった方々もお見えになってくるので、祭りもだんだん厚みが出てきました。

小路とのかかわりなので、今から2年前に、先ほど野内さんが言っていました、小路マッ

ブや案内板が本町を皮切りにスタートしました。毎年、千灯まつりをやっている中で、毎回、灯籠を並べているだけではつまらないので、何かアクセントがほしいということで、例えば白根の凧を借りた年もありましたし、信濃川をモチーフにした橋みたいなものを作った年もありました。その年は小路を何とか利用することができないかということで、野内さんとかかわりもあり、それを題材にした、今、後ろに小路をデザインした大きい灯籠と真ん中に小さい灯籠があるのですけれども、そのときに大きな灯籠を 20 基以上作って、あちこちに並べました。そのようなことで、roji-ren とのかかわりができ、千灯まつりと路地が結びつきました。

そのときに、スタンプラリーなどもやりました。スタンプラリーで完成したときにもらえた商品が路地のクリアファイルです。これが初期の路地グッズではなかったかと思っております。こんな感じで、うちの 2 階のダンスホールで作ったのですけれども、町内みんなで協力して灯籠を作りました。

(野 内)

今、4 人登場人物が登場しまして、それがどのように楽しさの共有を始めたかというところに突入したいと思うのですけれども、小路めぐりの案内板や地図を作った中で、一番最初に反応を示してくださったのが白倉さんだったわけです。この辺を一緒に紹介していただけたらと思います。これはかなり大きかったですね。これを白倉さんの 2 階で作っていただきまして、このような形で並べていただきました。これは、日数的にはどのくらいで作れるものですか。

(白 倉)

こういう形にするまでどうするか、最初に木枠で組むとかいろいろと考えたのですけれども、たまたま灯籠の材料を作ってくれている紙屋さんが町内で実行委員にいますので、その人をお願いしてこのような形にしました。これができて、印刷すればあとは組み立てだけなので、その辺は人海戦術でやりました。

(野 内)

この大きいものは灯籠が集まっている場所に並べられたのですけれども、この小さい版を、実際に小路の案内板の下に並べたりして、暗くなってお案内板の場所が分かるように配置をしました。今、白倉さんの話に出ていましたけれども、スタンプラリーをしていただいたのです。キャッチボールみたいなもので、行政で地図ができて、それを当事者が活用してくれたと。そうしたら今度は、行政ではなくて、物好きな連中が、roji-ren niigata でスタンプを作ろうと。スタンプを作ってスタンプラリーをやって、その小路を歩いてもらう仕掛けをつくろうということで、ある意味、白川さんとのコラボですよ。

(白 倉)

我々も会場を 1 か所だけに固まらないで迂回してもらうという目的で、このときは上古町もあったのですけれども、そちらにも迂回してもらう目的でスタンプラリーをやりました。

(野 内)

知らないうちに自然に知りあったという感じになりましたね。小路を通してくつついていった感じですね。これがスタンプラリーの様子です。

(白 倉)

このスタンプもすごいですね。小路のスタンプですからね。

(野 内)

ナンシー関さんの消しゴムハンコを目指していたものですから、非常にスタンプにしやすかったわけです。子どもというのはすごくスタンプが好きなんですよね。このようにめぐって行って、先ほど白倉さんの話にあったように、初年度はスタンプを 11 か所全部押して受付にくるとこのクリアファイルが

もらえると。2年目が、今日、皆さんのお手元にあったと思うのですけれども、方角石せんべいというものと、日和山せんべい、缶バッジまで作ったりしました。缶バッジは子ども大好きで、これも一生懸命集めてくれたわけです。今年は、先ほどあそこに、ご自由にお取りくださいと書いてありますが、小路めぐりのポストカードができました。このときはすでに千灯まつりは広がっていたわけですが、カミフルのほうでもスタンプラリーをやられていましたね。

(白 倉)

今年、案内板完成とともにカミフルのスタンプも完成しました。

(野 内)

数が増えてしまって、17か所くらい押さなければいけない場所があって、距離もけっこうあるのですが、子どもがすごいですよね。押しまくっていますね。

(白 倉)

最初、製品がなくなるかどうか心配していましたが、なくなりましたね。

(野 内)

わずか何時間の間に200人の子どもが、あれだけの距離をスタンプを押しまくって回ったと。やはり歴史的なことから入るよりも、まず遊びとか体験から子どもに小路の存在に気づいてもらうということが目的だったわけです。

子どもといえば、総合学習など、学校で小路めぐりを活用してもらいたいというところで、ここでも白倉さんに大変お世話になりました。総合学習と小路めぐりということですが、これはどういうものだったのでしょうか。

(白 倉)

これは、私の子どもが学校にいたことと、PTAの役員等をしていたので、先生方とよく飲む機会があったのです。その年にちょうどこれがありまして、6年生の担任の先生と飲みながらこれを見せたら、総合学習で、毎年、新潟のことをやっているのですけれども、その先生が「これだ！」と。

(野 内)

言いましたか。「これだ！」と。池田さんと一緒に。

(白 倉)

それで、実際に総合学習に取り入れることになりました。白山小学校では、まず、小路の写真を見ながらオリエンテーリングをしました。小路をめぐるって、子どもたちが興味をおぼえて、文化祭に向けて、自分が気になった小路の絵を描いて、さらに町内の人にインタビューに行ったのです。

(野 内)

新聞も作ったんですよね。

(白 倉)

パンフレットを作るということで、絵とパンフレットが完成したのです。

(野 内)

これがその辺の作品なのですけれども、そのときまでは、写生会となると、有名な神社とかそういうところに行って画いていたのが、普段、子どもですら通り過ぎていた小路をモチーフにし始めたということなのです。白山小学校の子どもさんが描いた小路めぐりの地図なのですけれども、例えば銅屋小路ですが、子どもたちはこれを見て何を感じて、どのように描いたか、こんな感じですね。次に加賀屋小路、これは子どもから見るとどうかと、そのままやんという感じです。次に新津屋小路、これも子どもの目を通してアウトプットされると、こうなるわけです。やはり、この絵がある意味、我々が求めてい

たものというか、子どもたちが自分の体験を通してそこから出してくれたものがこの絵なわけですから、小路を体験してくれたというのが非常にありがたかったわけです。

白倉さん、どうもありがとうございます。

(白 倉)

そちらに飾ってありますね。

(野 内)

そちらに飾ってあるのが子どもたちの総合学習の絵なのですね。

総合学習つながりなのですけれども、先ほどから出ておりますシティガイドの八木さん、よろしくお願いします。八木さんたちも大活躍になってきまして、総合学習のシティガイドが活用されるようになってきたわけですが、けっこう呼ばれるものでしょうか。

(八 木)

小学校、中学校から呼ばれます。私たちは教えることはできませんから、とにかくまちへ出て、小学校、中学校の近くのまちへ出て見てみましょうと。そこから、興味を持ったことについてさらに勉強してほしいというつもりでガイドをしました。

(野 内)

小中学生はけっこう大変ですよ。残酷というか、つまらない話は全然聞いてくれないというか。ガイドは小中学生をクリアすればだれでも案内できるくらいスキルアップできるのです。去年、日報さんにも出ていましたけれども、宮浦中学校の生徒さんがガイドになるためにシティガイドがレクチャーしたと。ですから、シティガイドの教え子みたいな感じですが、こういうつながりができてきました。

また、当事者がその気になってきたということで、本町の市場で豆腐屋さんをやっている小森さんという方が、小路の脇で店をやっているのですけれども、自分のお客さんにエコバッグを差し上げたいのだけれども、どうせなら特徴のあるものがほしいという相談を受けました、「ちょうど小路めぐりのイラストが出たものですから、これを使ったエコバッグを作りたいという相談を受けまして、いいねということで、これも作りました。

これも取扱店が少しずつ増えてきたのです。実際に、これを持って行くと、例えば10円引きとか、スマイルが増えるとか、特典は各お店にお任せしているのですけれども、このバッグを持って歩いている人は小路に興味があるとか、新潟のまちが好きだよということを自己表現するツールで、これは迎える人も歩いている人も発信していて、あの人は小路めぐりをしているということが分かるグッズなので、こういう広がりが当事者から出てきたというのは非常にありがたかったです。

そして、中央区で「えんでこ」というまち歩きが今年非常に活発にやられているわけですが、この中で、このロジバッグが参加者の方に景品がありまして、バッグとあぶらとり紙と味噌とどれか一つ選べますよというような感じで、この辺は八木さんに案内していただいたというつながりが広がっていったわけです。

こういうつながりが各地に広がり始めておりまして、西蒲区の巻でまち歩きガイド養成講座が始まっております。実はこの前、同じような話を私がさせていただいたわけなのです。明日、西蒲区のまち歩きに行かれる方がいらっしゃると思うのですが、このモデルは新潟シティガイドで、新潟シティガイドを目指して頑張っている方で、単に歴史を詳しく説明するだけではなくて、まちのよさの特徴を解説したらいいなというところで、まだ手探り状態なのですが、皆川さん、これは燃えませんか。

(皆 川)

暗渠にはまっている人がいましたね。

(野 内)

このときは参加者が 20 人くらいいたのですけれども、一人だけ暗渠にはまって写真を撮っている人がいるのです。これが先ほどの地図の作者の上田さんだったんですね。こういう人たちを増やしたいと思うのですが、明日、巻に行かれる方は暗渠チェックをよろしくお願いします。このY字路もいいですよ。伊勢さんもこういうのは好きでしょう。

(伊 勢)

言われてみればいいかなという感じでしょうか。

(野 内)

言い続けていかなければいけないということですね。

もう一つ、市当事者がその気になったと。これは最近のことなのですけれども、神主が案内する神社めぐりということをごさいますて、先ほどのお宝案内板を下町の港に関係ある各神社に並べさせていただいたところ、神社の人たちから、神社めぐりを神主同士で企画したいということで相談を受けまして、そこで同じようなスタンプを roji-ren で作りまして、この前、雨の中開催されました。

下町7社の神主さんの案内するまち歩き。神主さんの服装このままでガイドしてくれるわけです。このまま下町をぐるぐる歩いていくという、ちょっとシュールな感じでしたけれども、非常によくて、ここでもスタンプが大活躍しました。現在もやっているのですけれども、下町7社のスタンプを全部集めると、今ならこの手ぬぐいがもらえるということです。このように、当事者が自分からやり始めてきてくれているというのはすごくありがたいとことをごさいます。

最後なのですけれども、このように紹介されてきた新潟の小路なのですけれども、こんなふうにくウイの家を紹介すればそれが新聞に載ったりとか、注目度が上がってきまして、最近、「新潟町歩き」という本が出たり、これは3日くらいに ip a d でも見れるアプリが出たり、新潟がけっこう盛り上がり始めました。我々が全然関係のないところで、新潟のガイドブックでも小路で見る新潟が紹介されるようになってきましたし、2年くらい前から、いつか「るぶ」に載りたいと、目指せるるぶなんて言ったらばかにされていたのですけれども、2年目にしようやく、先ほどの上古町エリアは小路の魅力ある場所なので、そこが取り上げられまして、ここに載っている写真は、私が小路めぐりで撮った写真がそのまま載っているのですけれども、してやったりというような感じをごさいます。

そして、今日の伊勢さん、ありがとごさいます。この辺で1分くらい、よろしくお願いします。

(伊 勢)

私はもともとBSNというTBS系列の放送局をアナウンサーをしていて、今年の4月にフリーになったのですが、そこで、「まちかど行ってみずほ」というコーナーを担当していたのです。そこでは、県内の商店街ばかりを取材して放送するというものだったのですけれども、そこでおもしろい取り組みをしている野内さんという方を出会って、小路歩き、小路めぐりをして放送をさせていただきました。

(野 内)

運命の出会いを感じましたよね。こんな美人と二人きりでデートできるなんてとよろこんでおりましたけれども、いるんですよ、こいつらが。全然楽しくないよ。何とか二人きりになりたいと思って、やっと二人きりになったと思ったら、また八木さんがいるんですよ。ありがとうごさいました。

こんなふうにして広がって行って、今回は新潟市民の人たちに小路めぐりで盛り上がっていることを知ってもらいたいということで、今年の2月に小路めぐり展で作った巨大パネルが今日並べてあるパネルをごさいます。これはそのときの小学生が自分の絵を見てよろこんでくださっている絵です。これが

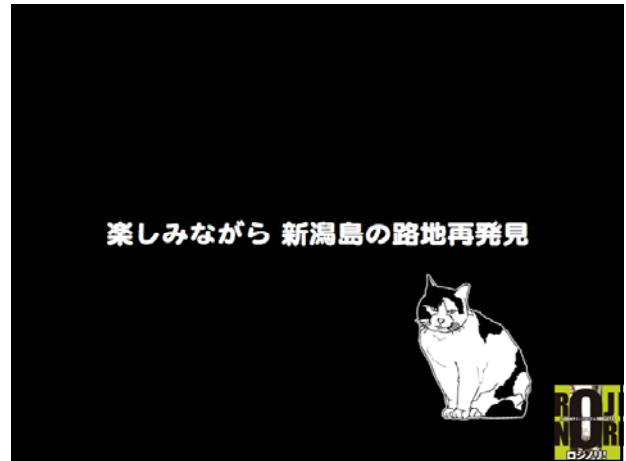
roji-ren のコアメンバーです。このおかしな服を着ている人、どうにかしてくれないかなという感じなのですが、今回の路地サミットのプレイベントとしてNEXT 21でもやりました。小路めぐり展リターンズとききましたから、次はフォーエバーということで、下町のほうでやってみたいと思っています。

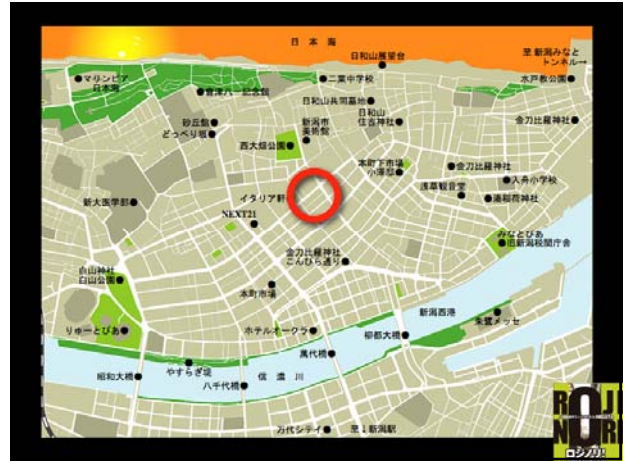
締めです。結局、まちに興味を持って歩いてみると発見があって楽しいと。楽しいものをだれかに伝えたい。楽しさをだれかと共有したいという思いで新潟はやってきておりました。

(伊 勢)

どうもありがとうございました。以上が新潟の小路をめぐる取り組みでございました。いかがでしたでしょうか。途中、どうなってしまうのかと思ったのですが、2分おしくらいでどうにか終わることができました。

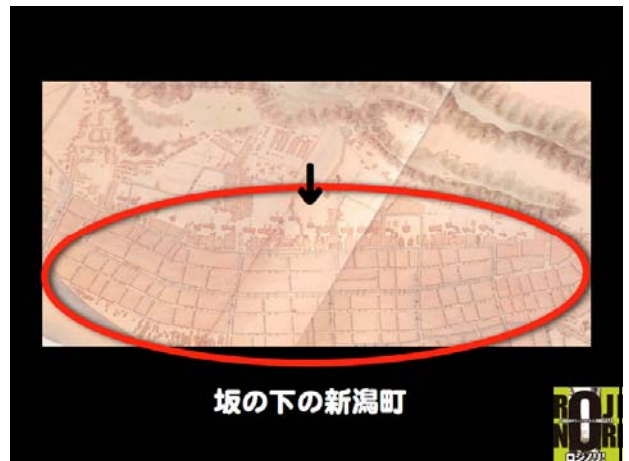
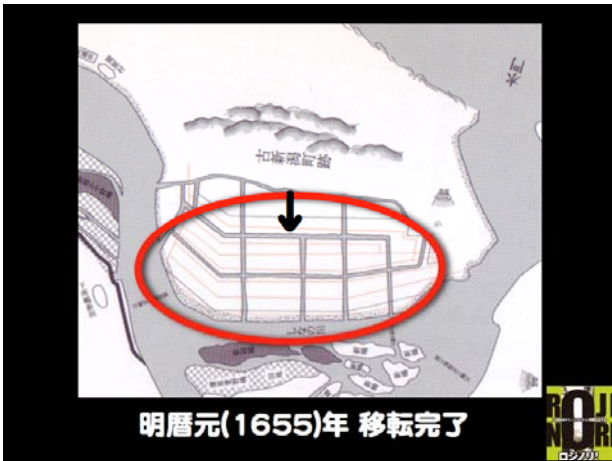
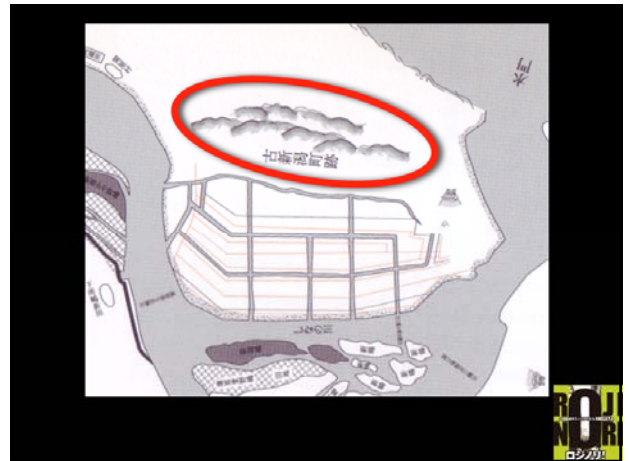
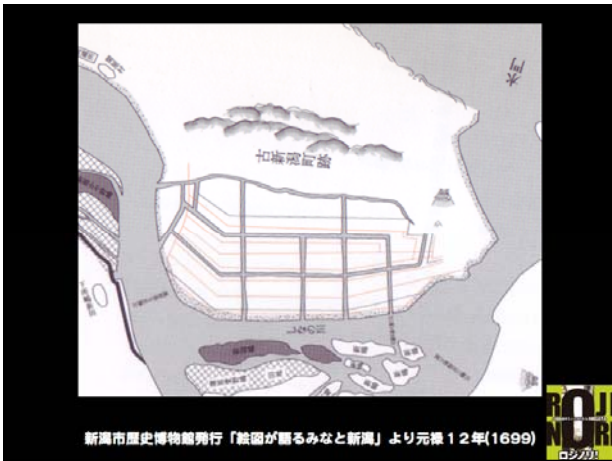
4時5分から次のプログラムが始まりますので、10分間の休憩をとらせていただきます。

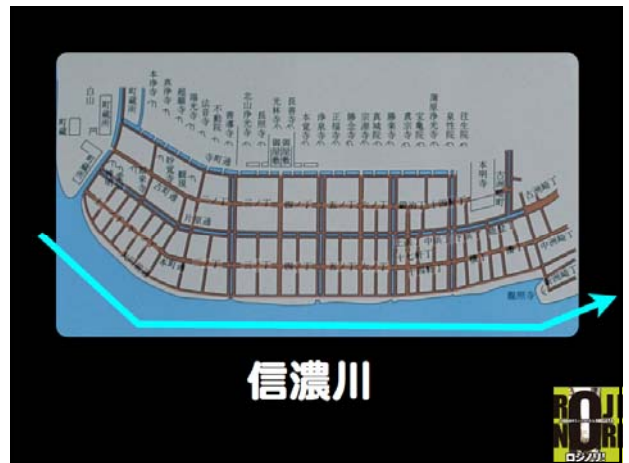
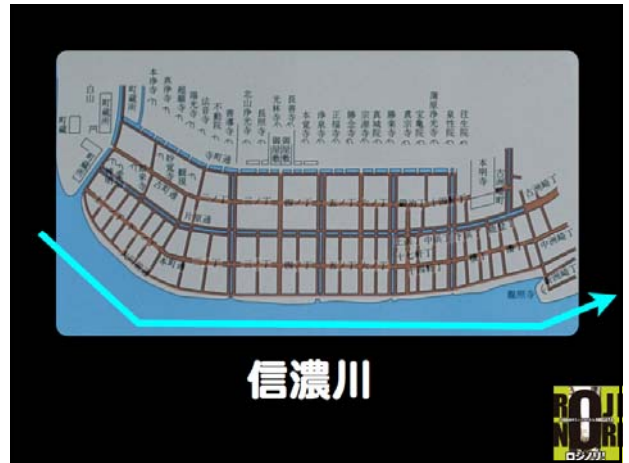
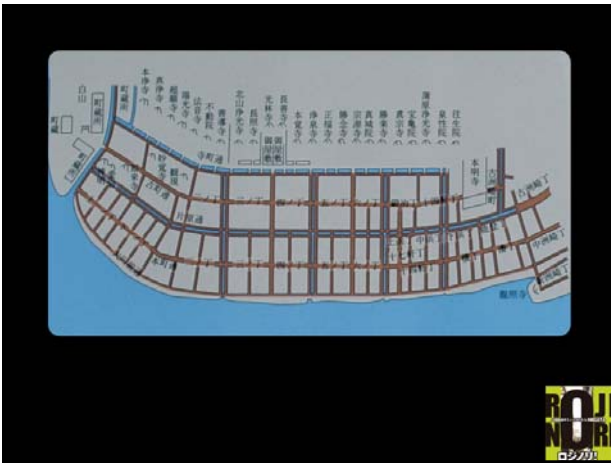
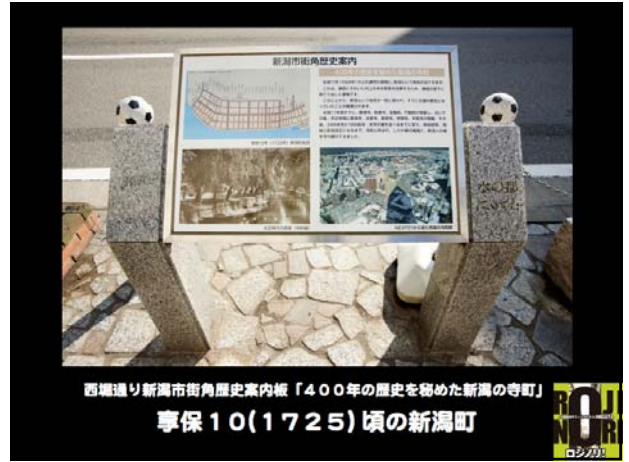
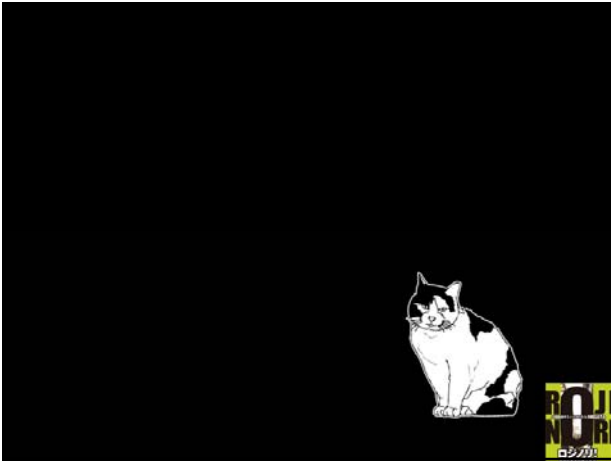




新潟市歴史博物館発行「絵図が語るみなと新潟」より









信濃川 堀



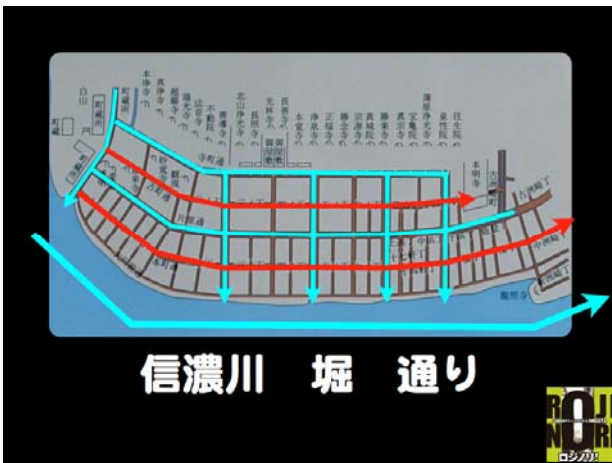
堀



堀



信濃川 堀

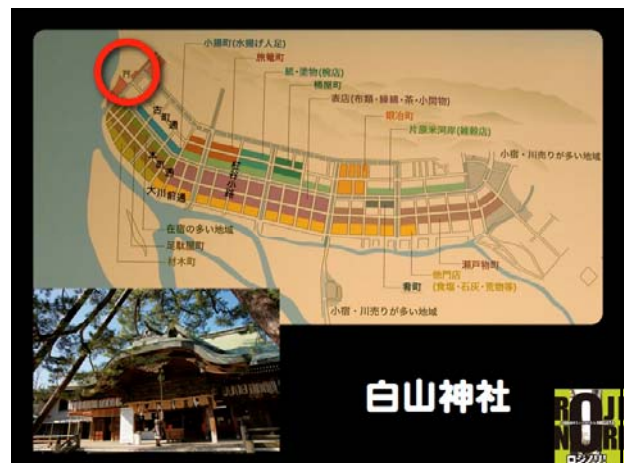
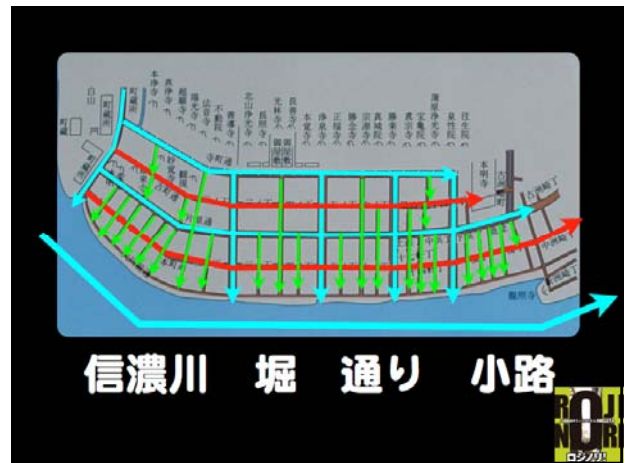
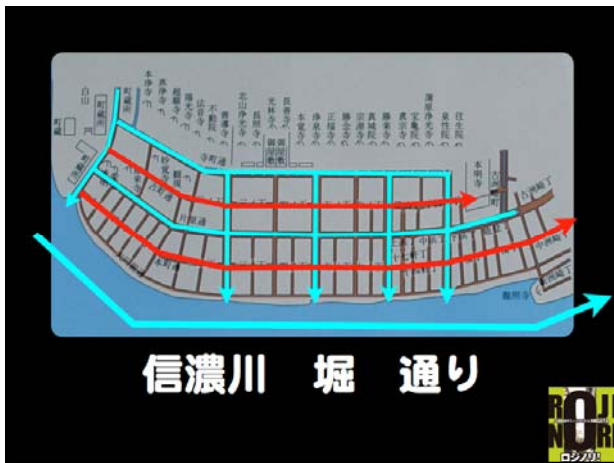


信濃川 堀 通り



通り





小樽町(水揚げ人足)
旗電町
紙・漆物(靴店)
橋屋町
表店(布類・綿織・茶・小間物)
新吉町
片瀬米河岸(雑穀店)
小樽・川売りが多い地域
大川筋通
在留の多い地域
足駄屋町
瀬戸物町
肴町(魚屋・石炭・惣物等)
小樽・川売りが多い地域

新潟寺町
中央区西横通

ROJ
NORI
ロシカ!

小樽町(水揚げ人足)
旗電町
紙・漆物(靴店)
橋屋町
表店(布類・綿織・茶・小間物)
新吉町
片瀬米河岸(雑穀店)
小樽・川売りが多い地域
大川筋通
在留の多い地域
瀬戸物町
肴町(魚屋・石炭・惣物等)
川売りが多い地域

旅籠町
(古二之町・三之町)
長谷川曹旦 北園一寛出羽越後より
古町通五番町・六番町

ROJ
NORI
ロシカ!

小樽町(水揚げ人足)
旗電町
紙・漆物(靴店)
橋屋町
表店(布類・綿織・茶・小間物)
新吉町
片瀬米河岸(雑穀店)
小樽・川売りが多い地域
大川筋通
在留の多い地域
瀬戸物町
肴町(魚屋・石炭・惣物等)
小樽・川売りが多い地域

料亭
(古五之町・六之町)
長谷川曹旦 北園一寛出羽越後より
古町通七番町・八番町

ROJ
NORI
ロシカ!

小樽町(水揚げ人足)
旗電町
紙・漆物(靴店)
橋屋町
表店(布類・綿織・茶・小間物)
新吉町
片瀬米河岸(雑穀店)
小樽・川売りが多い地域
大川筋通
在留の多い地域
瀬戸物町
肴町(魚屋・石炭・惣物等)
小樽・川売りが多い地域

本町市場
ぶらっと本町

ROJ
NORI
ロシカ!

小樽町(水揚げ人足)
旗電町
紙・漆物(靴店)
橋屋町
表店(布類・綿織・茶・小間物)
新吉町
片瀬米河岸(雑穀店)
小樽・川売りが多い地域
大川筋通
在留の多い地域
瀬戸物町
肴町(魚屋・石炭・惣物等)
小樽・川売りが多い地域

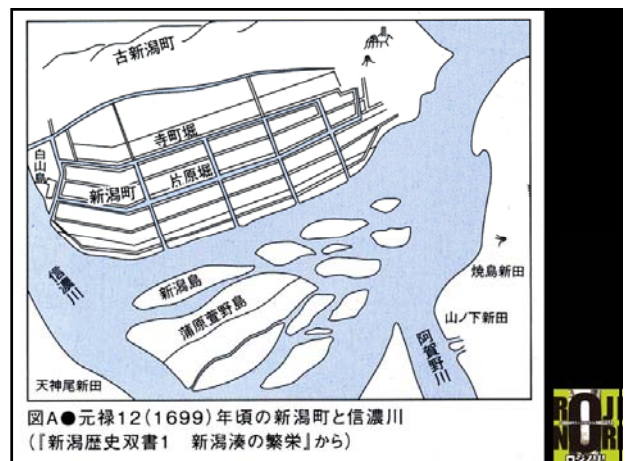
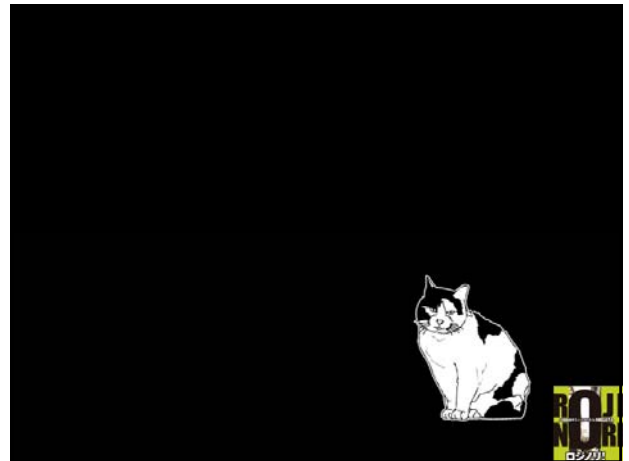
本町下市場
フレッシュ本町

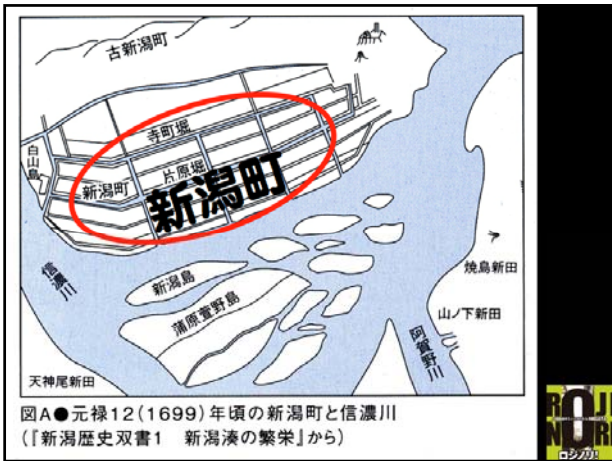
ROJ
NORI
ロシカ!

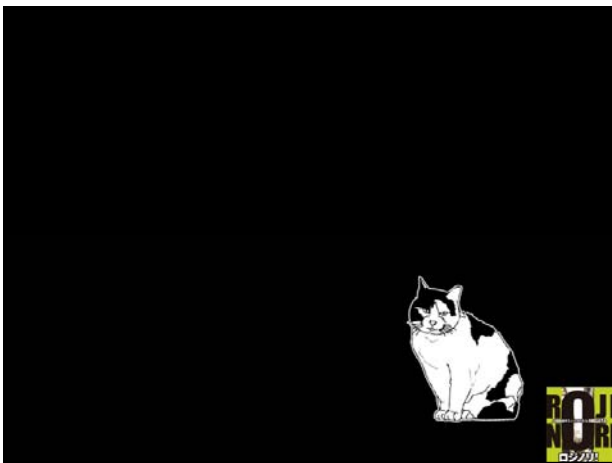
小樽町(水揚げ人足)
旗電町
紙・漆物(靴店)
橋屋町
表店(布類・綿織・茶・小間物)
新吉町
片瀬米河岸(雑穀店)
小樽・川売りが多い地域
大川筋通
在留の多い地域
瀬戸物町
肴町(魚屋・石炭・惣物等)
小樽・川売りが多い地域

日和山
長谷川曹旦 北園一寛出羽越後より
中央区東横通十三番町


ROJ
NORI
ロシカ!







楽しみながら 新潟島の路地再発見


ロジノリ
自分の町の
楽しみ方

楽しんでいる
ひとびと


その1





自分の町の
楽しさを伝えたい





路地連新潟
野内隆裕

図●●歴史2(1866)年の新潟町の町名と小路名〔新潟市史 資料編2〕から



まちは「興味を持って」歩いてみると
「発見があって」楽しい
楽しいものは誰かに「伝えたい」
「楽しさを誰かと共有したい」


HP にいがたなじらねっと
1998年～





2001年 新潟下町めぐり



下町にいがたウォーク



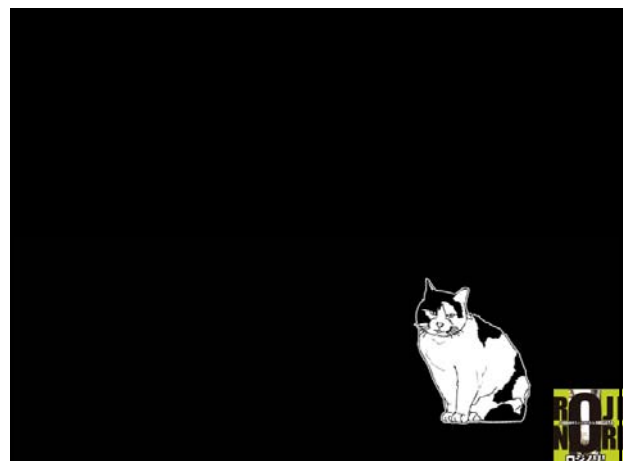
新潟下町あるき地図



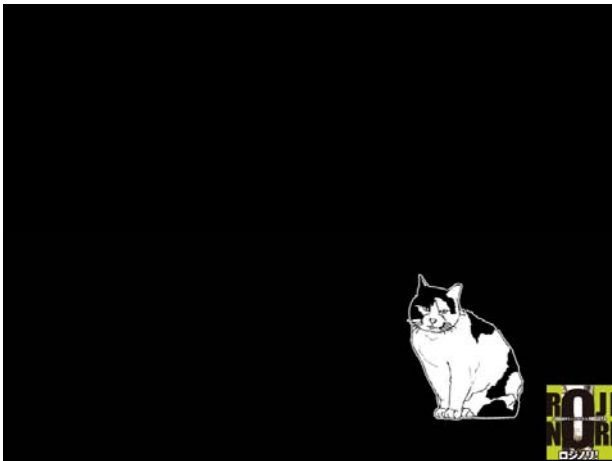
新潟寺町あるき地図





日和山共同墓地地図







歴史だけでなく
↓
現在の小路の風景も宝かも。


2004年 小路案内板2



小路名→
歴史→
イラスト→



2004年 小路案内板2

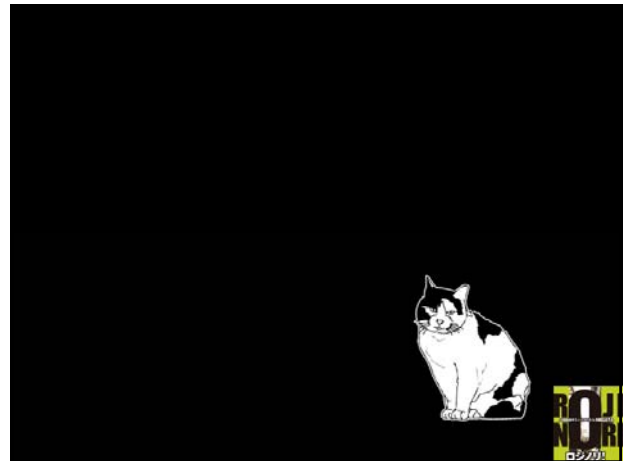
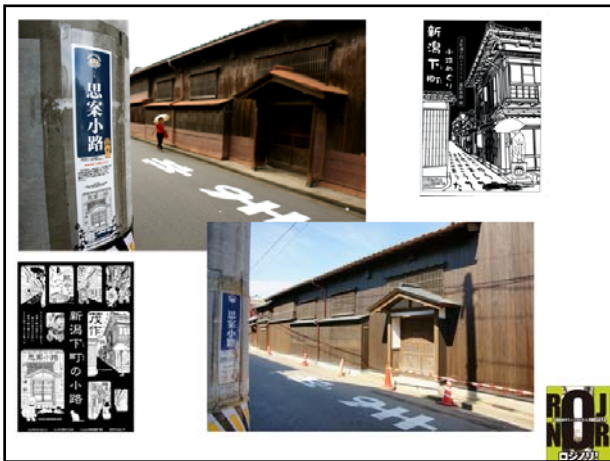
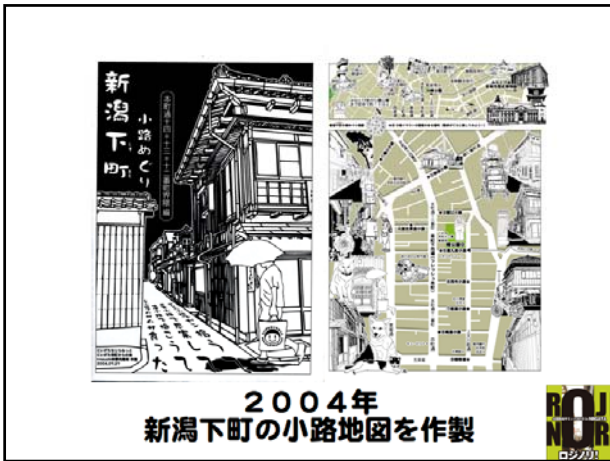






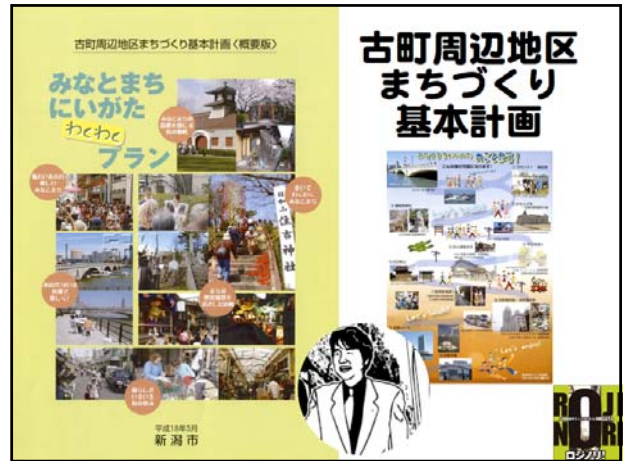






ROJI
NORI
コジカ



ROJI
NORI
コジカ



ROJI
NORI
コジカ



ROJI
NORI
コジカ



ROJI
NORI
コジカ



ROJI
NORI
コジカ



新潟の町 小路めぐり地図
古町通り界限編



日和山 整備



日和山 整備



日和山 歴史案内板

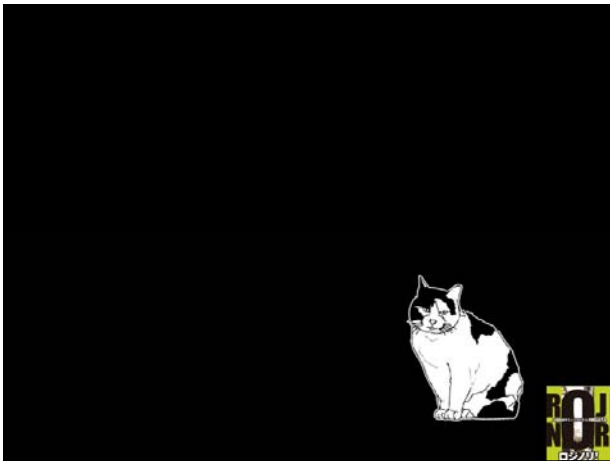


まちなかお宝案内板 新潟下町界限



新潟下町あるき地図







新潟町の歴史を
 小路の風景
 (というノリ)
 を通して紹介
 ↓
 小路めぐり<本町編>





新潟町の歴史を
 もてなしの文化と
 小路の風景
 (というノリ)
 を通して紹介
 ↓
 小路めぐり<古町編>





新潟下町を
 地形の高低差 (というノリ)
 を通して紹介
 ↓
 日和山登山のしおり





URORI!
 ノリだけで突っ走ってます。
 rojiren-nigata presents





あそばない




新潟市担当
 池田博俊さん



新潟市担当
 加藤絵美さん




町の歴史等、難しい話しは
 簡単に、わかりやすく
 実際に歩いている様な気持ちにさせ、
 歩いてみたくなる地図を
 つくろう



デザイナー
 上田裕子さん



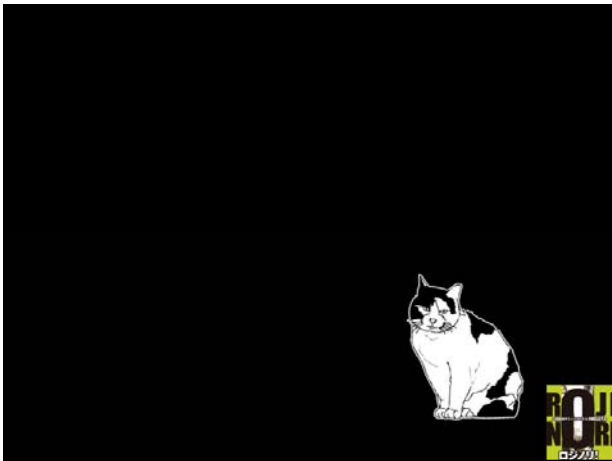


イラスト
 野内隆裕





ロジノリ
自分の町の
楽しみ方

楽しんでいる
ひとびと

その3

ROJI NURI
ロジノリ

新潟シティガイド

八木 洋
新潟シティガイド代表

ROJI NURI
ロジノリ

2007年 新潟市による
シティガイド養成講座

ROJI NURI
ロジノリ

2007年 新潟市による
シティガイド養成講座

ROJI NURI
ロジノリ

2007年 新潟日報

ROJI NURI
ロジノリ



2008年 新潟シティガイド設立



新潟シティガイド



新潟シティガイド



2008年 新潟日報



新潟シティガイド



新潟シティガイド





2009年 新潟日報



新潟シティガイド まち歩きマップ



新潟シティガイド 案内コース



新潟シティガイド 案内コース



新潟シティガイド 案内コース

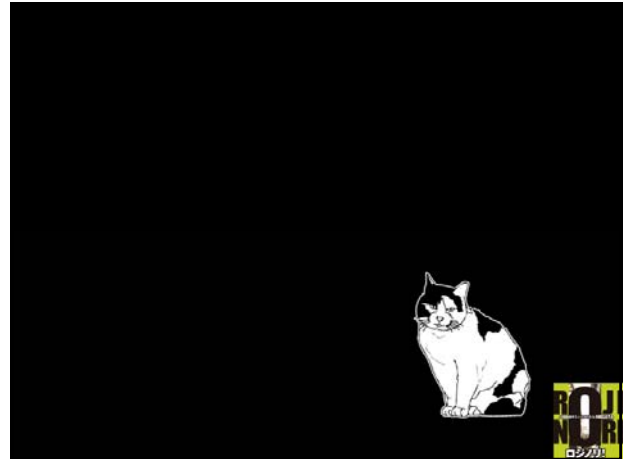


2010年 新潟シティガイドHP





新潟シティガイド



ロジノリ
自分の町の
楽しみ方

楽しんでいる
ひとびと

その4



千灯まつり



白倉敏幸
千灯まつり
実行委員長



千灯まつり



千灯まつり





千灯まつり



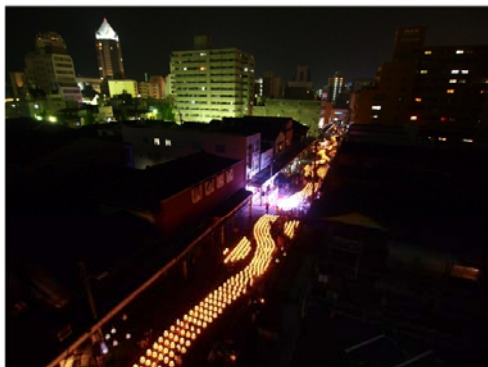
千灯まつり



千灯まつり



千灯まつり



千灯まつり



千灯まつり





**ロジノリ
自分の町の
楽しみ方
楽しさの共有
はじめました**

ROJINORI
ロジノリ

千灯まつりで小路めぐり



ROJINORI
ロジノリ



2008年 新潟日報

ROJINORI
ロジノリ



2008年 千灯まつり 小路大灯笼

ROJINORI
ロジノリ



2008年 千灯まつり 小路大灯笼

ROJINORI
ロジノリ



**新潟の町
小路めぐり
スタンプラリー**

本町通界限編
協力 880ji-ren niigata
新潟市まちづくり推進課

**千灯まつり
小路めぐり
スタンプラリー**

ROJINORI
ロジノリ

千灯まつり 小路めぐりスタンプラリー

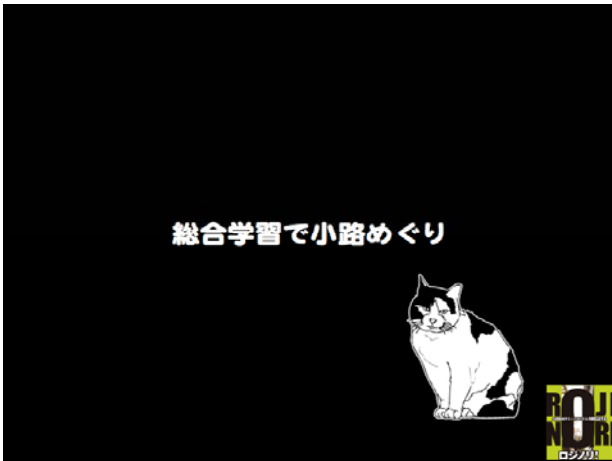
千灯まつり 小路めぐりスタンプラリー

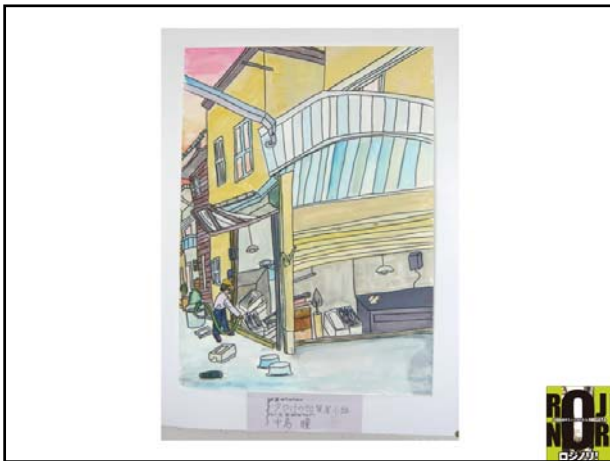
千灯まつり 小路めぐりスタンプラリー

千灯まつり 小路めぐりスタンプラリー

千灯まつり 小路めぐりスタンプラリー

千灯まつり 小路めぐりスタンプラリー







総合学習 新潟シティガイド



総合学習 新潟シティガイド



2009年 新潟日報



本町下市場
小森豆腐店
小森さん

小路めぐり エコバック



本町下市場
真保餅屋
真保さん

小路めぐり エコバック



「えんでこまち歩き」開催しました

中央区 えんでこ まちあるき

各地のまちあるき講座へ

ROJI NORI

西蒲区 巻まちあるきガイド養成講座

ROJI NORI

西蒲区 巻まちあるきガイド養成講座

ROJI NORI

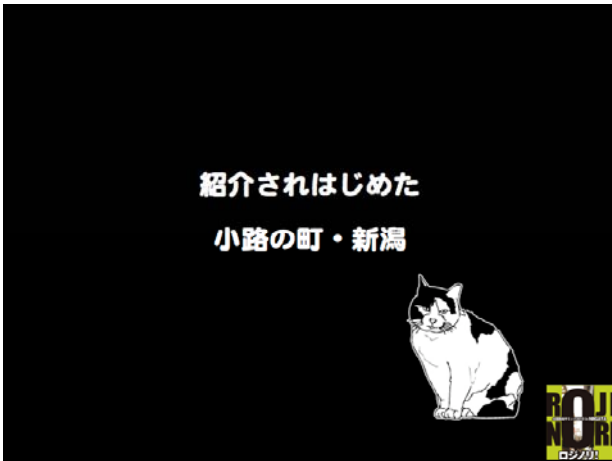
西蒲区 巻まちあるきガイド養成講座

ROJI NORI

西蒲区 巻まちあるきガイド養成講座

ROJI NORI







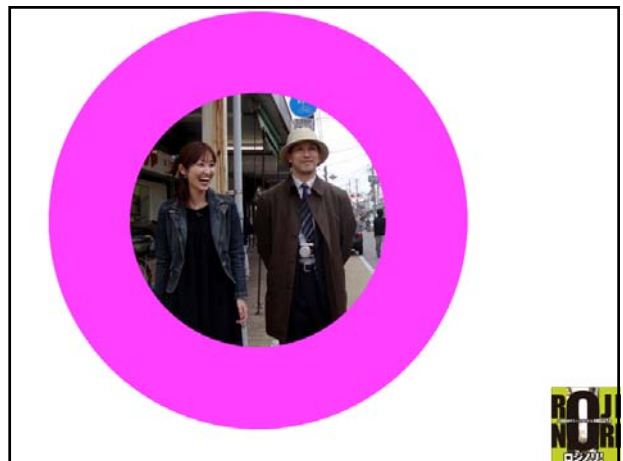
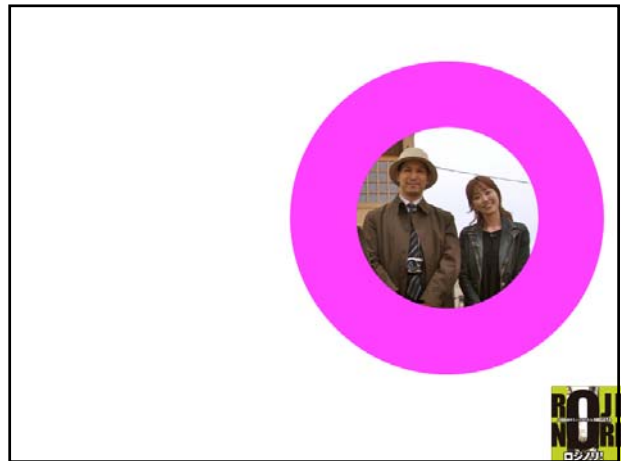
小路であるく 楽しむ新潟



小路であるく 楽しむ新潟

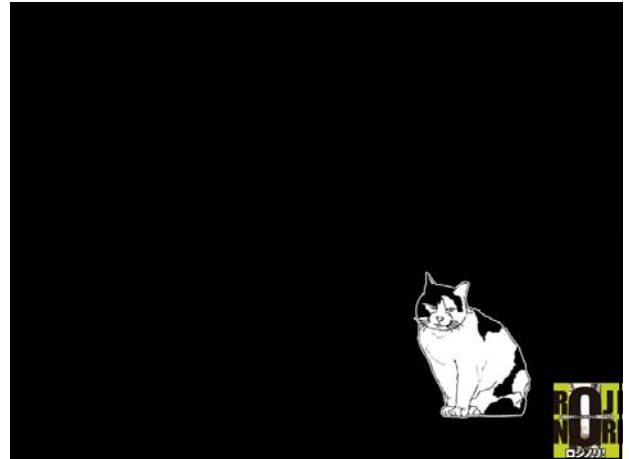


小路であるく 楽しむ新潟





ROJI
NURI
コシカ



ROJI
NURI
コシカ

2010年 小路めぐり展

ROJI
NURI
コシカ



ROJI
NURI
コシカ



ROJI
NURI
コシカ



ROJI
NURI
コシカ



2010年 小路めぐり展



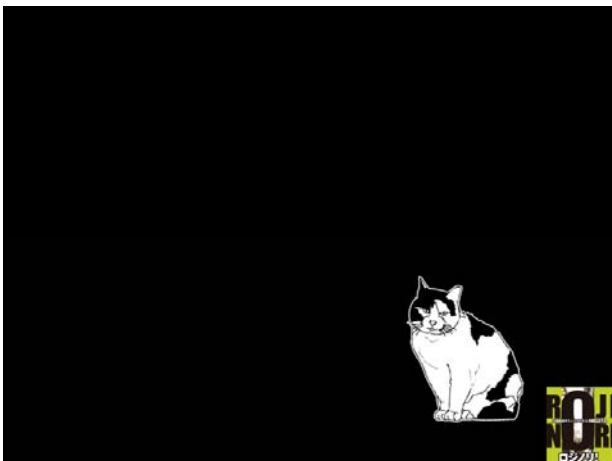
2010年 小路めぐり展 リターンズ



2010年 小路めぐり展 リターンズ



2010年 小路めぐり展 リターンズ

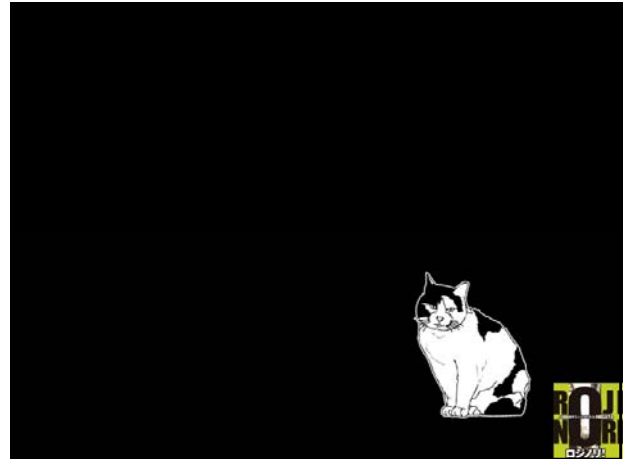


まちは「興味を持って」歩いてみると
「発見があって」楽しい
楽しいものは誰かに「伝えたい」
「楽しさを誰かと共有したい」



路地連新潟







小路の奥の雲



小路の中の猫



4. パネルディスカッション「まちの楽しみ方 その先に見えるもの」

第2部 「ROJIのむこうに見えるもの」

□ パネルディスカッション

○第2部「ROJIのむこうに見えるもの」

(横 山)

皆様、大変お待たせいたしました。これから、パネルディスカッションの第2部「ROJIのむこうに見えるもの」を開始したいと思います。

私は進行の伊勢さんの代役ということで務めさせていただきますが、今回の事務局の横山といいます。よろしくお願いします。

最初に、今回のパネルディスカッションの主演者の皆様をお一人ずつご紹介したいと思います。

まず、フリーアナウンサーの伊勢みずほさんです。

続きまして、全国路地のまち連絡協議会世話人の今井晴彦さんです。

新潟市の篠田昭市長です。

最後に、コーディネーターの新潟県立大学の山中和彦先生です。

以上のメンバーでパネルディスカッションを進めたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、山中先生、よろしくお願いします。

(山 中)

皆さんこんにちは。私は新潟県立大学の国際地域学部からまいりました。普段、大学では地域環境学や地域政策、あるいは地域デザインという領域を教えております。

何となく前からうすうす感じていたのですが、第1部が盛り上がった後の締め第2部というのは何かやりにくいなのを、今、ひしひしと感じています。このまな板にのった4人も、例の被害者の会に登録したほうがいいのではないかという気がします。

第2部なのですけれども、第1部は、まさに当事者がどのようにロジノリでノリノリになったかという現況を報告いただいたのですけれども、少し視点を変えて、少し引いた目で見たいと思います。「ロジノリ」というテーマにそって、あまりノリを悪くしないように頑張りたいと思います。できれば、この50分の最後あたりに、会場と意見交換が若干でもできればと思っております。二、三ラウンドご意見を回していきたいと思います。原則、お一人5分程度の発言という感じで進めたいと思います。

先ず冒頭、路地サミットの言い出しっぺの今井さんですが、今井さんは全国の路地に散々行き尽くして、今日、午前中の新潟のまち歩きに参加いただいたということなのですが、まず、自己紹介も兼ねまして、今日の新潟のまちの印象を、これまでのご自身が歩かれてきた路地と比較して語っていただきたいと思います。

(今 井)

今度は少し真面目な雰囲気ですが、実は、新潟の路地は今日初めて歩きました。ここに至るまでは、池田さんですが、全国あちこちで路地サミットをやっていて、何か変な人が来て、何か言っているのです。聞いたら、この方は新潟市の方だと。どうも役人に見えないなと思っていたら、神出鬼没で、その後、路地サミットだの、どこかの路地を歩くなどをやると、必ずそこに現れるわけです。市長、こ

ういう人を雇っていいのかなと。どうなっているのだろうと思って、今日、伺って、先ほど、第2部の話を聞いていましたら、今日の「ロジノリ」というタイトルが分かりまして、ノリがすさまじいと。池田さんのさらに上手をいきそうな、むちゃくちゃで気ち●いみたいな人がいっぱいいるというのが分かって、なるほど、これが新潟のロジノリかということで、逆に人間に今日はびっくりしたと。

路地そのものについては、そういう意味でいくと、立派な路地がきちんと残っていて、しかも、それは歴史的な由来のあるいい路地であると思います。特に園芸部分が非常におもしろいところです。先ほどキウイのところがあったのですけれども、先ほどお話しされた小林さんのところの向島は路地園芸では相当すごいところで、300メートルくらいの距離で1回調べたのですが、植物の種類が200種類を超えているという驚異のところなのですけれども、ここもかなりいい線にいらっているようです。それが特色かなという感じがします。

しかも、路地の場所が古町という非常に賑やかなところから伸びていると。古町を支えているのはあの路地群であるだろうと思います。そういう意味でいい関係になっているので、この後、展開をしていくとまだまだ化ける余地のある、おもしろそうなところだなという感想でございます。

(山 中)

私もまさにそう思うのですけれども、全国の例からすると、路地人間がいっぱいいるというあたりが新潟の特色だというご発言だったと思います。

次に市長に伺いたいと思うのですけれども、市長にご質問する前に、先ほど野内さんに新潟町の歴史に簡単に触れていただきましたけれども、実は新潟町ができる以前に、信濃川下流域、阿賀野川と合流して日本海に注いでいた時代があったのですけれども、その時代から、たしか蒲原津、大和政権時代の国の港が置かれて、それから沼垂港が新潟町の対岸にあって、沼垂と新潟が港争いを繰り返して、江戸時代は都市形成的にはおもしろい場所なのです。

お聞きするところ、篠田市長さんは沼垂もんということで伺っておりまして、子どものころからずっと新潟人で、駅前で育って、新潟島のまちというのを見てきたと思うのです。今日は市長の立場を離れて、子どものころから成人していくまで、地元の人間として新潟町の見方というものが変わってきたかということ伺えたらと思います。

(篠 田)

皆さんこんにちは。ご紹介いただいた沼垂もんの篠田です。私は沼垂もんなのですけれども、小学校あるいは幼稚園のときから毎日萬代橋を渡って、そのころは新潟島ではありませんでしたけれども、西新潟のほうに通っていたということで、沼垂もんから言わせると裏切り者という形になりますが、おかげさまで沼垂と今の新潟島両方の路地あるいは町並みについて、子どものころからずっと見ることができたということでもあります。

私が生まれたころは、今の東映ホテルあるいは代々木ゼミナールのあたりに新潟駅がありました。私の実家は駅前旅館をやっていたということでした。春日町というのが近くにあって、迷路のような路地が広がっている地域でした。そこから、萬代橋を渡って新潟のほうへ行くと、榎谷小路は、私たちから見ると広い通りで、それがどんどん近代化していくと。西堀、東堀は私が小学生のころまでは一応立派な堀で、多少臭かったのですけれども、桜の木と柳の木が交互に植わっていて、大変きれいなまちだったと。

昭和39年の新潟国体を前に堀がことごとく埋められて、リトルトーキョー化の道をまっしぐらという形で、新潟というのはリトルトーキョーになりきってしまったのではないかということ、東京の大学に行って帰ってきて、東京のまちを見、また、帰ってきて新潟のまちを見ると、ちょっと違うのは、

東京より緑がないというくらいのもので、本当にリトルトーキョーそのものという感じがしていました。

しかし、ひと皮めくると、けっこうおもしろいものがあるということにいろいろな人が気づき出したのは、昭和 60 年代ころに町屋でけっこうおもしろいものがあるとか、新潟はまだ棟割り長屋で、非常に人情豊かな下町が残っている、これが財産だとか、新潟の本町市場、これこそが新潟の一番の観光資源だという話が出たのです。しかし、当時の新潟市役所の幹部は、一刻も早く本町市場をなくしたいということをおっしゃっていました。

私が就職したのが昭和 47 年なのですけれども、昭和 40 年代まではまだ屋台のラーメンがあって、夜、酒を飲んで屋台のラーメンを食べに行くのが楽しみと。それが墓の裏にあたり、路地の変なところにあたりして、ラーメン屋はそれぞれ特徴のある味があって、新潟で酒を飲んでラーメンが食べられてよかったという感じだったのですけれども、それも衛生上よくないということで、昭和 40 年代にすべて撤去された。それも新潟市役所の某幹部は、あれはおれがやめさせたと行って大変自慢していたというのが、昭和 50 年代、はっきり言えば、池田さんが新潟市役所に入っていないころの新潟市の姿だったという感じでした。

近代化、拠点化、リトルトーキョー化からもっと本当の東京に近づきたいということはずっと追い求めていたような感じがします。その中で奇跡的に残っているのが今の路地ではないかという感じを持っています。

(山 中)

古きよき新潟町の様子からずっと見続けてこられたという感じですよ。

(篠 田)

そうですね。やはり酒を飲むときに横丁へ入ると何となく安心して、ピンチャン横丁などで飲んだり、古町のほうも下(しも)へ行くと、古町はきちんとした通りですけれども、その脇にいろいろな路地があって、ちょっと前までは、あそこの路地で立ち小便をしているのがいっぱいいたり、庶民のまちという感じが路地には残っていたのではないかと思います。

(山 中)

ありがとうございます。

次に伊勢さんなのですけれども、お話を伺うと、伊勢さんは大学までずっと仙台で育ったと。大学を出て社会人になると同時に新潟に来られたのです。先ほどの第 1 部でご紹介があったように、お仕事の中で商店街やまちにふれあうような取材をされていると。実際に仙台からこちらへ来て、今現在までどのように新潟のまちと出会ってきたのか。みずほの新潟町発見物語みたいなものをご披露いただければと思います。

(伊 勢)

私の実家は宮城県の仙台でして、新潟放送に入社したのが 2002 年でした。当時は 1 年くらいで帰るだろうと思っていたのですが、なんだかんだと結局 9 年目を迎えています。今では新潟は私の大好きな第二のふるさとになっているのですが、新潟が生まれて初めての一人暮らしだったのです。仙台を離れたのも初めてだったので、新潟の風景というのが本当に新鮮で、見る場所がどこもかしこもすてきなと映ったのが第一印象でした。

入社してからは、当時のアナウンス部長がすごくやさしい人で、勤務時間内でも時間があれば、「何もすることないのだったら、新潟のどこか歩いてきなせや」と言ってくださって、アナウンス部長だったのに新潟弁だったのですが、そのように言うてくださって、新潟を知るための時間をとってくれたのです。入社したのが 4 月だったので、会社から自転車に乗って、桜が満開の信濃川沿いを走って行って、

私はなんていいところにやってきたのだろうと思いました。自転車で走りながら、「生麦、生米、生卵」なんて発声練習をしながら桜を見たのが今でも鮮明に残っています。

小路という点で言えば、すごいと思ったのが新潟の小路でした。仙台では街の中にあのような小路というのは全くといっていいほど残っていないのです。つい最近も、私が新潟に来てから、すごくいい飲み屋の細い小路があったのが大きなビルになってしまって、帰ったらなくなってすごくショックだったのですが、古いものを大切に残しているというのも新潟のいいところだなと来て感じたことでした。

それが、伊勢みずほ一個人としての新潟との出会いだったのですが、それがBSNというマスコミに入って、ディレクターさんに、こんないいところがあってすごいですね、新潟っていいですね、来て本当によかったですみたいなことをずっと言っていましたら、新潟のディレクターが、それだったらということで、「まちかど行ってみずほ」というコーナーを作ってくれました。これは、先ほども申しましたが、新潟県内の商店街ばかりを取材して放送するコーナーでして、5年間続いて、県内40か所以上の商店街、店舗数にすると大体550店舗くらいのお店をご紹介させていただきました。新潟の商店街の魅力にどっぷり浸かっているところです。

新潟の地図を見ても分かるように、小路というのは商店街に縦横無尽に入っているのです。先ほど、向島の方のお話を聞いて、そうだなと思ったのが、小路が人のやさしさを育てると。商店街の皆さんは本当に人情ややさしさというのが新潟の財産だなと、歩いて感じているところです。そんな出会いでした。

(山 中)

仙台も、杜の都仙台とか、広瀬川が流れていて、わりと魅力的な都市だと言われるのですがけれども、新潟がとてもしてきたと感じたのは、小路的なところが仙台とは違うという感じだったのでしょいか。

(伊 勢)

そうですね。最近、仙台に行かれた方は分かると思うのですが、ものすごく都会化されてしまって、私が子どものころはそんなことはなかったのですがけれども、古いものがなくなっていく寂しさもあって、新潟に来たら、人が生活している小路が残っているというところにぐっとくるものがありました。

(山 中)

今井さん、たしか仙台は戦災を受けていますね。

(今 井)

それでどんどん整備してしまいましたね。たしかに飲み屋さんのところに少しだけありますけれども、ほとんどないですね。仙台には申し訳ないですがけれども、路地のないまちは滅びることになっているのです。

(伊 勢)

ふるさとは大丈夫でしょうか。滅びるのでしょうか。

(山 中)

新潟は戦災を受けなかったという非常にラッキーな部分があるのでしょうかね。

(篠 田)

新潟は城下町でもありませんでしたので、明治維新のときにも、新潟みなとの争奪戦が長岡藩と西軍のどちらが勝つかを決めたわけですがけれども、一部、色部長門がここで討ち死にしたとか、東軍も新潟港をおさえないと大変なので、そういう面では若干の戦いが維新戦争のときにあったと。それ以降、太平洋戦争のときは新潟港は機雷で封鎖されまして、鉄工丸が爆沈したり、機銃掃射で風間小路で何人死んだとか、そういうものはあるのですがけれども、原爆投下予定地にとっておかれたので、そういう

面では大変な空襲被害はなかったと。新潟大火ではすごい被害だったわけですがけれども、下町のほうは大丈夫だったということで、路地が生き残ってくれたと。したがって、新潟は滅びないのではないかと。

(山 中)

戦災といって戊申戦争までさかのぼるのですね、新潟の場合は。

伊勢さんは、先ほどご紹介があったように、お仕事で上司に恵まれて、まちへどんどん出て行かれるということがあったわけですがけれども、取材を通じたり、あるいは第1部の当事者の気持ちなども十分分かっていると思うのですがけれども、まちの中の人や、市民の新潟島のまちに対する思いみたいなものを取材の中でどのように受け止められていますか。

(伊 勢)

私は商店街で実際にご商売をされている方とお話をするのが非常に多かったのですがけれども、そういった皆様は地元にももちろん愛着を持っていらっしゃると思います。ただ、今、商店街は非常に厳しいと言われていて、「シャッター通り」という言葉も生まれて、実際は早くしないと死活問題というか、商店街自体がなくなってしまうくらいにきているので、そういった声を直接商店街のおとうちゃん、おかあちゃんに、人が来ないよ、どうにかしてくれよ、テレビで一生涯懸命宣伝してくれよという声を浴びせかけられているわけですから、どうにかしなければいけないという気持ちはあるのです。

(山 中)

そういう中で、まちの人たちの小路に対する思いというのはあまりないのでしょうか。

(伊 勢)

下町の方や上古町さんなどは、小路のおもしろさですとか、小路が人を呼べるのだということに気づき始めている方は確かに増えていると思います。私が実際に取材をしてみて思うのは、すごく魅力的だなと。もともとは野内さんが一人で始めたことだったかもしれないのですがけれども、そこに行政の力が加わったり、まちの皆さんの声があがったりして広がりを見せているのはすばらしいことで、まだ知らない人というのは新潟で大勢いると思うので、これをPRして、もっとステージの上に上げて、スポットライトをあてて、観光の目玉にもなり得るものなのではないかと感じています。

(山 中)

伊勢さんの感覚でいうと、第1部のお話にあった、路地の発見が広がっていることが感じられるということですね。

(伊 勢)

じわりじわりときていると思います。

(山 中)

これから、伊勢さんの市民目線で見ると、どのようなまちづくりが新潟島で進められたらいいと思われますか。

(伊 勢)

商店街になってしまうのですが、まちを歩いていて、新潟の商店街の一番の魅力はやはり絆だと思うのです。それは、お店の方とお客さんとの絆もありますし、お店の方同士の絆もあるし、その土地への愛着、絆というものもしっかりあると思うのです。まちづくりをするにあたって、心のある発展というか、絆をなくさずにやっていけるまちづくり、多分、それが人を呼べるまちづくりなのではないかと感じています。

(山 中)

まさに今、絆という言葉が出ましたけれども、第1部の話というのはほとんど絆の連鎖みたいな話で

すよね。多分、その絆が生きるまちというのはどんな格好のまちでもいいというわけではなくて、絆が生きるまちの形というものがあると思うのです。それが多分、小路というスケールにもつながっていくのではないかと思うのです。

今度は、篠田市長に伺いたいのですけれども、先ほどの第1部で、散々盛り上がった、路地病が伝染して蔓延していくような、それを公共が伝染を助けるという、それは普通の公共事業ではあり得ないスタイルだと思うのですけれども、それをつかさどる首長としては、言ってみれば場当たりの連続みたいなまちづくりをどう評価されていますか。

(篠 田)

新潟市政が場当たりのと言われていたのですが、私たちは港まち、開かれているまちというものを売りにしていきたいし、これからさらに作っていききたいわけですが、今までを振り返ると、新潟のまちの魅力に気がついた人はほとんどがよそ者なのです。例えば町屋ということを書き始めたのは大倉宏さんだったり、樋口忠彦さんという新潟大学の先生だった人が新潟のまちのおもしろさはここだと言いつたり、さらに、いろいろなよそ者が新潟のことをいろいろと発見してくれたわけですが、最近うれしいのは、よそ者が発見した魅力を完全に新潟もの誇りに転嫁して、新潟もんが運動体となつていろいろなことを広げてくれている。しかし、よそ者を排除しているかといえば、よそ者というのは悪い意味ではないのですけれども、新潟の新しい魅力に気がついてくれる人がミックスされてきているという面が非常にいい感じなのではないかと。

新潟のまちがこれからどうなっていくかというのは、はっきり言えば、今まで捨ててきていた、あるいは価値を見いださなかった歴史的な建造物など立派な建物が並んでいるわけではなく、庶民的な路地に光を当てたという、今まで我々がダイヤモンドだと思って磨きをかけようと思ったのは、単なるリトルトーキョーの光しか放っていないで、いいビルも必要なのですけれども、それよりは面的に広がる、庶民の息づかいが感じられるような土地が新潟の中心繁華街に隣接していると。今前も唯一榎谷小路で、偉そうな小路がこれなのですけれども、それ以外通りが中心で、西堀、東堀、本町、古町という通りを我々は重視していたのです。

古町が生きてきたのも、結局、下町にあれだけ棟割り長屋が密集していた。その人的集積があったから古町が生きてきたのだというところに少し気づき始めて、古町、榎谷小路が今かなり厳しい状況になってきたわけですが、やっと初めて新潟の歴史、文化、地形、まちの特徴というのは何なのだとついうところを皆さんが考え始めてくれたと。これはすごい変わりようだと思います。今まで新潟の旦那様たちはほとんど新潟の成り立ちみたいなことに目を向けなかったですよ。商売をやっている人は、その商売と新潟の歴史文化が絡み合えばもっとよくなるのではないかとつうことはほとんど聞いたこともなかった。それが上古町では当たり前前の動きになっているし、下本町でも当たり前前に始まっています。

そして、まち歩きというのが今、熱病のごとく広まり始めているのですけれども、私はよそ者に、例えば安藤忠雄さんに新潟のまちを見てもらったり、隈研吾さんに見てもらったり、長崎でさくる博という歩く博覧会をプロデュースした茶谷さんに見てもらったりすると、みんな「すごい」と。新潟は我々が思っているところではないところがすごいと。隈さんは上古町の路地がすごいと言いつ、茶谷さんは新潟のまち歩きは長崎のまち歩きをはるかに超えると言つてくれて、それがあつという間に現実になってきたと。新潟のまちというのは、解説者がいて、実際に歩いて、スタンプラリーのようなきっかけをつくと物語が広がると。物語がないまちだと思つていたら、実はすごい物語があるというのが新潟の意外性で、ここに気づき始め、運動になってきているのがすごいことだと思います。

(山 中)

しかも、第1部の登場人物というのはほとんど新潟もんですよ。

(篠 田)

新潟にあんな奇人変人がいるのは恥ずかしいことなのですが、私が真面目だから何とか中和したいと思います。

(山 中)

今井さんは路地サミットの言い出しっぺである以前に、まちづくりを支援する都市コンサルタントというご職業なのですけれども、その視点から、ある意味で非常に変則的なこのまちづくりの展開ではないかと思うのですけれども、先ほど、かなり伸びるというご発言がありましたけれども、その可能性について、市長さんが地元のお立場で言われたことは、全国で仕事をしている目で語っていただけますか。

(今 井)

路地で仕事をもらったことは一度もないので、なかなか難しいのですけれども、路地の持つ役割とか、機能は何だろうかということをもう一度きちんと考えるところから始まると思うのです。今、人が歩いてくれるというのは、観光という面ではどこでも期待が高まっています、やはり人間は歩くときに、幅30メートルの道路の横の歩道がついていますけれども、そういうところを歩いて楽しい人というのはほとんどいないのです。やはりまちの中の路地みたいなところを歩いているほうが人間は楽しいので、どこかからどこへ行ってと好きに行かせると、みんな大抵路地のほうを選択して歩いてしまうのです。

そういう意味でいくと、本来、人間が歩く場所として路地は非常に力を持っています。逆に言いますと、観光客に歩いてもらおうと思うと、幹線道路の案内を全部すつとばして、路地しかない地図でも十分というか、そちらのほうがいいくらいです。そういう力を持つているということです。それをどう活かすかということが一つです。

もう一つは、先ほども知りあうとかふれあうとか、あるいは小学生にという話があったのですが、私自身、自分の家の周りが路地でして、子どものころはまだ焼け野原でしたから、車は米軍の車以外ない時代です。朝から晩まで路地で遊んで育ったのです。本来、路地というのは子どもの遊び場なのです。いかに路地に車が入れないようにするかが重要であって、路地に車を入れるようにしようという努力を行政はずっとやってきたのです。

ところが、これはとんでもない話で、子どもの遊び場を奪う権利はないと。逆に言いますと、路地が子どもの遊び場になっているということは、子どもは健全にそのまちで育つのです。いろいろな人も出会い、近くの子供とけんかをしたり、一緒に遊んだりする。そして社会性も磨かれるわけです。親からしても、身近なところできちんと子どもが育ちますから、地域の子育ての環境としては最高の環境なわけです。できれば車を排除してしまっ、子どもが育てるようにすると、地域の人口が増えるのではないかと。人口増加効果というパワーがあるということです。

その中で、今度はそこを通じて、地域の人同士が、子どもだけではなくて、私たちのころですと、お年寄りの方などが夕涼みをしていたり、何かやっているの、地域のコミュニケーションが当然とれるわけです。道幅が狭いところほど地域のコミュニケーションはよくとれるようになってきます。逆に、幅数十メートルなんてやったところに何うと、高齢の方は渡れなくなってしまっているのです。もとのコミュニティがどんどん壊れているのです。道路を造ってコミュニティを壊しているところが相当あります。そういう意味でいくと、路地というのは地域が健全にいるときのよりどころになるわけです。したがって、そのよりどころがないまちはいずれ滅びるだろうという予想なのです。そういう効果があるわけです。

もう一つは、歴史、文化なのです。江戸時代には、道路の標準というのが9尺（2.7メートル）です。日本でも昭和10年くらいまでは国の法律でも最低基準が9尺となっていたのです。それが、戦争をするために、防空対策をするという必要性から、結局、今の4メートルという基準に変わったのです。日本は戦争するつもりもないのに、今、一生懸命4メートルにしようとしているのですが、これはどうもあやしいのではないかと私は思っているのですが、そのスケールでできていました。ということは、昔は日本にはほとんど路地しかなかったわけです。

今残っている路地を調べますと、非常に古くから伝わってきている道の場合が非常に多いのです。新しくできた路地もいっぱいあるのですが、どこでもそうです。そうすると、路地は地域の文化財なのです。どうも建物などにばかり目がいくのですけれども、実は地域に一番古くから残っているものというのは、意外と道路、道、路地だったりすることが多いのです。これは今まで路地だということではかきかされて、だれも大事にしないのですが、その地域が持っていた歴史や文化が積み重なってできているものが路地であります。ですから、そこを歩いていただくと、お寺や神社が非常に多いとか、何かの碑があったり、路地がネットワークしている構図がどこでもあるのです。歴史、文化を残していくという役割を路地は持っている。これがもう一つのポイントです。

最後のポイントは、路地のほうというのは地価も安いし、家賃も安いのです。表通りというのは大体立派なビルが建っていたり、立派なマンションが建っていたりして高いのです。まちというのは安く生活できる、安く住める場所がないところというのは、若い人が入りにくい。あるいはお金のない企業で、自分でこれからどんどん大きくしていきたいというところが育つ場所がなくなってしまうということなのです。活力がなくなる。ですから、これだけ路地があるというのは、次の世代に頑張れる新しい企業や産業、商売したい人を育てる場でもあるわけです。ここのまち全体でそういうものを育てるということもあるわけです。

そういうふうに見ていただくと、かつての新潟町の路地というのはそういう要素をきちんと持っておられるので、そういう機能をフルに発揮すると、将来の新潟市を支える場所ではないかという感じがいたします。

（山 中）

私も全く同感で、新潟の場合は路地を含む都市構造そのものが文化というか、それが伝承されているというのは非常に完成が高いし、今、今井さんがご指摘されたように、それを子どもに伝え、今、ロジノリをしている世代だけで途切れることなく、それがきちんと伝わっていくという意味では非常に重要なご発言だと思います。

それでは、残りの中で、会場との意見交換を試みたいと思うのですがけれども、時間の関係もあって、お一方に対してお一人、意見ないし質問を受け付けるという形で順番に聞いていこうと思います。

まず、今井さんにご意見ないしはご質問を我こそはという方はいらっしゃいますか。お一人ですね。

（会 場）

私も池田さんにそそのかされた一人でございます。まちなか同志隊の美濃と申します。よろしく願います。

今井さんに、全国いろいろ見られていると思いますので、一つ質問させてください。私は新潟で生まれ育ちましたので、正直申し上げて、路地の価値というものが、逆に普通にありすぎて分かりません。今日、聞かせていただいて初めて気がついたことがあまりにも多いのですが、実際にそういう方はほかにも多いと思います。路地不感症になっているようですが、全国の事例をいろいろと見られて、治療方法をお教えいただきたいと思います。お願いいたします。

(今 井)

なかなかいい質問ですが、これは難しいでしょうね。路地のないまちに住んでみれば困り果てるということは分かるのです。旅をされるというのが一つです。先ほど出てきた仙台などはいかがでしょう。

(伊 勢)

お勧めします。

(今 井)

そういうところの方というのは目がうろうろされているのです。おもしろいのですけれども、生活パターン、リズムが狂ってしまうのです。

(山 中)

それでは次に、市長さんにご意見の方。お二人上がっているのです。市長さんがお好きなほうを選んでください。答えやすいと思える方を選んでください。

(市 長)

では、お近い人ですいません。

(会 場)

路地の件は第1部のように盛り上がりましてほしいと思います。市のほうで斎藤邸を購入したり、小澤邸を補修したりしてお金がかかったと思うのです。距離も離れていますが、そういう関連付けはどう組み立てていくのでしょうか。それから、路地のほうを古町の活性化に関連づけることはないのか。行政のことなのですからけれども、最近、一般の人が非常にお金のかけ方にうるさくて、いいことをやろうと思っても反対する人がいるのです。この前、秋葉区の説明会に行ったら、文化会館を建てるということに、お金がかかるからということでみんな反対しているのです。蓮舫さんみたいな人がいるわけです。文化やスポーツにお金をかけるのだから非常にいいことだと思うのですけれども、効率とか組み立てを教えていただくとありがたいと思います。

(篠 田)

まず、斎藤邸、小澤邸についてはゾーンが少し違いますので、斎藤邸については二葉町、大畑のあたりから海岸線、そうすると、あそこには市長公舎、今は「安吾風の館」ですけれども、砂丘館、會津八一記念館、安吾の碑があるところ、このあたりは新潟でも一番モダンな和洋折衷の建築物などが多いところなので、新潟の大正、昭和初期のころ、大変モダンな感じの市民がいらっしやったということを訪ね歩いていただくような一つのゾーンにする。

小澤邸のほうは廻船問屋、豪商文化があったということで、今、新潟市では「北前船文化」という言葉がほとんど埋もれてしまっているのです。これを小澤邸で実感していただいて、小澤邸からみなとびあまでをうまくつなぐコースができるのではないかと。みなとびあは新潟のまちの成り立ちを一番よく解説してくれるところですし、新潟が江戸時代に北前船の最大寄港地で、その流れを汲んだ廻船問屋が豪商の家を構えていて、そこには小澤家が集めたすごいものもありますけれども、ここに北前船文化の粋を集めたものを替わりばんこに展示していく、北前船文化の里みたいなものが展示対象になれば、けっこうおもしろいのではないかという感じがします。

下町（しもまち）と大畑、海岸線にまで至るところ、この二つが新潟島では代表的なまち歩きのコースで、そこに路地が縦横にあるというあたりを新潟の売りにしていく必要があるのではないかと。古町についても、路地と積極的につながっていくということで、上古町の取り組みなどを古町全域で、6、7は6、7なりのやり方で活用して、この間、鯛車を路地で見つけるなどおもしろい試みがありました。こういう遊び心を大いに活用させていただいて、鍋茶屋さんという横綱もあるわけですし、また、

斎藤家の脇には行形亭があり、東西の両横綱も、仙台からおいでいただいた方は、仙台ではこういうものはみんななくなってしまったと。やはり北前船文化の一番すごいものが鍋茶屋、行形亭をはじめとする料亭というものであり、また、振袖文化だと思っているのです。

その後、振袖さんがまちを歩いていたというような意外性が組み合わされると、新潟のおもしろさというものがもっと広がるのではないかと。私は、振袖さんがお座敷がかかっているときに、そのままの格好で古町のあたりを歩いてもらえばいいのではないかと考えていたのですが、最近、お座敷がかかりっぱなしになって、その部分はだめなのではあるけれども、できるだけ振袖さんの文化も見やすいようにということで、今、昼 4,000 円程度で踊りと食事が楽しめるというものも料亭の協力で行っているのです。そのような楽しみ方を広げて、それが新潟の魅力となって、明として広がる新潟の魅力となればいいなと。新潟はあちこち散らばっているのです。これをゾーニングしてネットワークをしっかりとすることが大切だと思います。歩いていただくことと、自転車で動いていただくことは一番ありがたい移動方法かなと思っています。

(山 中)

ということは、もうすでにあるまちの財産と、取得済みの市の財産を組み合わせると考えていけば相当いろいろできるということだということですね。

(篠 田)

そうですね。金の価値というのが、例えば小澤邸は寄付で、ただでいただいたのですが、直したら斎藤邸よりもはるかに高くなってしまったという、このあたりで難しいところがあるのですが、やはり人から来ていただく、新潟県は観光をわりと軽んじてきたわけですが、観光というのはすごい活性化効果と、よその人が来てくれて地域のことを褒めてくれるわけですから、地域の方の心の活性化にもつながると。そういう面では、観光交流、観光というのは一番難しい産業で、そこに対してこれだけの投資をしたらこれだけの経済効果があったというのは、相関関係がいきなり出てこない部分があるのです。

この間、日本とフランスの文化予算の差が出ていましたけれども、大変な差でした。向こうは国家予算の 0.9 何%、日本は 0.1 何%くらいで、これがフランスの品格を呼び、EU の中ではフランスが何となく中心のような感じに成ってきたのは、文化の力なのではないかと。そう思うと、文化というのはものすごい価値を生むものだと。

新潟も合併建設でお約束したものはしっかりやりますけれども、そこに文化施設を活用していただくネットワークがどのくらいできるかということが大切で、今のところ、北区の文化会館はいい形で、演劇の方がものすごく熱心だったり、新しい文化が起きてくる感じになっているので、文化施設をつくって活用されないというのが最悪なので、我々は合併建設計画で箱は大体いいところになると思いますので、それぞれの地域文化を、箱ではなくて楽しめる。「水と土の芸術祭」もそのチャレンジだったわけで、これだけ水と土の暮らし文化が全域にあるというのは、私ははっきり言って分かりませんでした。旧新潟は大体想像がついたのですが、昭和の大合併地域にもすごい暮らし文化があるということも分かったのです。今度はあまり箱を造らない、むしろ、この町そのものが文化・芸術のパフォーマンスの場だと思ってやっていったほうが安上がりで、新潟市の財布も助かると思います。

(山 中)

ありがとうございました。何となく、来月の市長選挙を感じさせるような。ごめんなさい。

それでは、最後の質問なのですが、伊勢さんに質問ないしはご意見がおりになる方はおられませんか。

(野 内)

先ほど市長が質問に答えられていたのですけれども、斎藤邸を結びつけるような良い挑戦というのは実は既にありましてですね。この夏に皆川さんと二人で砂丘の際を歩く高低差をあるくというのをやりまして、白山神社をスタートして日和山まで砂丘の際を歩くのですが、その中に斎藤邸があるわけですが、伊勢さんは坂とか坂道とかは好きでしょうか。

(伊 勢)

坂とか砂丘が好きかというご質問でよろしいですか。特にきれいということはないのですけれども、好きかと言われたら、そんなに好きという感情もわかりません。グレーゾーンです。そういう方が多いのかなと思っていたのですけれども。

(篠 田)

かわりに私が答えますが、今の視点は非常におもしろいと思うのです。斎藤邸に入って皆さんがびっくりする一つの大きな要因が、新潟は真っ平らなまちだと思っていたのに、立体的な庭園がいきなり出現することにびっくりするのです。私などはいつも行形亭にいつも行っていますから、あまりびっくりしないのですが、行形亭も同じなのです。まさに立体庭園で、あそこは上もお座敷をつくっていますので、真っ平らなまちだと思ったところ、突然坂ができるというのは砂丘列で、根上松も砂丘が作った産物だと思いますので、砂丘列ツアーをやるというのはおもしろいと思います。

(野 内)

その辺は多分、一番外目で見てくださった皆川さんが感じてくださったと思います。

(皆 川)

非常にでこぼこがあるのが分かります。

(山 中)

今の質問は、伊勢さんへの質問の枠を使って、相当意図的な。

(伊 勢)

一人枠だったからここを使ったという感じですね。市長、ありがとうございます。

(山 中)

時間はすでに経過していて、終了の時間なのですけれども、最後に締めの話というと恐縮なのですが、一応、コーディネーターとして何か言わないとまずいだろうということで、今日、冒頭で皆川さんから、荒木町とカンポ広場を比較するという誇大妄想的なという失礼なのだけれども、非常にいい視点を提供していただいたので、恐縮なのですが、私の考えを述べさせていただきます。

私は今、地域の遺伝子、都市の記憶というような研究テーマで研究を進めているのです。遺伝子というのは基本的に、今まであった形を次の代の形に同型ないしは若干進歩させて伝えるという生態のメカニズムだと思うのですが、それが人間の形あるいは動物の形を伝えていくと同時に、細胞も遺伝子によって、死んだ細胞を同じ形で復元するために次の細胞を作ると。ところが、突然変異というものがあって、それは遺伝子に異常が発生して、作る必要がない細胞をきりなく作るというのががん細胞なのです。

それと同じことが都市にも言えていて、路地が変わったものというのではなくて、ここ数十年が遺伝子におかしかったから、今まであった路地が不思議に見えてきたと。むしろ、先ほど今井さんが言ったように、路地の世界が本来あるべき生活の場としての都市のあり方で、そういうことを考えると、新潟の都市の遺伝子をきちんと伝えていきたいと。

それともう一つ、人間の記憶というものは、生まれてから今まで自分の記憶がつながっているように

錯覚して、そのことによって自分自身が支えられている、あるいはアイデンティティが作られているのだけれども、記憶がなくなってしまうと自分がだれだか分からなくなってしまう。それと全く同じで、都市も記憶を伝えるものがなくなってしまうと、先ほど市長がリトルトーキョーと言いましたけれども、新潟のまちが新潟のまちではなくなってしまうと思うのです。ですから、やはり新潟の都市の記憶、新潟の地域の遺伝子をきちんとみんなに伝えるツールとして路地というのが非常に重要ではないかと思っています。

最後、少し誇大妄想的に何か言わないと、立場上、司会しただけで終わりでは、あの先生はどうなのということにならないように、言ったほうがまずかったのかもしれませんが。

ということで、最後、一言、これはという発言があればお願いします。

(今 井)

路地は非常に大切であるということですので、全国路地のまち連絡協議会というものを会費無料でやっております。ご興味のある方はインターネットでパンとやりますとすぐホームページが出ますので、入会したから何ということはないのですけれども、いっぱい情報が入ってきます。ほかの地域の活動状況なども入ってくるので、参考になると思います。ご関心のある方はぜひご入会いただければありがたいということでございます。

(山 中)

路地協のPRで第2部を閉じたいと思います。

ご静聴ありがとうございました。

5. 閉会挨拶

(全国路地のまち連絡協議会 世話人 小澤 一郎)

□ 閉会挨拶・・・全国路地のまち連絡協議会 世話人 小澤一郎氏

小澤でございます。世話人の中に入っております、毎回、サミットがあると最後に御礼の挨拶をするのが私の役割でございます。すごい熱気で、今日は140名のご参加があるということだったと思いますが、時間が経つにつれてだんだんイス席が増えてきたというのは今回が初めてではないかと思えます。それも、増えて、だれも退席しないということで、いかに内容が濃く、皆さん関心があるお話がされたのかなと思ひ、改めて野内さんと池田さんに感謝したいと思います。

ご案内があったと思ひますけれども、次回は、来年秋に向島ということでございますので、今回にも増してたくさんの方から熱心にお集まりいただき、大いに盛り上げていただきたいと思います。

今日はどうもありがとうございました。

Ⅲ. その他記録

まちあるき記録, 資料等

シ ン ポ ジ ウ ム 次 第

日時：平成22年10月23日(土)

午後1時から午後5時まで

会場：三業会館

- 1 挨拶 (全国路地サミット2010 in NIIGATA 実行委員長 野内 隆裕)

- 2 基調講演「坂の下の路地～断面的まち歩きのおすすめ～」
(東京スリバチ学会 会長 皆川 典久 氏)

- 3 事例報告
 - (1) 全国路地のまち連絡協議会
(全国路地のまち連絡協議会 事務局長 木村 晃郁)
 - (2) 兵庫県神戸市
(スタヂオ・カタリスト 代表 松原 永季 氏)
 - (3) 東京都墨田区向島
(料亭きよし 女将 小林 綾子 氏)
 - (4) 新潟県上越市
(地域住環境建築研究所 代表 磯田 一裕 氏)

- 4 パネルディスカッション「まちの楽しみ方 その先に見えるもの」
 - 第1部「楽しみながら 新潟島の路地再発見」

パネラー：新潟シティガイド代表 八木 洋
千灯まつり実行委員長 白倉 敏幸
新潟市政策監 池田 博俊

コメンテーター：東京スリバチ学会会長 皆川 典久 氏

司会：全国路地サミット2010 in NIIGATA 実行委員長 野内 隆裕
フリーアナウンサー 伊勢 みずほ
 - 第2部「ROJIのむこうに見えるもの」

パネラー：全国路地のまち連絡協議会世話人 今井 晴彦
フリーアナウンサー 伊勢 みずほ
新潟市長 篠田 昭

コーディネーター：新潟県立大学教授 山中 和彦

- 5 閉 会

≪閉会後は、交流会となります。≫

MEMO

■全国路地サミット 2010 in NIIGATA のスケジュール

10月23日(土)

OROJINORI まちあるき

午前 10:00~午前 12:00
白山神社出発

○シンポジウム

午後 1:00~午後 5:00
会場：三業会館

10月24日(日)

○新潟市役所がおすすめ
の湊町新潟・まちあるき
午前 10:00~午前 12:00
みなとぴあ出発(2コース)
NEXT21 出発(2コース)

全国路地サミット2010 in NIIGATA

ロジノリ!

自分のまちの楽しみ方

2010.10.23sat. 24sun.

23/10:00am- 24/10:00am-

会場:三業会館&まちのなか

**参加
募集**

主催:全国路地サミット2010 in NIIGATA実行委員会
共催:全国路地のまち連絡協議会 協賛:株式会社日本建築住宅センター
協力:新潟市・新潟大学工学部都市計画研究室
後援:NPO法人日本都市計画家協会
お問い合わせ:新潟市地域・魅力創造部
新潟市中央区学校町通1番町602-1 TEL.025-226-2152

全国路地サミット2010 in NIIGATA、今秋いよいよ開催!

23sat.

10:00-12:00 ● ROJINORI まちあるき (9:15-9:45受付・白山神社鳥居前)

●定員50名

白山神社-古町-本町界隈の小路-西堀寺院群-三業会館/シティガイド案内付き

13:00-17:00 ● 路地サミットシンポジウム (12:00-13:00受付・三業会館)

●定員100名

- 基調講演「坂の下の路地～断面的まち歩きのおすすめ～」 講師:皆川典久(東京スリパチ学会会長)
- 事例報告(全国路地のまち連絡協議会・兵庫県神戸市・東京都向島・新潟県上越市)
- パネルディスカッション「まちの楽しみ方 その先に見えるもの」

第1部:楽しみながら 新潟島の路地再発見

司会/野内隆裕(路地サミット2010 in NIIGATA 実行委員長)/伊勢みずほ(フリーアナウンサー)

パネラー/八木 洋(新潟シティガイド代表)/白倉敏幸(千灯まつり実行委員長)/池田博俊(新潟市政策監)

コメンテーター/皆川典久

第2部:ROJのむこうに見えるもの

コーディネーター/山中知彦(新潟県立大学教授)

パネラー/篠田 昭(新潟市長)/今井晴彦(路地協世話人・(株)サンプランナーズ代表取締役)/伊勢みずほ

17:00-17:50 ● 交流会 第1部 シンポジウム会場にて

●定員100名

18:00-21:00 ● 交流会 第2部 「美や古」※花街三業の1つ、茶屋(待合)としてにぎわった昭和初期の魅力的な建物です(現在休業中)。

- 夜学1「新潟と向島の花街」 ゲスト:小林綾子(向島) ●定員25名
- 夜学2「新潟花街 夜の街並探索」 ゲスト:稲葉 裕(フォーライツ) ●定員12名
- 夜学3「新潟のまちネタを肴に飲む」 ●定員10名

24sun.

10:00-12:00 ● 新潟シティガイドがお勧めするみなとまち新潟・まちあるき ●各定員10名

- コース1「下町お店うんめえもん巡り」
- コース2「にいがた湊巡り」
- コース3「西大畑お屋敷巡り」
- コース4「本町・上古町巡り」

● オプションツアー「鯛車のまち・巻あるき」

9:00~13:30 定員20名

詳細は新潟市都市政策研究所内(土田) TEL.025-226-2942まで

参加申込

下記にご記入の上、メール・FAXで
10月15日(金)迄にお申込み下さい。

氏名 _____

所属 _____

〒 _____

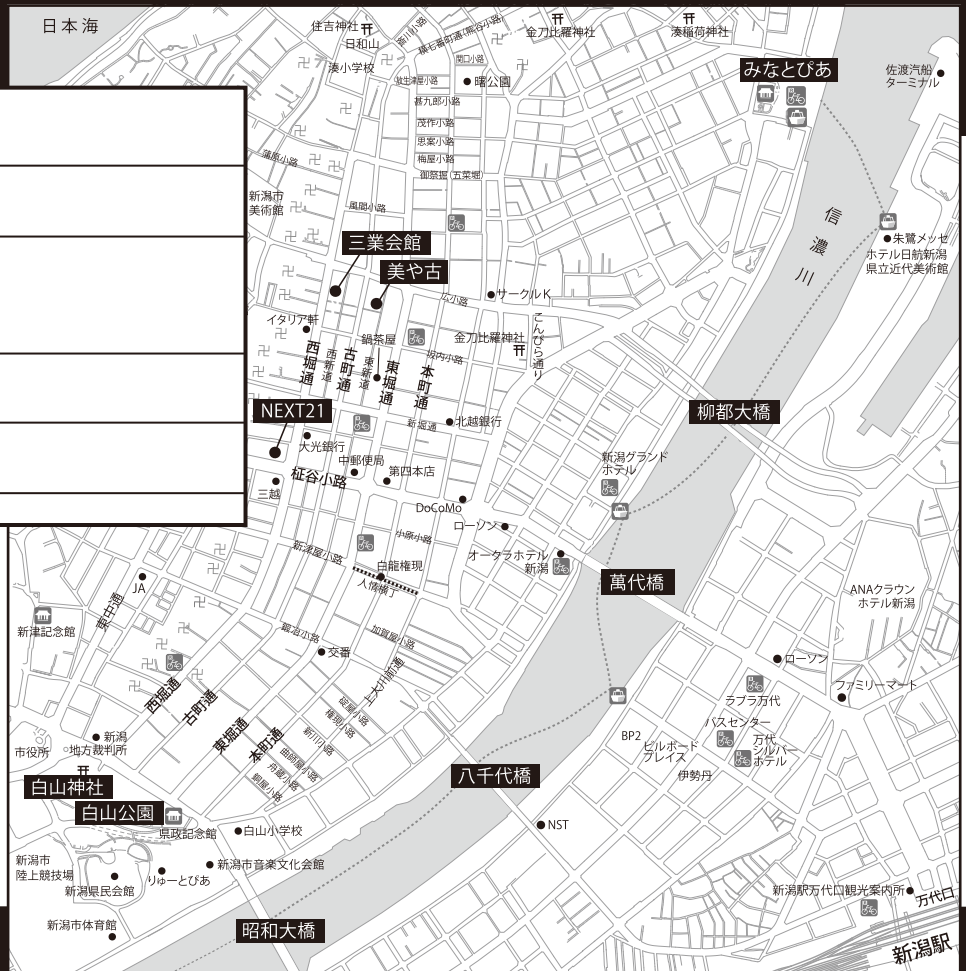
住所 _____

TEL. _____

mail _____

希望欄に✓をいれてください

- 23日 ROJINORIまちあるき (500円)
- シンポジウム(参加費無料)
- 交流会1(1000円)
- 交流会2(6000円・「美や古」特別料金)
希望夜学(No.)or(No.)
(交流会のみの申し込みはできません)
- 24日 みなとまち新潟まちあるき (500円)
希望コース(No.)or(No.)
- 鯛車のまち・巻あるき(2000円)



chiikimiryoku@city.niigata.lg.jp

fax.025-224-3850 (担当:鈴木)

詳しくは [新潟市 路地サミット](#) [検索](#)

※宿泊についてのお問い合わせは新潟市地域・魅力創造部 tel.025-226-2152 へ

●関連イベント●9/25-10/24「2010NIIGATAオフィス・アート・ストリート」開催中

[新潟市 オフィス・アート](#) [検索](#)

全国路地サミット2010 in NIIGTA /2010.10.23

PRESENTATION

全国の路地のまちの活動事例

全国路地のまち連絡協議会 木村晃郁

全国路地のまち連絡協議会とは

新潟市本町通り

生活が息づく路地



東京向島



東京月島



神戸塩屋



大阪空堀



3

全国路地のまち連絡協議会とは

日本の個性的なまちには、
すばらしい路地がある

神楽坂、向島・京島、佃島、月島、銀座、新橋、下北沢
谷中、根津、千駄木

川越、横浜野毛、鎌倉、長野、松本、静岡

京都祇園、先斗町、西陣、錦小路

大阪空堀、法善寺横丁、千日前、鶴橋、神戸

金沢、新潟、尾道、長崎、有田、平戸、那覇、北谷・・・

路地は日本の一つの美しい都市景観である！

2

全国路地のまち連絡協議会とは

界隈性や賑わいを高める路地



神楽坂



法善寺横丁



築地場外



人形町

新橋烏森

4

全国路地のまち連絡協議会とは

歴史と文化が息づく路地



京都



尾道

有田トンバイ
塀の道



金沢東茶屋街



路地宣言

路地は都市の個性や魅力を語る上で、かけがえのない要素です。

美しい日本の都市。それは自然環境や大きな都市開発だけでは成立しません。全国各地に固有の、自然発生的な街なかや路地にこそ、地域の生活、歴史文化に根ざした美しさがあるのではないのでしょうか。

しかし、残念ながら路地は戦災や震災などで多くが失われ、また、都市再開発、マンション開発などによっても消えてきましたが、このまま全国の路地のすべてが無くなってもよいのでしょうか。

私たちは、すべての路地を保存しようという者ではありません。路地の良さ、美しさを次世代に引き継ぐために、安全・安心で美しい路地空間はいかにあるべきか。どうすれば再生できるのかを研究し、広く人々に普及し、市民が主体となって実践していくべきだと思者です。

ここに集まった有志が、各地で「路地のあるまちづくり活動」をしている人達や都市関連の学識者、専門家、都市再生に関わる企業、経済界、行政関係者など、様々な人々が美しい日本の豊かな生活空間である路地を保全し、再生し、創造していくために互いに連携し、協働していくことをここに宣したい。

以上
平成16年8月28日
於大阪市立住まい情報センター

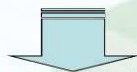


第2回全国路地サミット
路地宣言採択

全国路地のまち連絡協議会とは

路地のまちは、壊されつつある

- ◆建替が困難で、都市機能の更新ができない
- ◆建替によって、幅員が広げられて風情が消えてしまう
- ◆開発によって路地そのものが消えていく



路地を活かしたい・再生したい

- ◆全国の「路地のまち」情報を収集して共有情報とします。
- ◆全国の「路地のまち」活動団体、研究者などの情報交換及び交流を行います。
- ◆全国の「路地のまち」調査研究、路地の活用・再生に向けた政策提言を行います。
- ◆全国の「路地のまち」活動を、会員相互の協力により支援します。



神楽坂の路地、正面には路地をなくして超高層住宅が

全国路地のまち連絡協議会の主な事業

全国路地のまち連絡協議会の主な事業

- ◆全国の路地のあるまちづくりの事例収集
- ◆ホームページによる路地情報の発信
- ◆メーリングリストによる会員相互の情報の交換・発信
- ◆全国路地サミットの開催による路地に関する発表及び交流促進
- ◆路地園芸推進プロジェクト (2006)
- ◆路地探検
- ◆路地百選の収集
- ◆路地のまちのワークショップ
路地S.T. (ろじすた)



全国路地サミット2008in長野

全国路地のまち連絡協議会の主な事業

全国路地サミット

回数	年月	開催地
1	2003.11	東京十条
2	2004.08	大阪空堀・法善寺横丁
3	2005.10	東京神楽坂
4	2006.10	長野諏訪
5	2007.10	静岡浜名湖・新居
6	2008.10	長野善光寺表参道・松代
	2009.04	長野アフターサミット
7	2009.10	神戸(長田・駒ヶ林)
8	2010.10	新潟
9	2011	東京向島
10	2012	福岡
11	2013	大分別府



2008長野善光寺表参道・松代



2009神戸



2009長野アフターサミット

全国の路地のまちづくり

- 路地を活かしたまちづくり(市民の取り組みから)
- 路地を残す取り組み(法的取り組みから)



全国路地のまち連絡協議会の主な事業

全国路地のまち連絡協議会の主な事業

路地 S.T. おがの

墨田区向島地区
「路地図芸調査」

北区十条地区
「路地図芸トライアル」

路地協
ホームページ 谷中路地探検

全国路地のまち連絡協議会

全国路地のまち連絡協議会

全国路地サミット
2010年開催
新潟県民の足元
路地は必至
10月17日開催

路地協
ホームページ

谷中路地探検

路地を活かしたまちづくり

市民の取り組みから

全国路地のまち連絡協議会登録団体を中心に



路地のまちでの取り組み事例－東京神楽坂＝様々な取組みが重層化

東京都新宿区神楽坂発信の「和」のまちづくり

NPO法人粋なまちづくり倶楽部
神楽坂まちづくりの会



神楽坂の路地(兵庫横丁)



神楽坂毘沙門天(善国寺)



神楽坂の路地(熱湯湯階段)



神楽坂の路地
(かくれんぼ横丁)

路地のまちでの取り組み事例－東京神楽坂＝素材をアップデート

NPO法人粋なまちづくり倶楽部

- ◆ 連続路地シンポジウム
- ◆ 和しごとや
- ◆ 黒塀プロジェクト
- ◆ まちづくりファンド 形成検討チーム



黒塀プロジェクト



登録文化財への取組み

連続路地
シンポジウムの開催



路地のまちでの取り組み事例－東京神楽坂＝アイデンティティの確認

NPO法人粋なまちづくり倶楽部

- ◆ 粋な建築と住まい支援委員会
- ◆ 勝手に建築コンテスト
- ◆ アーカイブズチーム
- ◆ 地区計画支援チーム
- ◆ 自主ゼミナール
- ◆ まちづくり住まいづくり塾
(よもやま話会)



「まちの思い出をたどって」
アーカイブズチーム
まちづくり塾



まちづくり
キーワード集

路地のまちでの取り組み事例－東京神楽坂＝観光まち

NPO粋まち そして
(株)粋まち 様々なプレイヤー

- ◆ 浴衣及び着物コンシェルジュチーム
- ◆ タウンガイドチーム
- ◆ 花柳界入門
- ◆ 毘沙門寄席
- ◆ 和しごとや
- ◆ 観光事業
- ◆ まちとびフェスタ



着物でコンシェルジュ
ガイドツアー



まち飛びフェスタ
(坂にお絵かき)



花柳界入門




路地のまちでの取り組み事例—東京神楽坂=観光まちづくり

着物（浴衣）コンシェルジュマップ



路地のまちでの取り組み事例—東京神楽坂=そして未来遺産へ


 社団法人日本ユネスコ協会連盟
プロジェクト未来遺産2009
**神楽坂をますます粋に
 ~「粋益(いきまし)」プロジェクト**

目標

『粋』の伝統を生かした神楽坂のよりよいまちづくりのために、路地空間の保全とまちで行われる様々な活動を一体的に進めていきます。

概要

かつては料亭を中心に「花柳界」として栄えていた神楽坂には、路地からなる「粋な伝統的界隈」が残っています。しかし、相次ぐ料亭の廃業や防災上の制約、或いは強い開発圧力によって昔ながらの伝統的界隈は大きく変容しています。

こうしたまちの変化に受け合い、神楽坂への想いを集めて、益々粋なまちづくりを行うために、建物の高さ規制や一部用途の規制など地区計画のルールづくりにも取り組み、路地と伝統的界隈を未来へ向けて保全していきます。

第39回神楽坂まつり
~ゆかたでおいでよ神楽坂~

夕方より未来遺産運動連携事業である「(社)みらいみんなようプロジェクト」が舞台出演し、お祭りを盛り上げます。

神楽坂ならではの街並みと、みんなよとのコラボレーション。



路地のまちでの取り組み事例—東京神楽坂=文化を生かす

NPO法人粋なまちづくり倶楽部

神楽坂伝統芸能2009

路地のまちでの取り組み事例—東京神楽坂


 未来遺産運動
 
 ~未来に伝えたい地域の文化・自然遺産~

未来遺産運動とは

100年後の子どもたちに長い歴史と伝統のもとで豊かに培われてきた地域の文化・自然遺産を伝えるための運動です。

プロジェクト未来遺産

地域の文化・自然遺産を未来に伝える市民の活動を応援する

私のまちのたからものコンテスト

子ども達がふるさとの伝統と文化の素晴らしさ(私のまちの宝もの)を学び、紹介する

未来遺産募金

社会全体でこうした活動を支えていくための

10

- 1 久保川イーパループ世界自然遺産事業
- 2 神楽坂をますます粋に「粋益(いきまし)」プロジェクト
- 3 いちもの不思議の国(池袋「在りなき」遺跡)
- 4 愛プロジェクト
- 5 坂町まちおろしフェスタ
- 6 志予不動産(もろごころ)に「生物多様性活性化プロジェクト」
- 7 日本の記憶が継ぐ島OKI(守り伝える)プロジェクト
- 8 このままの秋(まち)から100年後のすまいる(まち)まで(まち)の歴史・文化・自然の継承と再生
- 9 八雲(中野)推進 安井町家と伝統工法の再生による町並み文化の継承
- 10 町内伝説「野良(きね)のつとめ」の町家(町)と「きんぎょのまちづくり」

(ユニセフ未来遺産HPより)

路地のまちでの取り組み事例—東京向島=防災まちづくり

NPO法人向島学会

- ◆東京都墨田区向島 下町のまちづくり
 - 防災・建築・文化・アート
 - ◆地域資源の情報収集及び提供事業
 - ◆地域活性化活動の支援事業
 - ◆住まい・まちづくりに関する調査研究事業
 - ◆アートとまちに関する講座及びイベント事業
 - ◆他の市民団体との交流事業
- ◆防災まちづくり—寺言問



元遊郭の風情残る東向島

「路地尊」雨水を地下貯留して日頃の打ち水に、災害時の防火用水に



向島博覧会「建替えデザインゲーム」



路地のまちでの取り組み事例—東京向島

NPO法人向島学会

◆2000向島博覧会

空き地や空き家、路地等まち全体を会場とし、住民の手弁当で開催した同時多発型のイベント。10日間で50の企画が行われた。



◆向島博覧会2001

若いアーティストたちが、彼らの住まいやスタジオを会場にしたアート展、コレクティブ住宅づくりや建て替えデザインゲーム等のワークショップ



路地のまちでの取り組み事例—東京向島=アーティストがまちを活性

NPO法人向島学会

- ◆向島博覧会 (2000年)
- ◆向島博覧会2001～アートロジィ
- ◆向島Year2004 (都市計画キャラバン2004向島) ほか

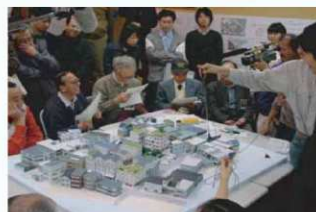
「アーティスト イン レジデン (AIR)」アーティストを一定期間住まわせて、作品制作・発表の場を与える活動。



「アーティスト イン 空き家」



向島博覧会2001 染物茶屋WABISUKE



向島博覧会「建替えデザインゲーム」

路地のまちでの取り組み事例—東京向島

向島アートの取り組み



路地写真家 中里和人氏



子ぐまカフェ (空き店舗を利用したアートギャラリー兼カフェ) 柳澤明子さんと山中正義夫妻



路地の水琴窟「路地琴」

路地のまちでの取り組み事例ー東京向島

まちがスタジオ・教室・実験室



期間限定の尾道のアンテナショップとして、「eおのみち屋」



「空き店舗 そうじ し隊」？グループが、空き店舗を掃除して使えるようにしては、また、次の店舗のシャッターをあける！！



路地のまちでの取り組み事例ー東京京島＝続く防災まちづくり

京島＝密集市街地のまちづくり



主要生活道路とコミュニティ住宅

路地のまちでの取り組み事例ー東京向島

お食事プロジェクト

神社の「おみくじ」にそっくりな「おしよくじ」。
参加店舗の割り箸を「おしよくじ」のくじ棒にして、番号をふり、出た数字で札紙をもらいます。札紙には、飲食店の方と三宅さんが一緒に考案した文章と、お店のデータやマップなどが書かれます。
「向島のどこで食事をしようか？」と迷ったら「おしよくじ」を引いてみる。地域のお店とお客さんとの、新しい出会いの形を提案するアートプロジェクトです。街を訪れた観光客や地域の方などに引いてもらい、下町の店と来訪者との出会いの場をつくります。



向島アート空きアパート活用＝鈴木荘
アートスポット鳩や

路地のまちでの取り組み事例ー東京京島＝マップにまちの記憶を残す

まちの記憶をマップに



路地のまちでの取り組み事例—大阪空堀＝住環境を守る

◆ 空堀地区HOPEゾーン協議会

(空堀まちなみ井戸端会)

- ◆ 各種研究会の開催
- ◆ 「まちなみ」形成のための提言
- ◆ 「まちなみ」形成のための広報・啓発活動
- ◆ 講演会、シンポジウムの開催
- ◆ 他団体との交流
- ◆ 都市再生モデル調査



空堀街並み

空堀地区
の路地



空堀路地まちづくりワークショップ

路地のまちでの取り組み事例—大阪空堀＝アートのまちづくり

◆ からほり倶楽部

路地オープンスペース
「ことはたのにわ」
琴（水琴窟）の
端（井戸端などの端）



(からほり倶楽部HPより)



- からほり倶楽部だより 2010年10月号
1. 10/30(土)・31(日)は「第10回からほりまちアート」
 2. 10/31(日)「戦場のからほりまちアート」まち歩き&フォーラム開催
 3. 10/17(日)中央区民祭り「からほり倶楽部ブース」出店!
 4. チャンス!あなたがWeb作成業界の新星になる!
 5. 直木三十五記念館の展示物の目録づくりボランティア募集!
 6. 長屋すどっくばんくねつとわくより複合文化施設「萌ほ」のテナント募集のお知らせ
 7. 六波羅真建築研究室 所員募集!!!!
 8. 町家再生複合施設「燈(あかり)」からのお知らせ
 9. 地域交流スペース「結(ゆい)」からテナント募集のお知らせ
 10. 毎月最終金曜日は「結(ゆい)」でせり大会!!
 11. 10/16(土)「日韓まちづくり共同セミナー」のご案内

路地のまちでの取り組み事例—大阪空堀＝町屋の再生

◆ からほり倶楽部

空堀商店街界隈の良さを活かした、
住みやすくて魅力あるまちの創造

- ◆ 美しく歴史のあるまちの保存、再生
- ◆ イキイキした活力あるまちづくり
- ◆ 新旧世代、文化の共生



町家改造ショップ「練」



長屋改造ショップ「惣」

- ◆ 長屋・町家再生プロジェクト
- ◆ 勝手に直木賞「長屋路地裏選考会」
- ◆ ロジモク減災勉強会
- ◆ 減災キャラバン on 上町台地
- ◆ 緑橋の「燈・あかり」で落語付き(!)
『上町台地100人のチカラ!』
- ◆ 路地オープンスペース、植栽ワークショップ

路地のまちでの取り組み事例—東京十条＝路地のまちの安全・安心

東京都北区十条地区

- ◆ 十条あすみの会
- ◆ (防災・防犯ボランティア組織)
 - ◆ まちづくり研修会、消防車通行実験
 - ◆ 防災訓練、避難所宿泊体験
 - ◆ 車いす体験・実地調査、花いっぱい運動
- ◆ まちワークin十条
 - ◆ 住民の主体的運営ワークショップ
 - ◆ H15都市再生モデル調査
- ◆ 十条遊縁市
 - ◆ まちづくり・活性化イベント



避難所宿泊体験



車いす体験

消防車通行実験



路地のまちでの取り組み事例ー東京十条＝イベントで盛り上げる

十條遊縁市
「こども達の路上ダンス」

路地園芸
トライアル

十條遊縁市
食い倒れ
キャラバン

十條遊縁市青空シンポジウム
「街なかと踏切」

004・食い倒れキャラバンin十条

路地のまちでの取り組み事例ー神戸駒ヶ林＝近隣住環境制度

兵庫県神戸市駒ヶ林地区

◆近隣住環境計画

3項指定 (2.7m)
2項道路 (4.0m)
基準法上の道路ではない (3.0m)
43条ただし書き道路 (2.7m) 壁面線指定

(2009関西路地サミット資料より)

路地のまちでの取り組み事例ー神戸駒ヶ林＝近隣住環境制度

兵庫県神戸市駒ヶ林地区

- ◆ワークショップを活用
住民・行政・コンサル協同型
- ◆近隣住環境計画
住民が計画をつくり市長が計画決定
43条ただし書きなどの審査会同意を支援

道路中心線 1.25m後退線 2m後退線

750 1250 1250 750

100 2,500 100

●線どりレンガ

●道として確保する範囲

●各自の判断で鉢植えなどを置いてよい範囲 (1.25～2m後退線まで)

東之町 (ひがっしょ) やすらぎ広場
(都市環境デザインセミナー「路地からのまちづくり」HPより)

イカナゴ釘煮コンテスト

路地のまちでの取り組み事例ー路地を舞台にイベント

埼玉県小鹿野町ー路地ST. (ロジスタ)

路地を舞台にしたイベント2009～

BOXart

お寺イブ

行灯の路地

路地のまちでの取り組み事例—路地・横丁をつくる=青森県八戸市

青森県八戸市—八戸横丁連絡協議会

- ◆ 8つの横丁の連携
中心市街地活性化へ
- ◆ みろく横丁・八戸昭和通りの整備
新しい横丁の創出



新しい横丁「みろく横丁」：若い店主が多い

(路地百選より)



長横町れんさ街



ハーモニカ横丁

路地のまちでの取り組み事例—路地・横丁をつくる

建物の中に路地・横丁を作る



大阪スカイビル
滝見小路



こうちん横丁（中部国際空港）



江戸小路（羽田空港国際線ターミナル）



滝見小路



黒塀横丁（東京駅地下飲食街）

路地のまちでの取り組み事例—路地・横丁をつくる

帯広市=北の屋台



富山市=にぎわい横丁



(富山市HPより)



(大洲市
HPより)



愛媛県大洲市—ポコペン横丁

週末のみに出現する懐かしい横丁
町のイベントに発起人の趣味を生かした

路地のまちでの取り組み事例—路地・横丁をつくる

長野県松本市—ナワテ通り商業協同組合

- ◆ 都市計画道路上に
常設屋台か？ 仮設建築か？
都市計画道路上にヒューマンスケールの街並みが



路地のまちでの取り組み事例—長野善光寺表参道＝まち歩き

長野県長野市善光寺表参道地区

- ◆歴史の町長野を紡ぐ会・長野郷土史研究会
 - ◆郷土史の視点に立って町の活性化に寄与
 - ◆善光寺表参道（長野駅～善光寺）の史跡案内
 - ◆善光寺と門前町に伝わる伝説の口演（語り、紙芝居）



- 善光寺表参道七福神めぐり
- 善光寺門前七福めぐり
- 善光寺門前七天神めぐり
- 映画「転校生 さよならあなた」のロケ地めぐり



路地のまちでの取り組み事例—長野善光寺表参道

長野県長野市善光寺表参道地区

- ◆(株)まちづくり長野
 - ◆中心市街地活性化TMO
 - ◆ダイエー撤退建物
 - ◆もんぜんぶら座（交流施設）
 - ◆TOMATO食品館（直営食品スーパー）
 - 5年で1億の赤字覚悟
 - ◆ばていお大門（商家と蔵旧家の再生）
 - ◆楽茶れんが館
 - ◆空き店舗活用と新規創業者支援



ばていお大門



もんぜんぶら座



TOMATO館(地産地消)



路地のまちでの取り組み事例—長野善光寺表参道（中心市街地活性化）

長野県長野市善光寺表参道地区

門前都市「ながの」
～心潤う 歴史と文化が賑わう まち～

- ◆善光寺表参道文化村計画・花回廊事業（座・アッシュ・アール）
 - ◆文化を中心にして発信
 - ◆昔の祭りを掘り起こす＝神楽、屋台の復活
 - ◆中側の小路、水路の復活

- ◆中央通り活性化連絡協議会
- ◆T o i G O : 長野そごう跡地再開発



T o i G O



長野市 花舞台のJAZZコンサート



文化村事業(屋台)

花回廊事業

路地のまちでの取り組み事例—長野松代＝まちの文化を生かす

長野県長野市松代地区

- ◆エコール・ド・まつしろ倶楽部
 - ◆一つ一つの活動＝専科は小さな活動
 - この街にあるものを活かす
 - 文化財ガイド、まつしろ・きもの縁遊会（着物を着て遊びに来てください）
 - ◆それぞれの趣味を通じて交流、来てくださったお客様に何かサービスをする
 - ◆市民が動き出して、自分のまちにプライドを持って
 - ◆会員900人の内半分！しかも！活動していない！

- ◆真田十万石の城下町
- ◆信州ブランド・デザイン賞2004
- ◆NPO夢空間



八田家の門にかかる暖簾



松代の街並み

路地のまちでの取り組み事例ー長野松代

長野県長野市松代地区

木造り



まつしろ・きもの縁遊会



箏演奏



路地のまちでの取り組み事例ー長野諏訪=景観まちづくり

辻と小径の景観づくりー諏訪市

◆辻と小径景観づくり支援事業

(平成18年度～)

- ◆地区設定 3軒以上、 2/3以上の同意
- ◆一地区 1,000万円以内
- ◆修景を主体に費用の5/6を補助
(国の事業補助を参考)



辻と小径の景観づくり事業
上諏訪商店街レトロ看板



辻と小径の景観づくり寺のまち
長野県「美しい信州の景観づくり功労賞」受賞



(諏訪市HPほかより)

路地のまちでの取り組み事例ー長野諏訪

辻と小径の景観づくりー諏訪市

上諏訪街道21「呑みあるき」



小和田地区の小路



路地のまちでの取り組み事例ー長野飯田=まち歩き

飯田市裏界線地区

◆飯田の大火(1947)による整備

- ◆シンボルロード「リンゴ並木」
- ◆界隈が生まれる「裏界線」
- ◆モーニングウォークによる街並み資産の発見とまちづくり意識の高揚
- ◆まちづくり会社による中心市街地整備



裏界線



モーニングウォーク



シンボルロード
「リンゴ並木」

(飯田市
HPより)

路地のまちでの取り組み事例ー長野飯田（中心市街地活性化）

飯田市裏界線地区

◆まちづくり会社による中心市街地整備

デベロップ パー 事業	①橋南第一地区市街地再開発事業
	○住宅販売 ○テナント賃貸 ○駐車場賃貸 ○ビル管理
	②橋南第二地区市街地再開発事業
プロジ ェク ト 事業	○住宅販売 ○テナント賃貸 ○ビル管理
	③堀端地区優良建築物等整備事業
	○住宅販売 ○住宅・テナント賃貸 ○ビル管理
①高齢者住宅の供給 「アシストホームりんご」	②商業テナントビル「まちカン2002」
	③物販飲食事業 「りんご並木三連蔵」管理運営受託
	④イベント文化事業 市民団体「IIDAWAVE」支援
	⑤NPO飯田応援ネットアイデア支援



トップヒルズ（第一地区）



三連蔵

（飯田市 HPより）

路地のまちでの取り組み事例ー長崎さるく＝まち歩き博覧会

長崎さるく博ーまち歩きが観光を変えた

- ◆参加者が「さるく」・市民が案内する
 - ◆「遊さるく」：さるくマップを片手に自由に歩く
 - ◆「通さるく」：市民がとっておきの長崎をご案内
 - ◆「学さるく」：専門家による講座や体験を通して長崎の深みにはまる
- ◆日本ではじめてのまち歩き博覧会長崎さるく博'06
 - ◆2004年からプレイベントを実施
 - ◆パビリオンも有名タレントもない博覧会
 - ◆主役は参加者と市民ガイド
 - ◆期間中参加者 **1,023万人**
 - ◆博覧終了後も通年事業
 - ◆として継続



（長崎市 HPより）



さるくマップ

路地のまちでの取り組み事例ー愛知碧南大浜地区＝歩いて暮らせる

歩いて暮らせる街づくりー碧南市大浜地区

- ◆歩いて暮らせる街づくり
 - ◆身近な水辺環境を再生するための堀川の整備
（アクアトピア計画の進展）
 - ◆文化のまちづくりとしての歴史的空間の保存、寺町整備
 - ◆まちかどサロンの整備
 - ◆漁港等における親水空間としての
フィッシャーメンズワーフの整備
 - ◆人にやさしいまちづくりとしての散策路等の整備
- ◆大浜てらまちウォーキング



歩いて暮らせる街づくりの看板



建築士会の活動で
伊勢河崎のまちづく
りを学ぶ

大浜小学校生徒が
「大浜の寺や神社
の不思議発見」と
題して総合学習で
の成果を披露

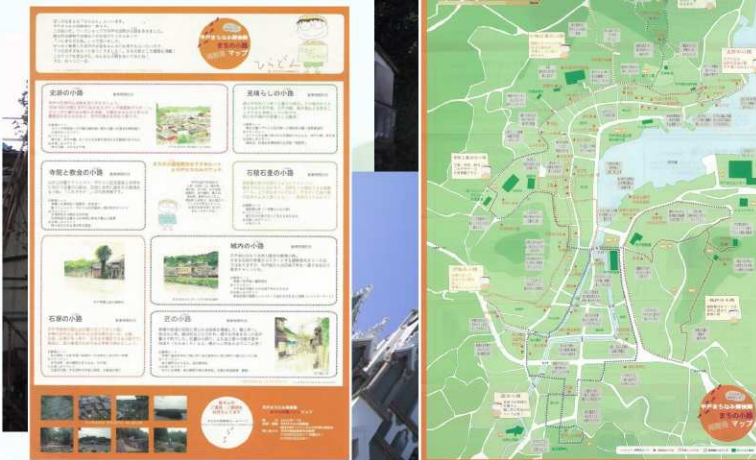
（大浜地区 HPより）



路地のまちでの取り組み事例ー平戸小径マップ（マップづくり）

平戸マップづくりー都市計画キャラバン

◆小径マップ



路地のまちでの取り組み事例ー平戸マイスターマップ (マップづくり)

平戸マップづくりー都市計画キャラバン

◆マイスターマップ



路地のまちでの取り組み事例ー 谷中銀座商店街 (まちの景観を取り込む)

街並み切り絵図ー谷中銀座商店街

◆まちの風景の
切り絵を街路灯に



路地のまちでの取り組み事例ー 新潟小路めぐり

小路めぐりマップーroji-ren niigata

◆まちの風景を
マップに、道路名標識に
スタンプラリーに、お宝巡り
エコバッグでお得!



路地のまちでの取り組み事例ー谷根千／谷中学校

谷中学校／谷根千



谷中学校

◆公共施設やまちづくりへの提案
ポケットパークの整備住民意見を行政に提案
「台東区下町型住宅のあり方調査」に参画（1992～94）

◆まちと住まいの相談室（住まい班）
（1998）

谷中に合ったすまいづくり、建て替えや増改築のアドバイス、設計、地元の工務店の紹介

◆まちを舞台とした芸工展（1991年～）

まちじゅうを展覧会場にみたくて、谷中に関わり、愛着のある職人・作家や町の人々の絵や音楽、暮らしの道具や手作りの食べ物を紹介

地図をガイドに町をめぐる企画。
江戸時代からの職人文化と芸術の森・上野、谷中の文化を再発見し、谷中を考える交流の場

◆その他

谷中ジャングル探検隊などの環境学習、リサイクルフリーマーケット、各種出版物等の制作・販売など

◆NPOひとまちCDC/NPOたいとう歴史都市研究会の設立

継続のため 密集事業を活用



旧谷中学校



ARTでまちづくり

◆芸工展
◆art-Link 上野-谷中 2010



時代空間ねこじやらし



谷中放談

（芸工展2009HPより）



第17回

芸工展
2009
ガイドマップ

2009年
10.10～25

100円

谷中学校～

◆町家の保存・再生、修理
町家の保存活用や銭湯のギャラリーへの改修



市田邸

（NPOたいとう歴史都市研究会HPより）



平櫛田中邸



カヤバ珈琲店

旧柏湯「SCAI THE BATHHOUSE」



間間間（さんけんま）

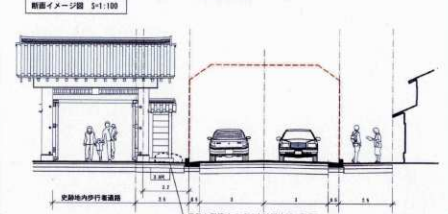
歴史を活かしたまちづくりー新居関所周辺まちづくりの会

- ◆笑顔でまちづくり
 - ◆まち歩き調査
 - ◆まちづくり先進地の視察
 - ◆まちづくりフォーラム
 - ◆広報誌「かわらばん」の発行
 - ◆13基の道案内看板の設置
 - ◆寺道5寺院の由来看板の設置
 - ◆寺道のルート表示矢印の整備
- ◆散策マップの作成
- ◆関所の復元（一部国道上に）



新居関所大木戸の復元

STEP1 復元（通行+大御門下利用）：大御門前 伊達橋長 大御門前 2.80m+大御門部 4.50m
東邊橋長（橋費台） 3.50m
歩道橋長 南側 2.50m



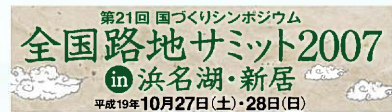
足先を保護する「道突防壁設置の設置」

散策マップ



路地のまちでの取り組み事例ー静岡県新居町（サミットをきっかけに）

サミットを契機として



- ◆ 暮らしのみちゾーン構想
- ◆ 新居まちづくり協議会の立ち上げ



新居町の小路（しょうな）



幕末の絵図



路地のまちのまちづくり

まちづくりは

- ◆ みんながんばっています
- ◆ ばか者、よそ者、若者（切れ者？）
- ◆ 継続することが大事
- ◆ 継続するためには楽しく



路地のまちでの取り組み事例ー 歴史的資産の継承

歴史的資産の継承・活用

- ◆ 備中高梁：小路名板
- ◆ 岡山新見三味線横丁：伝統的建築物の保存活用
- ◆ 島根美保関青畳通り：沿道の各家の由来・歌碑揭示



備中高梁菊屋小路
左端に小路名由来板



岡山新見三味線横丁
旧料亭を保存活用



島根美保関青畳通り
家の由良板揭示



路地のまちのまちづくりは 楽しく！



北区十条地区「路地園芸トライアル」

ご静聴ありがとうございました

ご入会お待ちしております「全国路地のまち連絡協議会」

ご入会お待ちしております。

全国路地のまち連絡協議会！

◆会費・入会金無料

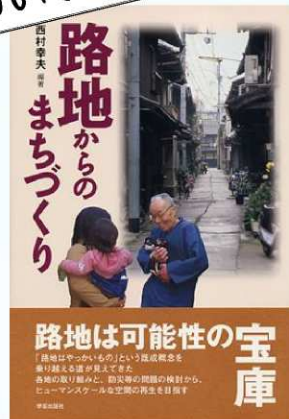
- ◆全国の路地のまちづくり情報を発信中
- ◆全国の会員とまちづくり情報の交換ができる
- ◆全国への情報発信が可能
- ◆路地サミット・路地St.（ロジスタ）等まちづくり活動・イベントを支援
- ◆事務局から路地協ニュース（完全不定期）という迷惑メールが届く！
- ◆路地探検・世話人会などの後、必ず飲める！

65

路地のまちづくりのバイブル 西村幸夫編著「路地からのまちづくり」

- ◆ 序説 今なぜ路地なのか.....西村幸夫
- ◆ 第1部 路地の復権
 - 1 つなぎとめる場としての路地.....橋爪紳也
 - 2 しつらえの路地の魅力—空間にあふれるもてなし文化の工
 - 3 コミュニティの原風景—大阪で発見した濃密な路地の近所作
 - 4 路地は、どうしてできたか.....伊藤裕久
- ◆ 第2部 路地のまちづくり
 - ◆ 路地の街の進化論.....司波 寛
 - 1 神楽坂—都心のどまん中の路地の文化と担い手の復権.....山下 馨
 - 2 谷中—路地と住まいの文化を活かす.....椎原晶子
 - 3 向島—路地尊・会古路地・アートロジ.....山本俊哉
 - 4 十条—人のネットワークがつなぐ.....高尾利文／木村晃郁
 - 5 祇園南—法が認めたコミュニティの防災力.....上林研二
 - 6 空堀—HOPE計画事業により再生を目指す.....吉野国夫
 - 7 法善寺横丁—連担制度で路地空間の再建を果たす.....橋爪紳也
 - 8 飯田—裏界線を活かすまちづくり.....牧野忠彦
 - 9 諏訪—協働による辻と小径景観づくり支援事業.....川上秀樹
 - 10 大浜—歩いて暮らせるまちづくり.....川端寛文／石田富男
 - 11 尾道—地域コンテンツによる「場所の力」の展開.....真野洋介
- ◆ 第3部 路地を活かすために
 - 1 路地を活かしたまちづくりに向けて—制度活用の最新動向.....小泉秀樹
 - 2 路地の本質的防災論—路地を活かして減災を.....室崎益輝
 - 3 路地からの防災まちづくり—現状を打破するための提案.....中林一樹
 - 4 路地を歩行者の快適空間にするために.....司波 寛
 - 5 路地まちづくりのネットワーク.....今井晴彦

消費税サービス
3,000円で販売中



66

設立趣旨

路地(街なかの昔からの狭い道)のあるまちの多くは、安心して暮せるコミュニティが育っています。商店街では、狭い道に並ぶ店が賑わいある界隈を生み出し、住宅地においては子供の安全な遊び場であり、住民たちの井戸端会議の場であり、暮しの場の延長です。



東京都新宿区神楽坂

そのまちで生活する人々の息づかいが聞こえてくるような路地は、日本の都市を成り立たせている原風景のひとつです。ところが昨今、そのような路地のあるまちで、大規模な集合住宅や再開発が進み、路地が消えつつあります。

路地のまちは、市街地の土地を有効に活用する考え方からは効率が悪く、火事や地震などの災害時には救急車や消防車が通れないなど、たくさんの問題を抱えていることも確かです。しかし、そのような開発効率や機能向上だけで、路地を消滅させてよいものでしょうか。路地のもつコミュニティを壊してよいのでしょうか。



静岡県新居町の小路

私たちは、路地のすべて残そうというわけではありません。安全かつ安心して美しい路地空間とコミュニティはいかにあるべきか、どのようにしたら路地空間を街なかにかし、残し、再生していけるのか、全国の「路地のまち」が手を組んで、情報交換をすることによって、その方策を研究し、より効果的なものとしていきたいと考えます。

路地宣言 2006. 08. 28 (第2回全国路地サミット大阪大会)
第1回全国路地サミット開催 2005. 11. 14 東京都北区十条

活動内容

- 全国の「路地のまち」情報を収集して共有情報とします。
- 全国の「路地のまち」活動団体、研究者などの情報交換及び交流を行います。
- 全国の「路地のまち」調査研究、路地の活用・再生に向けた政策提言を行います。
- 全国の「路地のまち」活動を、会員相互の協力により支援します。



大阪府大阪市中央区空堀地区



青森県八戸みろく横丁

会員種別

個人会員	当協議会の活動に賛同して下さる個人。メーリングリスト (Yahoo グループメール) に登録され、会員相互の路地情報の交換や当協議会ニュースの配信を受けられます。
団体会員	路地のまちづくり活動を行っている登録団体。ホームページに団体会員としてリンク。代表者がメーリングリストに登録されます。
世話人	会員の中から選ばれ、当協議会の運営を担当します。
顧問	世話人会で選ばれ、当協議会の運営に必要な助言を行います。



新潟小路めぐりマップ



愛知県碧南市大浜地区

主な事業

- 全国路地サミットの開催による路地に関する調査・研究の発表及び交流促進 (2010. 10 第8回新潟開催予定)
- 路地St. (ロジスタ) 路地を舞台にしたワークショップ



第2回全国路地サミット
大阪大会 (2006.08)



第1回路地St. (ロジスタ)
埼玉県小鹿野町 (2009.06)

- ホームページ・ニュースによる路地情報の発信
- 全国の路地のまちづくり事例の収集
- メーリングリストによる会員相互の路地情報の交換
- 路地百選の選定 (134 地区・路線)
- 路地探検
- 路地園芸推進プロジェクト



東京都墨田区向島地区
路地園芸調査 (2006.04)



長野県長野市松代きもの縁遊会
(2008.10)



東京都北区十条地区
路地園芸トライアル (2006.03)



東京都台東区谷中地区
路地探検 (2007.06)

入会申込み

全国路地のまち連絡協議会では、路地のまちづくりを行っている方、路地のまちづくりを応援してくれる方、全国の路地のまちを愛する方など、当協議会の活動に賛同して、ともに活動して下さる会員を募集しています。

当協議会は、**年会費・入会金**とも無料です。

入会をご希望される場合は、下記様式に必要事項ご記入の上、右ページ連絡先まで郵送・送信願います。なお、当協議会ホームページにおいても、入会様式をダウンロード（rtf形式）できます。

全国路地のまち連絡協議会入会申込書

活動団体	(フリガナ) 氏名		
	名称	団体登録	
		希望・否	
	活動地域		
	所在地	〒	
	電話番号	TEL.	FAX.
	URL		
E-mail	@		
連絡先等	名称		
	所在地	〒	
	電話番号	TEL.	FAX.
	E-mail	@	

登録団体

NPO 粋なまちづくり倶楽部

東京都新宿区 神楽坂地区

NPO 向島学会

東京都墨田区 向島地区

十條あずみの会

東京都北区 十条地区

空堀地区HOPEゾーン協議会

大阪府大阪市中央区 空堀地区

飯田市裏界線

長野県飯田市 裏界線地区

愛知県碧南市

愛知県碧南市 大浜地区

八戸横丁連合協議会

青森県八戸市 横丁地区

新居関所周辺まちづくりの会

静岡県浜名郡新居町

NPO 隅田川・江戸文化観光振興会

東京都台東区浅草地区、墨田区向島・両国地区

roji-ren niigata

新潟県新潟市中央区 (新潟島)古町・本町・下町界隈

NPO まちづくりサポート隊

大分県大分市 浜町・芦崎・新川地区

NPO 夢空間松代のまちと心を育てる会

長野県長野市 松代町

常滑市観光協会常滑支部

愛知県常滑市

やきもの散歩道

福岡路地市民研究会

福岡県福岡市

登録順

(2010年10月1日現在)



長野県飯田市
裏界線地区



愛知県常滑市やきもの散歩道

連絡先

事務局 木村晃郁 ((株)都市計画同人)

〒162-0831 東京都新宿区横寺町 58-1 二神ビル

TEL. 03-3267-4147/FAX. 03-3267-6369

E-mail: roji@jsurp.net

関西事務局 高木 舞人 ((株)DAN計画研究所)

〒540-0021 大阪府大阪市中央区大手通 1-2-10

TEL. 06-6944-1173 E-mail: takagi@dan-dan.com

全国路地のまち連絡協議会

<http://jsurp.net/roji/index.html>

E-mail: roji@jsurp.net

(2010.06.25)

事例報告

神戸

松原 永季

(スタジオ・カタリスト)

平成22年10月23日

駒ヶ林町1丁目南部地区

～近隣住環境計画の変更～

路地を活かしたまちづくりタイプの
駒ヶ林町1丁目南部地区近隣住環境計画(神戸市案)
が決まりました!

駒ヶ林町1丁目南部地区
近隣住環境計画(変更計画案)



「路地C」
建築基準法上の道路ではありませんが、避難等の安全性のため現状の幅員の確保に努める路地です。建築時には路地中心から1.35mの空間確保に努めて下さい。別途建物に対する規制はありません。

「路地A」
この路地は、建築基準法上の道路で幅員2.7mとして指定されます。(法42条3項道路)
この路地にのみ面している敷地で建物を建てる時は内装制限の規制がかかります。

「主要道路」
この路地は、建築基準法上の道路で街区内の緊急車両の進入などのため幅員4mとします。(法42条2項道路) 建物に対する制限は建築基準法以上にはありません。

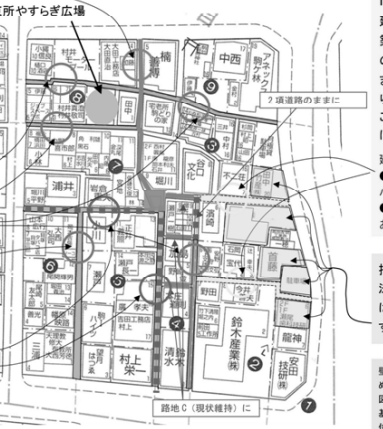
「路地B」
建築基準法上の道路ではなく、建物の建築時の建築敷地は、前面空地として路地の中心から1.35mの後退が必要です。また壁面線指定を行い路地全体にわたり2.7mの空間を確保します。この路地にのみ面している敷地では建物に次の制限がかかります。
建物にかかる制限：
●建物の用途：専用住宅又は現在の長屋・アパートの再建に限る。
●構造：地上階数2以下、主要構造部の制限あり。

指定された壁面線に接し、かつ建築基準法上の道路(路地Aを除く)に面した敷地は新たに建ぺい率が70%に緩和されます。(図中色塗り敷地)

壁面線指定：避難などのための通路幅員を確保するため建物の壁面の位置を制限する寸法です。駒ヶ林では図中の黄色い路地に2.7mの幅で指定されます。建築基準法上の道路に面している敷地は、敷地内の建物の位置は制限されますが、敷地面積からその部分が除外されるものではありません。

住宅地図を基に作成しておりますので、現在お住まいの方とお名前が一致するかもしれませんがご了承下さい。

★このニュースへのお問い合わせは下記までお願いします★
スタジオ・カタリスト：松原 永季 TEL. 078-220-8652
神戸市役所建築安全課：野野 裕行 TEL. 078-322-5602



「路地C」
建築基準法上の道路ではありませんが、避難等の安全性のため現状の幅員の確保に努める路地です。建築時には路地中心から1.35mの空間確保に努めて下さい。別途建物に対する規制はありません。

「路地A」
この路地は、建築基準法上の道路で幅員2.7mとして指定されます。(法42条3項道路)
この路地にのみ面している敷地で建物を建てる時は内装制限の規制がかかります。

「主要道路」
この路地は、建築基準法上の道路で街区内の緊急車両の進入などのため幅員4mとします。(法42条2項道路) 建物に対する制限は建築基準法以上にはありません。

「路地B」
建築基準法上の道路ではなく、建物の建築時の建築敷地は、前面空地として路地の中心から1.35mの後退が必要です。また壁面線指定を行い路地全体にわたり2.7mの空間を確保します。この路地にのみ面している敷地では建物に次の制限がかかります。
建物にかかる制限：
●建物の用途：専用住宅又は現在の長屋・アパートの再建に限る。
●構造：地上階数2以下、主要構造部の制限あり。

指定された壁面線に接し、かつ建築基準法上の道路(路地Aを除く)に面した敷地は新たに建ぺい率が70%に緩和されます。(図中色塗り敷地)

壁面線指定：避難などのための通路幅員を確保するため建物の壁面の位置を制限する寸法です。駒ヶ林では図中の黄色い路地に2.7mの幅で指定されます。建築基準法上の道路に面している敷地は、敷地内の建物の位置は制限されますが、敷地面積からその部分が除外されるものではありません。

住宅地図を基に作成しておりますので、現在お住まいの方とお名前が一致するかもしれませんがご了承下さい。

須磨北町地区

～近隣住環境計画による建替困難解消～





須磨北町地区まちづくり構想 (H20.3策定)



事例②須磨北町3丁目地区(概要)

「住み続けられる細街路のまちタイプ」

(須磨区北町3:平成21年8月14日告示)

当区域は戦前からの不整形な細街路が残る密集住宅市街地内の区域にある。主要生活道路の整備やその道路沿い敷地における建築物の整備に関する制限等を設け、法令の適用(壁面線指定による角敷地の建ぺい率緩和や、43条但し書きの包括同意基準適用等)を行うことにより、生活道路空間の確保、建替え困難地の解消をはかり、当該地区のまちづくり構想の目標である将来とも穏やかに安心して住み続けられる住環境を実現する。

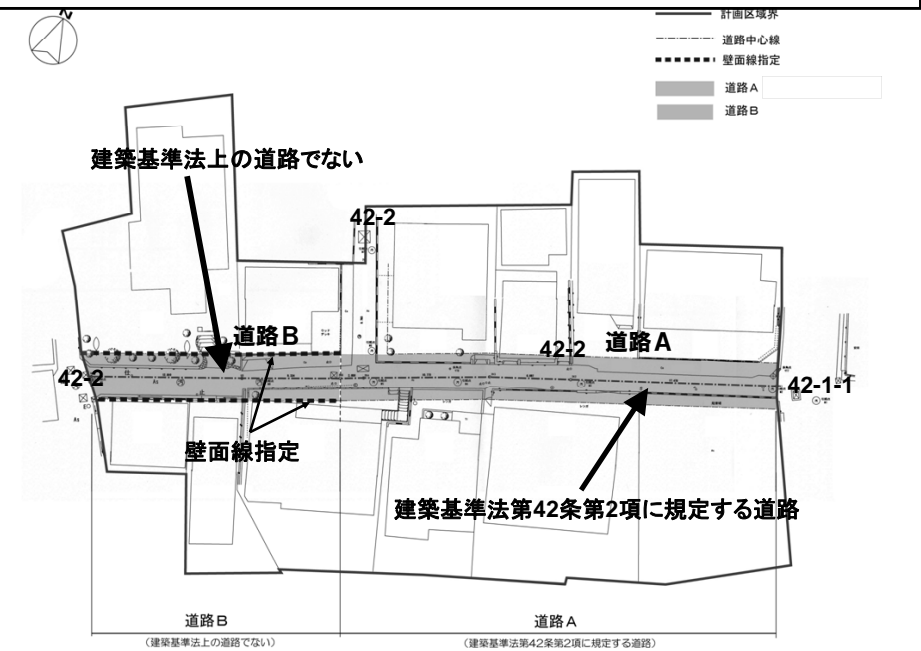


中央付近から西側の路地を見る



西側から計画路地を見る

事例②須磨北町3丁目地区(計画図)



須磨北町3丁目地区近隣住環境計画	
整備の方針	道路については建築基準法上の道路に該当しない部分も含め、地区の主要な生活道路としてふさわしい4m幅員の道路空間を確保する。 また、建築基準法上の接道条件を満たさない敷地での建築計画については、建築物の構造、階数、高さ等に関する制限をすることにより交通上、安全上、防火上及び衛生上支障がないものとする。
整備の計画	<p>道路</p> <ol style="list-style-type: none"> 道路A及び道路Bの整備の計画は下記のとおりとする。 <ol style="list-style-type: none"> 道路の範囲、形態が明確に確認できる状況に整備する。 道路には、緊急時車両通行や歩行者避難、日常生活の障害となるものは配置せず、道路面としてオープンスペースを確保する。 道路の中心から2m後退した部分を道路状に整備する。 道路Bの整備の計画は、1.に加えて下記のとおりとする。 <ol style="list-style-type: none"> 道路に面して、建築基準法第46条で規定する壁面線（道路の中心から2m後退した位置）を指定する。 <p>建築物</p> <ol style="list-style-type: none"> 道路Bに接する敷地における建築物の整備の計画は下記のとおりとする。 <ol style="list-style-type: none"> 建築物の壁若しくはこれに代る柱又は門若しくはへいは、壁面線を越えて建築しない。 道路Bに接し、かつ建築基準法第42条に規定する道路に接しない敷地における建築物の整備の計画は下記のとおりとする。（※別途、建築基準法第43条第1項の規定により建築審査会の同意及び特定行政庁の許可を必要とする。） <ol style="list-style-type: none"> 道路の中心から2m後退した位置を敷地境界線とする。 用途は専用住宅とする。 階数は地上階数2以下とする。 構造は耐火性の高いものとする。 高さは道路の反対側の壁面線の位置からの距離を水平距離として、道路斜線に準じた高さの制限を適用する。 道路Bと建築基準法第42条に規定する道路によってできた角敷地で、神戸市建築基準法施行細則第11条に規定する敷地に準じた敷地における建築物の整備の計画は下記のとおりとする。 <ol style="list-style-type: none"> 建ぺい率は、法定建ぺい率に、1/10を加えたものをその限度とする。（別途、建築基準法第53条第4項及び第7項の規定により建築審査会の同意及び特定行政庁の許可を必要とする。）

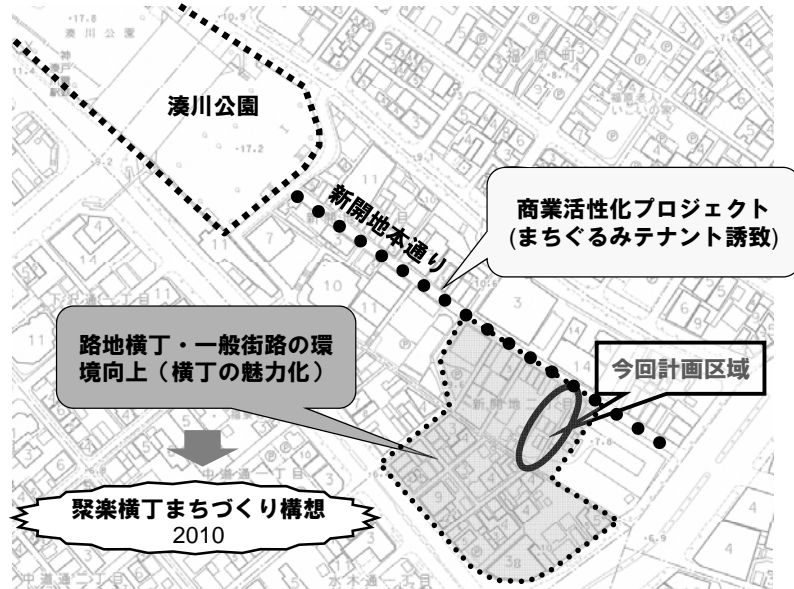
新開地地区

～近隣住環境計画による住み続けられる細街路づくり～





新開地まちづくり構想 4

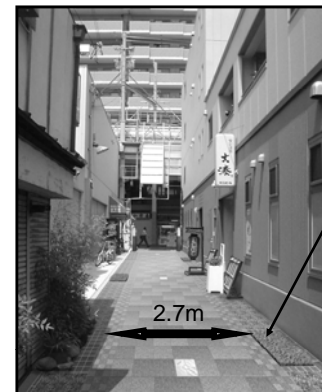


検討事例①新開地2丁目地区(概要)

「うるおいのある路地づくりタイプ」

(兵庫区新開地2: 計画概観中)

劇場街として繁栄した新開地本通りの後背地に形成された、看板や提灯、植栽といった景観があいまった独特の風情が残る区域である。路地の美装化にあわせて、**2項道路内において、中央部2.7mの範囲は路面として美装化し、道路境界までの0.65m部分に花壇等の設置を認めること**で、横丁の個性を活かした環境の向上し、商いや事業の場、暮らしの場として魅力と安心ある快適なまち目指し、まちづくり構想の目標である路地づくりの実現を図る。



美装化後のイメージ

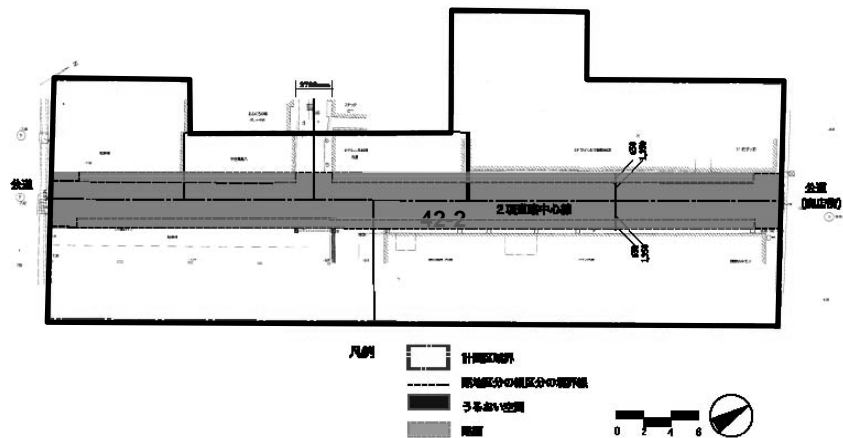


現況写真



現況写真

事例①新開地2丁目地区(計画図)



新開地2丁目地区近隣住環境計画

道路の整備
の方針及び
計画

(道路の整備方針)

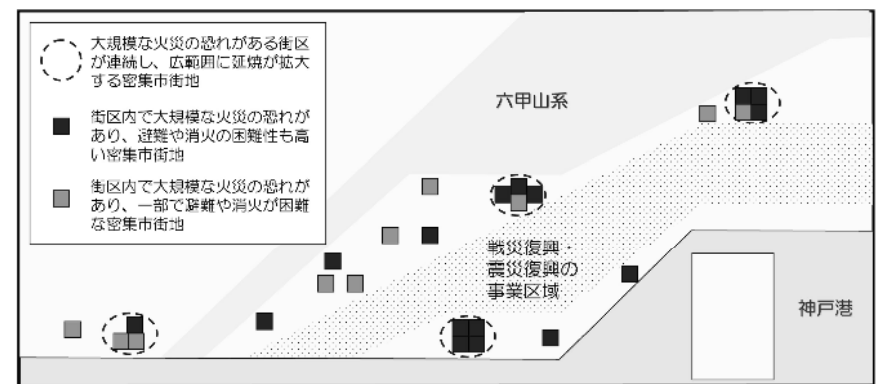
建築基準法第42条第2項の道路として、道路の中心から2mの範囲には建築物ならびにこれに附属する門、塀、擁壁等は築造せず、路地空間としての4mの幅員を確保する。また、交通、安全、防火、衛生上の機能を確保するとともに、路面の美装化や植栽等により、風情とうるおいのある路地づくりを推進する。

(道路の整備計画)

1. 路地空間には可燃物を設置しない。
2. 道路の中央部分の幅員2.7mの範囲は路面として整備する。
3. 道路の中央部分の幅員2.7mを超える範囲は風情とうるおいある横丁空間として次の整備を行う。但し、交差点との境界から2mまでの範囲は見通しを確保する為、路面として一体に整備を行う。
 - ・ 住環境形成や利便性確保のためオープンスペースを確保する。
 - ・ 緊急時の車両通行や歩行者避難等の障害となるものは設けない。
(設置できる花壇の高さは概ね10cm程度までとする。)
 - ・ 風情とうるおいある横丁空間づくりや美化に努める。

神戸市の 密集市街地再生方針

密集市街地の現状 (模式図)



防災再開発促進地区

防災街区としての整備をはかるため、特に一体的かつ総合的に市街地の整備を促進すべき相当規模の地区



■ライオン像の建物をまちづくりに！

～旧直江津銀行の保存・再生・活用にむけた取り組み～

ライオン像の建物をまちづくりに活かす会 発起人代表
設計及びまちづくり専攻建築士 磯田 一裕



1) 旧直江津銀行(通称:ライオン像の家)とは

この建物は明治 28 年設立の直江津積塵銀行(明治 33 年に直江津銀行と改称)として、建設された土蔵造りの銀行建築であり、直江津町史によると明治 39 年7月の大火により焼失、明治 40 年9月までに再建されたと推測されている上越最古の擬洋風建築の建物です。大正4年には直江津銀行が経営破たんし、大正9年高橋 達太氏により現在の位置に移築され、平成 21 年 10 月まで「高次回漕店」の事務所として使用されていました。移築時には、大火の多かった直江津ならではのレンガ造りの防火壁が敷地の東西に建てられ、また玄関にはライオンの像が置かれ、古くから直江津の市民に「ライオン像の家」として愛された建物です。



行銀津江直社合式株

■ 明治期の旧直江津銀行の写真



■ 大正9年に移築された当時の写真



■ 現在の写真

2) 旧直江津銀行の寄贈をめぐる経緯とライオン像の建物を活かす会の発足

平成 18 年 11 月に建物の所有者である高倉倉庫(有)から上越市へ無償寄贈の申し出があり、平成 19 年 2 月には上越市より受諾する旨の回答文書が交付されました。しかし寄贈手続き中に中越沖地震(平成 19 年 7 月)が発生、大正時代に建設された西側レンガ塀が倒壊し、東側建物のレンガ部分にも亀裂が生じこれにより上越市は寄贈を受けるに当たっての条件を強化、建物及び既存レンガ塀の安全性の確保等を所有者に求め、寄贈手続きは一時凍結されました。そこでこの建物の早期寄贈を実現し、まちづくりに活かしていくことを市民の側から声を上げようと、建築士や直江津を愛する人々が集まり平成 20 年 4 月に「ライオン像の建物をまちづくりに活かす会」を立ち上げ行政や所有者との意見交換や調整、市民への情報発信を行いました。その後、平成 20 年 12 月に所有者側が安全性に問題のある建物の一部解体撤去を行い、建物の安全性が確保されたとして平成 21 年 2 月に再度、無償譲渡の申請を行いました。その後も中々手続きが進まず「活かす会」ではアンケート調査や建物見学会の実施、活用ワークショップや建築パネル展の開催など市民に向けた取り組みを継続的に行い、平成 21 年 10 月末に晴れて正式に上越市へ寄贈され現在に至っています。

3) ライオン像の建物の魅力とまちづくりでの必要性

◆「建築的」視点から

- ① 直江津に唯一残る近代建築の歴史的建造物であり、上越市に現存する近代洋風建築として最古のものです。
- ② 明治期の擬洋風建築で、有形文化財としての登録も十分可能な歴史的遺産です。
- ③ 明治の建築としての西棟、大正期の建築としての東棟、そしてレンガの防火壁や凝ったディテール、更には家具調度品などにいたるまで建築的魅力がたいへん豊富な建物です。

◆「まちの記憶・象徴」としての視点から

- ① 明治期以降の近代における港町・直江津のまちの記憶を伝えられる「生き証人」のような建物です。

・海運業に従事した会社の持ち物であり「港と鉄道のまち・直江津」を、今に伝えることのできる唯一の遺産です。

・土蔵造りの建物やレンガ造りの防火壁は、火事と闘ってきた直江津の人々の歴史の象徴です。

- ② 現代に住む若い人々や、次世代の子供たちへの「歴史の伝承」と直江津に生きた人々の、そしてこれから生きていく人々の「まちの誇り・象徴」として、たいへん重要だと考えています。

◆「まちづくり」の視点から

- ① 直江津中心市街地活性化のための「重要拠点」であり、周辺エリアの核施設となりうる建物です。
② 「保存・再生・活用」の公民連携のモデルとなりうる建物です。

4) 会の目的と活動実績(これまでの取り組み)

この会はライオン像の建物の「保存・再生・活用」を市民レベルで検討し、中心市街地活性化につながるまちづくりを、行政や町衆と連携しながら実現に向けて取り組むことを目的とし活動を行ってきました。

- ①メディアへの情報提供 ②建物見学会の開催 ③ワールド・カフェによるワークショップ ④建築パネル展の開催



そのほか⑤周辺住民意向調査⑥アンケート調査の実施⑦地元まちづくり協議会への参画⑧事業化に向けての枠組み検討

そして平成 22 年 2 月 20 日には講師の方 3 名を招いて市民参加型の「活用シンポジウム」を大々的に行い、参加者の総意として以下の 6 項目が確認されました。

総意 1：単に旧直江津銀行としてだけでなく、近代のまちの歴史・まちの記憶を伝えるものとして「旧高橋回漕店」として位置づけ、保存重視ではなく活用をメインに取り組むべき。

総意 2：外の人への観光をアピールする前に、住んでいる人がまちの歴史を知る事の出来る施設、地元の人が使いやすく、喜べる施設に！

総意 3：活用していく上で、「直江津物語」を作る。そして市民にわかりやすく伝えていく。その役割は「ライオン像の建物をまちづくりに活かす会」にやってほしい！

総意 4：このままこの施設を閉じておくのではなく、すぐにでも（常設として）人が使えるようにしてほしい。

総意 5：三八朝市や周辺の小路、図書館、屋台会館、水族館など、歩いてつなげるまちの物語を作ろう！

総意 6：今日ここに来ている一人一人が主役、自分ができる事をやろう！

5) 上越市地域活動支援事業でのソフト事業とライオン像の建物の活用に向けた動き

ライオン像の建物をまちづくりに活かす会では、今年度から始まった上越市地域活動支援事業の採択を受けて、「直江津・三八まち物語」事業を実施しており、この講座もその一環です。

また、建物に関しては 10 月から活用検討委員会（上越市主催）が開催される運びとなり、当会の発起人 3 名が委員として参加し、活用の検討を進めていく事になっています。

当会では、これからも建物見学会の開催や三八朝市でのお休み処としての開館に向けて、市に働きかけていく予定であり、またこの建物の管理・運営に携われるような組織と成るべく、検討しています。

「直江津・三八まち物語」 講座開催のお知らせ

三八朝市周辺エリアのまちの魅力を再発見し、
まちづくりの物語を一緒に創りましょう!

私たち「ライオン像の建物をまちづくりに活かす会」では今年度の上越市地域活動支援事業の採択を受け直江津・三八朝市エリアにおける「まちづくり講座&まちあるき学習会」を開催する運びとなりました。

私達の目指すまちづくりは、地域の魅力をそこに住む住民自らが再発見し自分達のまちを好きになること、そしてまちに誇りを持ちながら楽しく生き生きとした「直江津まち暮らし」ができることを最終の目標としています。

その実現に向けてこの講座では、まちの歴史や成り立ち、まちの特色などを学び自分たちのまちへの理解を深めるとともに直江津旅情あふれるこのまちの魅力を広く市民の皆さんや全国に発信し、直江津三八朝市エリアの地域ブランド・イメージの確立を目指しています。

ぜひこの講座にご参加いただき、直江津・三八まち物語を私たちと一緒に創っていきましょう!



ライオン像の建物を
まちづくりに活かす会
発起人代表 磯田 一裕

日時

2010年 **9月26**日(日)から**12月11**日(土)までの5回

■各開催日とも午後1:30から4:30までの3時間を予定しております。(無料)

場所

第一回講座 (9/26) : 上越市レインボーセンター 3階 第三会議室
第二回講座 (10/10) : ライオン像の家 (旧直江津銀行) ~まちあるき
第三回講座 (11/7) : 直江津学びの交流館 1階 イベントホール
第四回講座 (11/27) : 同 上
第五回講座 (12/11) : 同 上

申込

お申し込みは裏面の講座スケジュール&申込書の「申込欄」に○印とお名前、ご住所、連絡先等をご記入の上、FAXにてご送付願います。

TEL&FAX 025-543-6226 磯田まで

- ◆カメラのファインダー越しに覗いてみると「新しいまちの魅力」が見えてくるよ!
- ◆ワークショップでは気楽に会話を楽しみながら”ワイワイ・ガヤガヤ”話し合おう!



講座スケジュール&申込書

講座は連続講座ですが、都合の付く講座のみの受講も可能ですので、ぜひご参加ください！
お申込みはこの用紙の申込み欄に○印を記載いただき各講座開催日の7日前までにFAXにてお申し込みください。（講座時間は各開催日とも午後1：30～4：30を予定しています）

■お問い合わせ、申し込みは **TEL&FAX 025-543-6226**

回	日時	会場	内容	申込欄
第一回	9/26 日曜日	レインボーセンター 3F 第三会議室 住所：上越市中央1-16-1 TEL：025-544-2112	第一部：三八朝市エリアにおける地域ブランドマネジメントとは 講師/ 地域住環境建築研究所 代表 磯田 一裕 第二部：直江津のまちの成り立ちを知ろう！ 講師/ 新潟県文化財保護指導委員 小島 幸雄氏	参加する ・ 参加しない
第二回	10/10 日曜日	ライオン像の家 (旧直江津銀行) 住所：上越市中央3-7-31	第一部：直江津のまちの構造を知ろう！ 講師/ (有)北越出版 代表取締役社長 佐藤 和夫 第二部：デジカメ持ってまちあるき！ 路地の魅力を再発見！ 講師/ (有)北越出版 代表取締役社長 佐藤 和夫 地域住環境建築研究所 代表 磯田 一裕 第三部：まちあるき魅力発表ワークショップ 講師/ 地域住環境建築研究所 代表 磯田 一裕	参加する ・ 参加しない
第三回	11/7 日曜日	直江津学びの交流館 1F イベントホール 住所：上越市中央1-3-18 TEL：025-544-4723	第一部：三八朝市エリアのまちの強みを知ろう！ 講師/ (有)北越出版 代表取締役社長 佐藤 和夫 地域住環境建築研究所 代表 磯田 一裕 第二部：三八朝市エリアにおけるブランド・マネジメント・1 「ブランド・ビルディング」ワークショップ 講師/ 地域住環境建築研究所 代表 磯田 一裕	参加する ・ 参加しない
第四回	11/27 土曜日	直江津学びの交流館 1F イベントホール 住所：上越市中央1-3-18 TEL：025-544-4723	第一部：三八朝市エリアのまちの強みに磨きをかけよう！ 講師/ (有)北越出版 代表取締役社長 佐藤 和夫 地域住環境建築研究所 代表 磯田 一裕 第二部：三八朝市エリアにおけるブランド・マネジメント・2 「ブランド・マーケティング」ワークショップ 講師/ 地域住環境建築研究所 代表 磯田 一裕	参加する ・ 参加しない
第五回	12/11 土曜日	直江津学びの交流館 1F イベントホール 住所：上越市中央1-3-18 TEL：025-544-4723	第一部：三八朝市エリアのまちの強みを発信しよう！ 講師/ (有)北越出版 代表取締役社長 佐藤 和夫 地域住環境建築研究所 代表 磯田 一裕 第二部：三八朝市エリアにおけるブランド・マネジメント・3 「ブランド・コミュニケーション」ワークショップ 講師/ 地域住環境建築研究所 代表 磯田 一裕	参加する ・ 参加しない
お名前			ご連絡先 (電話番号)	
ご住所			メールアドレス	
■ご意見・ご要望欄				

※記載いただいた個人情報は当会の講座及び見学会等のご連絡以外使用いたしません。

二十四日、「中吉川」の 釜場のシヤッターが 開きます！

※中吉川
巻のまちなかにある旧醤油醸造元で、昭和二十年代まで製造を続ける。
その製品は主に新潟市へ出荷され、高級料亭でも使われていた。
醤油のほか、味噌、酢、ソースの製造、販売も行っていた。
現在は、その遺構として、醤油蔵、釜場、レンガの煙突などが残る。

中吉川プロジェクトは「中吉川」をきっかけにまちを楽しむ方法を考える取り組みです。

■中吉川ワークショップ

日時 10月24日(日)13時~17時
会場 「中吉川」釜場跡(巻東浦通り)
入場無料

■板張り作業の参加者募集

ワークショップの一環として、釜場跡の外壁修復(板張り)を行います。
参加費 1,000円(板1枚)

もうはじまっています、数年後のまちのかたちづくり。

中吉川プロジェクトは「中吉川」をきっかけにまちを楽しむ方法を考える取り組みです。きっと何もしなければ、まちなかは今のままです。ある日突然、にぎやかなまちになることはまずないでしょう。

近年、全国の市町村でシャッター街が増えていると聞きます。その一方で、とてみにぎやかなまちがあることも確かです。

その違いは一体为什么呢？

その答えはわかりませんが、自分たちの暮らしに密接するまちなかはやはり、活気がある方が良くと思います。たとえ今は理想と現実がかけはなれていても、少しずつ、丁寧に、アクションをおこせば、小さな違いが生まれ、前よりも少し良くなります。それが続けられたら、もうちょっと良くなります。さらに、ずーっと続けられたらもっと良くなります！

言うのは簡単ですが、数年後の巻のために、今から少しだけ一緒にたのしみませんか？「中吉川」ではそんなメニュー、用意してあります！



板張りプロジェクト第1弾 2010 / 7



7月に板張りをしたところ 中吉川



100万人のキャンドルナイト「中吉川×鯛車」 2009 / 12

〈タイムスケジュール〉

13:00 開店 (オープニング)
ご当主の吉川さんから当時の様子をお話いただきます。

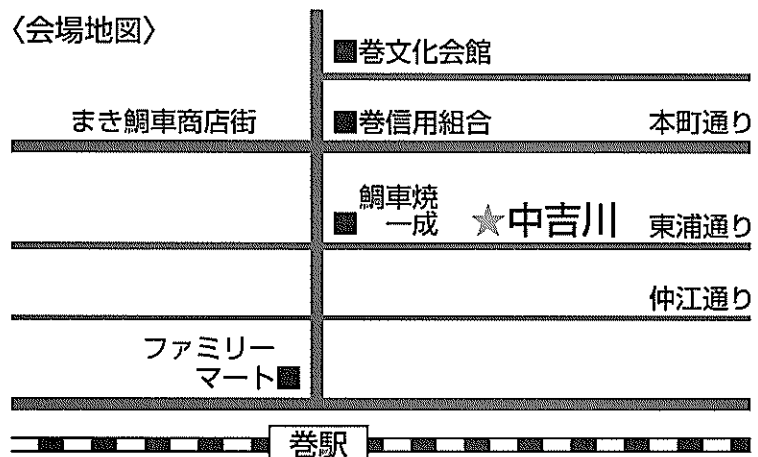
13:30~
○ミニカフェ開店
ケーキ販売を予定しています。

○板張りプロジェクト第2弾開始!
会場となる釜場跡の外壁に皆で板張りをして修復します。ぜひご参加を!
板を1枚 (1,000円) 購入していただくことで板の裏に署名することもできます。

これまでの中吉川プロジェクト活動パネルや鯛車を展示

17:00 閉店

〈会場地図〉



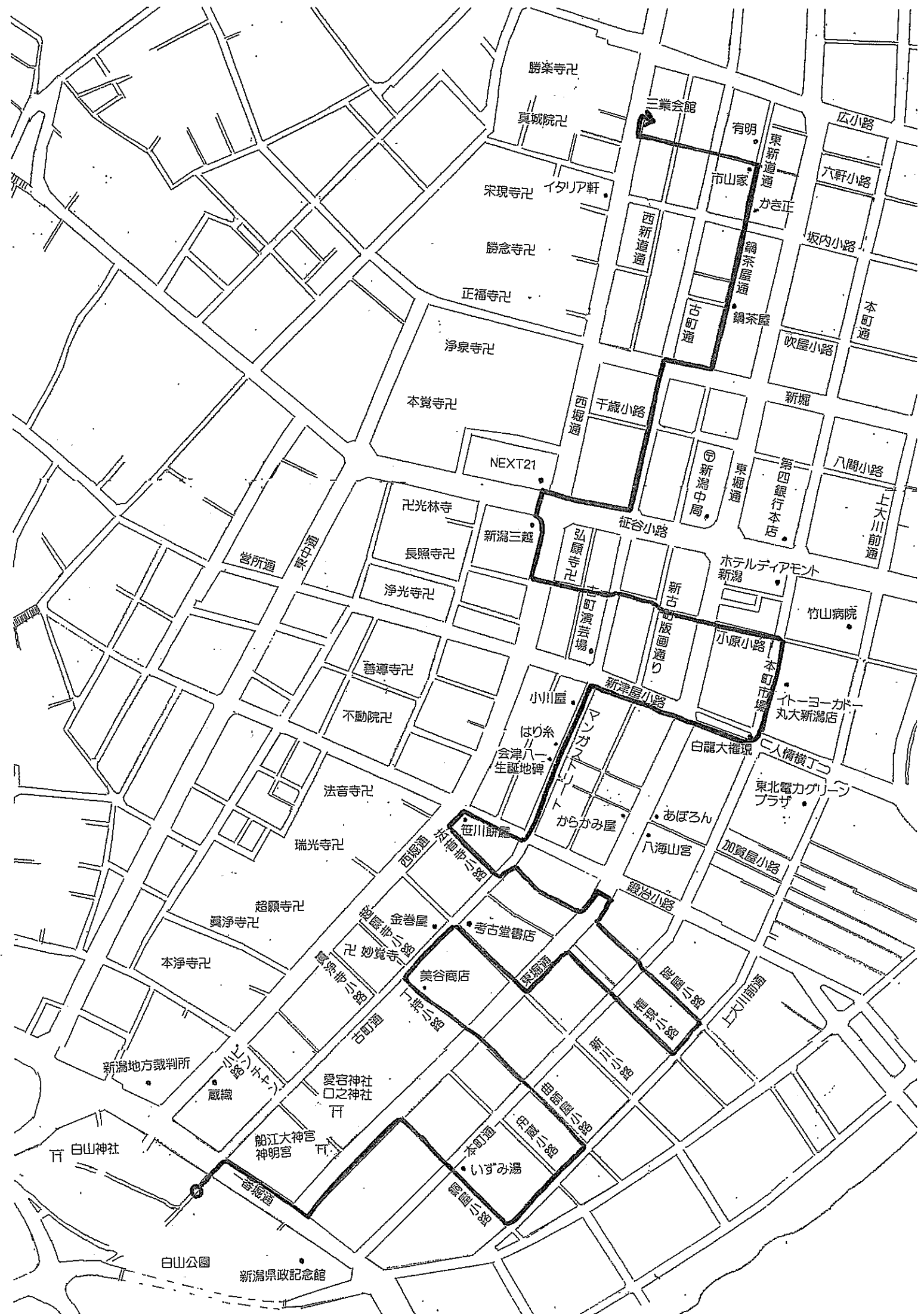
まちあるき記録

10月23日 ROJINORI まちあるき

コース紹介，マップ，記録写真

ROJINORI まちあるき 白山神社～三業会館

- 白山神社 御祭神は菊理媛大神(ククリミノオオカミ)別名白山比咩大神(シラヤマヒメオオカミ)とい
い、加賀白山頂上に祀られている女の神様。創建の年代ははっきりしないが戦
国時代、上杉景勝が鏡を寄進したといわれる。長岡藩主牧野氏自ら監督して造
営し、正保4年(1647)三間社流造の本殿が竣工した伝えられる。明治6年(1873)
公園を造るため松林に点在する摂社、末社13神を本殿に合祀した。拝殿は本殿
竣工の翌年、慶安元年((1648)の造営と伝えられ、昭和34年(1959)修理と共に
萱葺き屋根を銅板に変えた。
- 金巻屋 創業明治4年の和菓子専門店。抹茶と季節の和生菓子がおいしい。
- 考古堂書店 医学関連の書籍を専門に扱う書店。良寛をはじめとする郷土書、謡本も充実。新
川小路の外壁に良寛の壁画がある。
- 法音寺 道教え六地藏、3代目新潟奉行小栗又一、甘泉翠翁、中田瑞穂らの墓がある。
- 笹川餅屋 敷地は、長岡藩領時代牢屋敷があったところ。創業明治16年、新潟の餅屋で最
も歴史のあるお店。先代の勇吉氏は、笹団子を昭和39年の新潟国体にあわせ、
保存が利くように改良。それが評判を呼んで、「新潟の笹団子」は特産品として全
国に知れ渡った。また、氏は郷土史家でもあった。
- マンガストリート 新潟市出身の漫画家水島新司さん代表作「ドカベン」、「あぶさん」、「野球狂の
詩」のキャラクター像7体が並んでいる。
- 会津八一生誕地碑 会津八一は明治14年(1881)8月1日、新潟市古町通五番町に生まれる。父政次
郎は葛塚・市島家出身。母イクは料亭會津屋の娘。八一は3男4女の次男。
- はり糸 創業明治6年。新潟で初めて古町5番町のこの地でカステラを焼いて以来、新潟
で「カステラ」と言えば「はり糸」と言われている。
- 小川屋 明治27年、小川駒吉により創業。魚の加工品の他甘露梅、いちじく甘露煮、三色
漬などが有名。店内には左甚五郎作と伝えられる狛犬がある。
- 人情横丁 本町中央市場。戦後(1946-)堀が埋められできた。
- 白龍大権現 昭和28年(1953)大河津に流れ着いた一体二頭の龍神像を祀ったという。
- 本町市場 本町5・6に通年開設(2のつく平日休業 営業時間8:00-17:00)。明治6年(1873)
県によって定められた市場で、南市場と呼ばれた。
- 弘願寺 昭和44年発起人岡本治峰が建立。弘法大師(空海)像は高さ30尺(約9.1m)。
- NEXT21 旧市役所跡地に平成6年(2004)オープンした商業ビル。地上21階、高さ125m。
- 鍋茶屋 弘化3年(1846)年の創業と伝えられる料亭。すっぽん鍋が名物であった。古町花
街と共に多くの文人墨客に愛されてきた。母屋は明治43年(1910)の建築。ほか
昭和12年(1937)建築の建物等あわせて7棟が国登録有形文化財。
- 市山流宗家宅 新潟を代表する日本舞踊市山流宗家住宅兼稽古場。市山流は、新潟市無形文
化財第1号(平成15年)に指定されている。宗家6世七十郎(平成18年死去により
解除)、4世家元七十世(川田純子)。市山流は歌舞伎舞踊の中でも古い流儀で
あり、3代目市山七十郎(岩井仲助)が晩年大坂から新潟に移り、本拠とした。4代
目以降は女性。
- かき正 創業昭和4年の料亭。創業者はホトギスの同人(高橋春霞1977年没)で、終戦
時から高浜虚子、高野素十、中田瑞穂、高橋すすむらと句会を開いた。
- 三業会館 昭和39年完成。三業組合(料理屋、置き屋が出資)、柳都振興株式会社が入
居。ほかステージホール洋室(会議室等)。



勝楽寺祀

真城院祀

宋現寺祀

勝念寺祀

正福寺祀

浄泉寺祀

本覚寺祀

日光林寺

長照寺祀

浄光寺祀

善導寺祀

不動院祀

法音寺祀

瑞光寺祀

超願寺祀

真浄寺祀

本浄寺祀

愛宕神社

船江大神宮

神明宮

白山公園

新潟県政記念館

三業会館

有明

市山家

かき正

鍋茶屋通

鍋茶屋

新湯中局

ホテルティアモント

新潟

イトーヨーカドー

丸大新湯店

東北電カグリーン

プラザ

加賀屋小路

加賀屋小路

加賀屋小路

加賀屋小路

加賀屋小路

加賀屋小路

加賀屋小路

加賀屋小路

広小路

六軒小路

坂内小路

吹屋小路

新堀

八間小路

上大川前通

竹山病院

本町市場

人情横丁

白龍大権現

あぼろん

八海山宮

加賀屋小路

加賀屋小路

加賀屋小路

加賀屋小路

加賀屋小路

加賀屋小路

加賀屋小路

加賀屋小路

加賀屋小路

加賀屋小路

加賀屋小路

西新道通

古町通

千歳小路

西堀通

弘願寺祀

町演芸場

新湯屋小路

からかみ屋

美谷商店

美谷商店

美谷商店

美谷商店

美谷商店

美谷商店

NEXT21

新湯三越

新湯三越

小川屋

はり糸

会津八一

生誕地碑

寺古堂書店

寺古堂書店

寺古堂書店

寺古堂書店

寺古堂書店

寺古堂書店

寺古堂書店

寺古堂書店

寺古堂書店

金巻屋

妙覚寺

美谷商店

美谷商店

美谷商店

美谷商店

美谷商店

美谷商店

美谷商店

瑞光寺祀

瑞光寺祀

瑞光寺祀

瑞光寺祀

瑞光寺祀

瑞光寺祀

瑞光寺祀

瑞光寺祀

瑞光寺祀

超願寺祀

超願寺祀

超願寺祀

超願寺祀

超願寺祀

超願寺祀

超願寺祀

超願寺祀

超願寺祀

真浄寺祀

真浄寺祀

真浄寺祀

真浄寺祀

真浄寺祀

真浄寺祀

真浄寺祀

真浄寺祀

真浄寺祀

本浄寺祀

本浄寺祀

本浄寺祀

本浄寺祀

本浄寺祀

本浄寺祀

本浄寺祀

本浄寺祀

本浄寺祀

白山神社

白山神社

白山神社

白山神社

白山神社

白山神社

白山神社

白山神社

白山神社

シンポジウム記録写真



会場入り口の看板



会場受付の様子



野内実行委員長開会挨拶



東京スリバチ学会皆川会長 基調講演



参加団体からの活動報告



会場の展示パネル・スタンプラリー



パネルディスカッション 第1部





パネルディスカッション 第2部





交流会 第1部



交流会 第2部 夜学

まちあるき記録

10月24日

新潟シティガイドがお勧めする

「みなとまち新潟・まちあるき」

コース紹介，記録写真

全国路地サミット in NIIGATA

10月24日(日) 10:00~12:00

新潟シティガイドがお勧めする「みなとまち新潟・まちあるき」

コース1 「下町お店うんめえもん巡り」(みなとぴあ~NEXT21)

みなとぴあ 新潟市歴史博物館本館 平成16年オープン。外観は現在のNEXT21の場所にあった明治44年(1911)建築で、昭和8年(1933)焼失の2代目新潟市庁舎を1.6倍に拡大。

旧新潟税関庁舎 明治2年(1869)新潟運上所として建築され、昭和41年まで使用。塔屋の高さ15m。昭和44年国登録有形文化財、敷地は史跡。

石山味噌醤油(株) 明治39年(1906)信濃川に近い現地で創業。創業当初の建築になる3棟の味噌蔵は桁行き33mの長大な木造建築。現在も稼働している明治後期の味噌製造工場としての価値は高い。

明治屋ゆかり店 明治33年(1900年)創業。「ゆかり」はおこし種に柚子入り砂糖蜜をかけてとげとげを作る珍しいお菓子。現在作っているのはここだけ。

さわ山 大正初期の創業。大福、草餅、笹団子が人気。

小森豆腐店 豆乳ソフトクリームがおいしい。

鍋茶屋 弘化3年(1846)年の創業と伝えられる。すっぽん鍋が名物であった。古町花街と共に多くの文人墨客に愛されてきた。母屋は明治43年(1910)の建築。建物7棟が国登録有形文化財。

NEXT21 平成6年(2004)オープンした商業ビル。地上21階、高さ125m。



コース2 「にいがた湊巡り」(みなとぴあ～みなとぴあ)

湊稲荷神社 享保元年(1716)創建と伝えられる。新潟港に来る船はこの神社の森を目当てに進み、上陸して海上安全と舟運長久を祈った。近くの船宿で働く女性たちの信仰も厚く、道楽稲荷と呼ばれた。回る「願懸け高麗犬」は市指定有形民俗文化財。

金刀比羅神社 明治30年(1897)奉納の「難船彫刻絵馬」は市有形民俗文化財。文政5年(1822)廻船問屋鈴木彌五左衛門の持ち船白山丸が遭難から救われた様子が彫られている。

日和山 標高27m、信濃川河口付近の唯一の高台で、日和見や入港する船の見張りに使われた。享保5年(1720)新潟の廻船問屋は、伊藤仁太郎を専任の水戸教(水先案内や海難救助をする仕事)とした、以後伊藤家の世襲となり、場所は移転したが、県の直営となる昭和4年(1929)まで続いた

旧小澤家住宅 新潟を代表する商家として明治初期には廻船問屋を営み、やがて運送倉庫業、米穀流通、地主経営に進出。現在の建物は、母屋が明治13年(1880)の大火の直後に建てられ、その他は明治末期に増築されたと思われる。庭園は、明治末期に作られ、廻船で運ばれた紀州石、御影石、佐渡の赤玉石等諸国の庭石が見られる。平成18年市指定有形文化財。



コース3 「西大畑お屋敷めぐり」(NEXT 2 1～NEXT 2 1)

イタリア軒 フランス曲馬団の調理師でイタリア人のピエトロ・ミリオレーが明治7年(1874)新潟で最初の西洋食品店(牛肉・牛乳)兼料理店(牛鍋)を開業した。明治13年(1880)の大火の翌年に現在の場所に移り、イタリア軒と名付けた。昭和26年(1951)改築、レストラン兼ホテルとして営業している。

地獄極楽小路 昭和46年(1971)までは、行形亭の隣に新潟刑務所があり、そこを「地獄」、華やかな酒宴が毎夜繰り広げられる行形亭を「極楽」になぞらえてその間にある通りを「地獄極楽小路」と呼ぶようになったといわれる。

行形亭 江戸時代初期の元禄年間(1688-1704)創業と伝えられる。この辺りは海岸の砂丘地で、防砂の松林の中に浜茶屋を営んだのが最初といわれる。平成12年(2000)主屋、離れ座敷、湯殿、門、塀など10件が国の登録有形文化財に指定された。

旧齋藤家別邸 新潟三大財閥といわれ、貴族院議員も務めた豪商・齋藤喜十郎が、大正7年(1918)に避暑のために造った別邸。敷地面積は4,400平方メートル。砂丘の斜面を利用した回遊式庭園の評価が高い。庭園の池に映る月を楽しんだとされる2階の観月亭では大規模な茶会や本因坊戦が行われた。

砂丘館 旧日本銀行新潟支店長役宅。昭和8年(1933)の建築。戦前の日本銀行の役宅として現存するのは福島と新潟だけ。

ドッペリ坂 坂の上に旧制新潟高校の寮がありこの坂を下って街に遊びに行くと落第するとのことから名づけられたという。実際には坂の形状が2段になっていることでこの名がついた(2重=ドッペルン[独語])。

新潟カトリック教会 明治18年(1885)、この地に聖堂が建てられた。現在の建物は昭和2年(1927)の建築で、昭和4年にはドイツ製パイプオルガンを設置。平成8年(1996)に改修された。

オギノ公園 荻野久作自宅跡地。荻野久作は東京帝国大学医科大学を卒業後、明治45年(1912)新潟市中央区の竹山病院の産婦人科医長に迎えられた。大正13年(1924)荻野学説(排卵期を次回月経から逆算するというもの)を発表。昭和26年(1956)新潟市名誉市民。



コース4 「本町・上古町巡り」(NEXT 2 1～白山神社)

- 弘願寺 昭和44年発起人岡本治峰が建立。弘法大師(空海)像は高さ約9.1m。
- 本町市場 明治6年(1873)県が制定した市場で南市場と呼ばれた。
- 水島新司マンガストリート 新潟市出身の漫画家水島新司の「あぶさん」、「ドカベン」、「野球狂の詩」のキャラクターブロンズ像7体(平成14年12月完成)が並ぶ。
- 小川屋 漬物屋。明治27年小川駒吉により創業。甘露梅、いちじく甘露煮、三色漬などが有名。店内には左甚五郎作と伝えられる狛犬がある。
- はり糸 菓子屋。明治6年(1873)現在地で創業。屋号は播磨屋の糸蔵に由来する。明治期より新潟でカステラと言えはり糸と言われた。他に梨の実を使ったありの実が人気。
- 笹川餅屋 明治16年(1883)創業で笹団子の老舗。鮭まんじゅうも有名。故笹川勇吉氏は郷土史家で、明治～昭和の絵葉書コレクションを県立歴史博物館に寄贈。
- 愛宕神社 古町通二番町 慶長14年(1609)創立。京都の愛宕神社から分霊されたもので、本殿は桁行き梁間が各1間の一間社流造で木羽葺き、建築は1700年代前半といわれる。
- 口ノ神社 愛宕神社の境内社。千葉県口ノ宮の祭神木内惣五郎の分霊を迎え、明治17年(1884)に建立された。明和5年(1768)の新潟明和事件で処刑された涌井藤四郎や岩船屋佐次兵衛など明和義人を密かにお祭りした。
- 船江大神宮 明暦年間(1655-)以後、船江神社と神明宮が同じ境内に建ち、やがて「船江大神宮」と呼ばれるようになり、安政5年(1858)二社が合祀された。
- 白山神社 御祭神は菊理媛大神(ククリノミコ) 別名白山比咩大神(シラヤマヒメノミコ)といい、加賀白山頂上に祀られている女の神様。創建の年代ははっきりしないが戦国時代、上杉景勝が鏡を寄進したといわれる。長岡藩主牧野氏自ら監督して造営し、正保4(1647)年三間社流造の本殿が竣工したと伝えられる。明治6年(1873)公園を造るため松林に点在する撰社、末社13神を本殿に合祀した。

